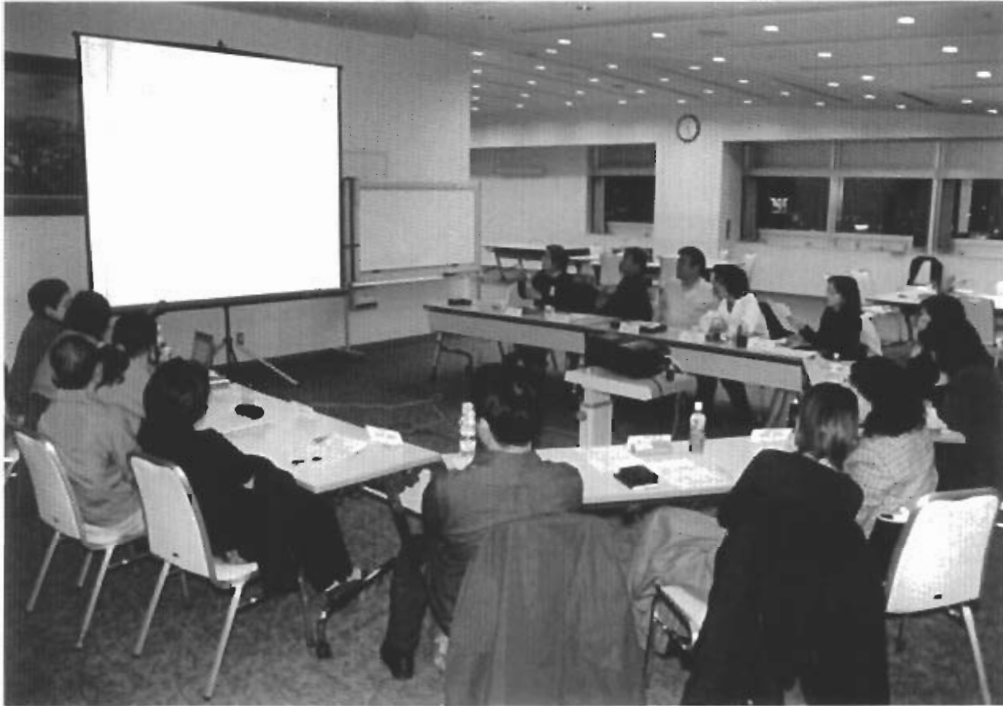


「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」 報告書

平成 14 年 3 月

社団法人農林水産先端技術産業振興センター

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」報告書



「市民の提案」とりまとめ風景<横浜>



「市民の提案」とりまとめ風景<仙台>



プレゼンテーション<横浜>



総合コミュニケーション<横浜>



KJ法によるとりまとめ<仙台>



KJ法によるとりまとめ<横浜>



追加コミュニケーション<仙台>



小グループに分かれてのとりまとめ
<仙台>

はじめに

(社) 農林水産先端技術産業振興センター
理事長 畑中 孝晴

2001年、世界における遺伝子組換え作物の栽培面積はおよそ5千万ヘクタールと日本の全農地面積の10倍を超えるまでに増加してきました。その種類もダイズ、トウモロコシ、パレイショ、ワタ、ナタネ、パパイヤからカーネーションまで幅広いものとなり、さらに、我々の身近なほとんどの作物について各国で実用化をめざした研究開発が進められています。また、現在は除草剤耐性や害虫抵抗性の作物などが主力ですが、ビタミンを強化したり、アレルゲンを除去したり、ワクチンを含ませたりと組換えの内容も多様化しつつあります。

遺伝子組換え技術は、従来の品種改良法では限界のあるこうした様々な特性を作物に付与することが可能となる「夢の技術」として技術者の情熱をかきたてています。

一方、多くの消費者は今までにない「夢の技術」が遺伝子組換えという耳慣れない言葉ですばらしいと語られれば、語られるほど大丈夫だろうかという不安感を完全には払拭出来ないうでいます。特にその安全性について技術者の確認した「安全」と消費者の感じる「安心」との開きは少なくないように思われます。

こうした開発担当技術者と一般消費者との間に生じる溝は、遺伝子組換え作物の問題に限らず、最先端医療のようにものすごいスピードで進歩する現代の高度な先端技術共通のものだともいえます。

この溝を埋めるためには、技術者側からこれだけの調査、研究を行ってきたのだから「安全」だと発信するだけでなく、消費者が「安心」を得るために求めるものは何か、それを問うてみて、その間に応えることしかないのではないかと。

そこで、当センターでは農林水産省の助成をうけて昨年度、コンセンサス会議方式によって、「安心」を求める側から、遺伝子組換え技術をどう理解し、何を求めているのかを提言して頂きました。

今年度もテーマは同じであるが、地域によって意見も異なるのではないかとこの思いもあって、消費地域の横浜、農業生産地域の仙台の2カ所で、公募した一般の方々により、「安心」のための提言をまとめて頂くための市民会議を開催しました。

前回は委員が全日程に立ち会う等運営委員会がすべてを取り仕切ったが、今回は企画委員会で実施方針を決めて頂いた上で、委員は同席せず会議は世話人、運営は事務局の責任で進める方式としました。前回の経験を生かしていろいろ工夫してみましたが、終わってみると反省すべき点が多々ありました。

また、今回は幸いにもエバリュエータとして、筑波大学小林信一先生が会議に参加されたので、示唆に富むレポートをこの報告書に掲載することが出来ました。

ともかく、参加市民の皆さんには、性別、年齢、職業も異なり、考え方も様々で、しかもはじめて顔を合わせたにもかかわらず、世話人のご努力もあって大変熱心に活発な話し合いを続けて頂き、時間に追われながらも「市民の提言」を立派に仕上げて頂きました。

我々はこの貴重な提言をもとにして、年度内に若干の調査研究に着手するとともに、今後遺伝子組換え農作物・食品の安全性などの施策へ反映して頂くため、農林水産省、厚生労働省、文部科学省に要望書を提出しました。

この報告書も前回同様、他の市民会議等のお役に立つよう、結果だけでなくそこに至る過程にも重点をおいてまとめました。

この会議は参加市民はじめ巻末に掲げた多くの方々のご協力で順調に進めることができました。ここにあらためて御礼申し上げます。

エバリュエータの視点

－「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」を観察して－

小林信一（筑波大学）

1. はじめに

2001年秋に横浜、仙台で開催された「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」をエバリュエータとして観察する機会を得た。エバリュエータの視点から、同会議の問題点、今後の課題を指摘したい。

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」は、コンセンサス会議と呼ばれる市民参加型テクノロジーアセスメント手法に準拠した会議である。この手法についての解説は省略するが、その成功のためには、会議の公平性、中立性が鍵となる。しかし、会議そのものは限定された参加者により構成され、多くのプロセスは非公開なので、運営に公平性、中立性が担保されているか否かを客観的に評価することは困難である。そこで登場するのが、エバリュエータである。エバリュエータは、会議の参加者（市民パネル、専門家パネル）、運営者から独立な立場から、会議の全プロセスを観察し、公平性、中立性が担保されているかを評価する。今回の会議でエバリュエータの役割を担ったのが筆者である。

エバリュエータは、本来会議のスポンサーからも独立であることが望ましいが、非公開の会議の傍聴をするなど、会議の運営とは一定の関連を有する必要があるため、何らかのオーソライズが必要となる。今回は、会議の運営からは独立に、しかし同一のスポンサーである農林水産技術会議事務局からの依頼の形で、筆者はエバリュエータの任にあたった。したがって、会議の企画運営、専門家パネルや市民パネルの選定などにはまったく関与していないし、議論にも参加していない。

エバリュエータは、会議が公平、中立的に実施されたか否かを判定することが、主たる任務である。さらに、会議の運営の観察、参加者等への事後的なインタビューなどにより、会議の問題点や、今後の課題を抽出することが、副次的な、しかし重要な任務となる。本レポートは、まさにこれらの課題に答えようとするものである。

なお、エバリュエータとしての任務は、このレポートを書くことによって終わるのではない。当然ながら、会議が公平、中立であったか否かを社会に対して発表すること（社会一般というよりは、この種の活動に関して判断が可能な専門家や関係者に対して提示し、彼らの評価を受ける形態をとることが多い）で、はじめてその役割を全うできる。したがって、このレポートは速報という位置付けになる。

以下では、会議の運営の観察、参加者等への事後的なインタビューなどを通じて得られた知見を整理して示したい。

2. 総合的評価

2001年度に、横浜、仙台で開催された「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」は、概ね成功と判断できる。公平性、中立性についても、最終的な「市民の提案」に影響を及ぼすような問題はなかったと判断できる。

(1) 新方式導入について

今回の「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」は、昨年度のケースとは異なる方式が取り入れられた。大きい相違点は、企画委員会方式の導入、中間取りまとめ方式の導入、ローカリティの重視の3点である。

・企画委員会

昨年度は、運営委員会方式を採用し、STAFFは運営委員会の下で実施を担当する形式をとった。それにより、実施組織がバイアスを掛ける可能性を排することにした。これに対して、今年度はSTAFFが会議の運営・実施組織の役割を担い、企画を担当する組織として「企画委員会」を設置した。これは、前回の経験を通じてSTAFFがコンセンサス会議の運営ノウハウを習得したこと、運営委員会方式を採用する場合に生じる時間のロスを回避すること、などの理由に拠る。

・中間取りまとめ

昨年度は、「鍵となる質問」を取りまとめ、最後に「市民の提案」をとりまとめる方式を採用していた。しかし、この方式では「市民の提案」の取りまとめに非常に時間がかかるという問題がある。そこで、「鍵となる質問」と「市民の提案」の準備を兼ねたような「中間取りまとめ」を導入した。

・ローカリティ

上記2点は形式的な面での相違であるが、実質的な意味で最大の相違点は、昨年度が全国規模のコンセンサス会議であったのに対して、今年度は食品の消費地としての色彩の濃い都市、生産地またはその近隣としての側面を有する地方都市の2箇所で開催したことである。

これらの方法上の相違は、厳密な意味でのコンセンサス会議方式からの逸脱と評価することも可能である。典型的なコンセンサス会議方式は手続き的な完成度が高く、それにより会議運営の公平性、中立性や市民の提案の公共性などの性格が担保されている。しかしながら、我が国ではコンセンサス会議の経験も少なく、また文化的条件の違いなどに対する微調整なども必要であり、さまざまな方式を実験してみることに意味がある。その意味で、今年度の会議が標準的な方式から逸脱していることをもって失敗であると断ずるべきではない。

むしろ、このような逸脱があっても、会議の運営、「市民の提案」の導出、参加市民の満足感などには大きな違いがなかったことがわかった点は重要である。つまり、コンセンサス会議方式は形式の若干の変更に対して頑健な性質（ロバストネス。条件の違いが多少あっても、安定的な成果を生むことができる性質）を持つことが明らかにされたといっていよう。ただし、形式の変更にはトレードオフがある。例えば、後述するように、「鍵となる質問」を専門家にぶつけないため（このためだけではないが）、専門家パネル間の論点の不一致、専門家パネル全員による討論の欠如といった問題も浮き彫りになっている。このような問題は、運営方法の改善の課題となろう。

(2) 問題点

しかしながら、個別の運営などで問題がなかったわけではない。個別の問題点については後述するが、以下の2点は改善を要する問題点である。

・企画委員の一部が専門家パネルとして参加したこと

・専門家パネルとして参加した関係者の所属する企業の関係者（当人は会議には関与していない）が、会議の実施中（会議と会議のあいだ）に市民パネルの一部と会い、遺伝子組換え農作物に関して情報交換を実施したこと

これらはいずれも悪意によって行われたことではないし、市民パネルの意見の取りまとめにバイアスを掛けた様子は認められなかった。また、個人的な問題というよりは、コンセンサス会議の方式の未熟さに起因するシステムの問題である。しかし、「市民の会議」が限定された参加者により構成され、そのプロセスの多くが非公開で実施されるという性質のため、これらの2点を根拠として公平性、中立性に対する疑義を唱えられる可能性がある。このような問題に対して評

価するのもエバリューエータの役割であり、そのような立場からは、重大な瑕疵があったとは判断しない。しかしながら、形式的なことだとは言え、疑念を持たれるような状況は可能な限り避けるべきであろう。また、コンセンサス会議方式をさらに充実したものに進化させなければならない。

3. 各論

(1) 会議のデザイン

参加市民のあいだでは、農民と消費者がともに参加した結果、それぞれの立場の意見を聞いたことに対する満足感が高かった。同様なことは、女性と男性と一緒に議論する機会が得られたことに満足を表明する者もいた。参加市民の異質性は重要な条件といえよう。

しかし、消費地と生産地の2箇所で開催したことについては、その異質性のメリットは必ずしも明確でない。今後、全国展開していけば、その中に位置付けることができよう。そうではなく、今回限りでのメリットを得ようとするならば、何らかの工夫が必要だったかもしれない。横浜、仙台の両会議に参加した市民の代表が集まって、3月に実施された座談会は、運営方法等をテーマとしたものであって、会議そのものの目的からは離れている。したがって、座談会そのものは2箇所で開催したことを生かすものではない。例えば、会議の途中または最後に、横浜、仙台の参加市民が交流する機会を設けるなどの工夫も考えられる。しかし、時間的制約などの問題もあり、熟考を要する。

横浜では、開催日を分散し、合宿しない方式で会議を進めた。一方、仙台では2回の合宿方式で実施された。合宿しない場合には、参加者の意思疎通に難があるように思われる。しかし、合宿する場合には参加できる人が限られるという問題もある。また、参加市民全員で懇親をする機会（要するに酒を飲みながらじっくり話をする機会）が欲しいとの意見も聞かれた。これを会議運営者が用意することは困難であろうが、宿泊施設の外で集まるにも人数が多く容易ではないという問題もあり、一考を要する問題である。また、泊まり掛けで農業現場等を見学した上で議論したらよいのではないかという意見もあった。さまざまな試みが必要であろう。

企画委員の一部が専門家パネルの一員として説明したことには問題が残る。該当する委員が、推進派であるにせよ、慎重派であるにせよ、企画委員が直接市民パネルに説明すれば、企画委員会として何らかのバイアスをかけようとしていると推測される可能性がある。できることならば、説明者は市民パネル自身が選考するか、それが困難であれば、企画委員会の助言によって選考することが理想である。とはいえ、このことを実現するのは非常に難しい。専門家を探考することが困難であるという現実的問題がある。本質的には、コンセンサス会議の社会的認知を上げることを通じて解決するしかない問題である。

(2) 会議の運営

会議の運営に関しては、3点の問題点がある。

第1は、世話役（ファシリテータ）の問題である。仙台と横浜では、ファシリテータの関与の仕方、会議の進め方に違いがあったように思える。どちらかといえば、仙台のファシリテータの方が、時間管理にこだわると同時に積極的に関与していた感がある。それでも、いずれの会議でも、市民パネルにはファシリテータの役割がどのようなものか理解しにくかったようである。ファシリテータ自身も自分の役割を十分に認識していたかは怪しい。これは、コンセンサス会議の経験が浅く、それに参加したり、ファシリテータを経験した人材が少ないということから派生している面もある。コンセンサス会議を経験してはじめて、コンセンサス会議の勘所を理解できるという面があるため、まったく経験のない人に、ファシリテータをさせることは困難であるに違いない。また、コンセンサス会議の意味に対する理解や、コミュニケーション能力など、ファシリテータの資質をどう定義していくかも、今後の課題である。一つの可能性としては、コンセンサス会議の経験者の中からコミュニケーション能力に長けた人材を選び、必要なトレーニングを

授けるなどして、養成していく方法が考えられる。

第2の問題は、運営者たる STAFF の役割である。STAFF はあくまで、コンセンサス会議の運営を支援する事務局、裏方である。しかし、同時に遺伝子組換え農作物に関する専門家の集団でもある。横浜の市民パネルは、STAFF に資料の整理を要請したが、このようなときに STAFF はどのように振る舞うべきかは、あらかじめ十分に検討されていたとはいえない。典型的なコンセンサス会議においては、運営主体は特定の技術の専門家ではなく、コンセンサス会議の運営に関する専門家である。今回の会議においては、運営者が当該技術の専門家であるという構図になっており、問題を複雑にしている。専門家である以上、専門家パネルと市民パネルのあいだで、また推進派と慎重派のあいだで、厳密な意味での中立を維持することは困難である。市民パネルが、バイアスが存在しうることを了解してくれれば問題はないが、そうでない場合には議論そのものにバイアスがかかることを否定できない。

エバリュエータとしては、STAFF は中立性、公平性に最大限の注意を払い、作業を進めたと判断している。市民パネルの要請にも十分に応えたものと推測している。しかし、このような作業については、あらかじめルールが明確でなく、市民パネルの要望にもとづいて実施されたものである。公平性を確保するためには、形式的であるとはいえ、ルールを明確にしておく必要がある。今回の経験は、その意味でよい教訓をもたらしてくれたものと考えられる。ただし、何もかも運営者に作業させればよいというものでもないし、逆にすべて参加市民の手で作業を進めることを徹底するという原則に立ち返ればすむという問題でもない。その中間のどこかに、現実的な答えがあるはずであり、そのためにも、一定の運営ルールを定めておくべきであろう。

第3の問題は、専門家パネルの持ち方である。昨年度のコンセンサス会議では、事前の学習の後、「鍵となる質問」を市民が作成し、それを専門家パネルに投げかける形で会議を進めた。しかし、今年度は、専門家の説明の後で「中間とりまとめ」を行い、その後でさらに聞きたい事項についてさらに専門家に話を聞くという方式で行った。一見したところ大きい相違はないように見えるが、「鍵となる質問」を専門家パネルにぶつけることで、市民パネルが設定した枠組みに沿って、一堂に会した専門家が回答することにより、共通の論点に対するさまざまな意見を聞くことができる。

今年の場合には、専門家をいくつかのグループにまとめて、グループごとに質疑応答をした。このため、市民パネルは論点を絞る前の段階で質問しなけりばならなかった。また、同じ論点について、専門家パネルとして参加しているすべての専門家が一堂に会して討論する場はなかった。同時に、すべての専門家パネルと市民パネルが一堂に会して議論するチャンスもなかった。ポイントは、「問題点の絞り込み」と専門家パネルの全員が一堂に会することである。これを実現するには、時間的制約が最大の問題である。多数の専門家を同時に集めることができれば可能であるが、なかなか悩ましい問題である。

(3) 会議のチップス (小道具)

会議運営の微細な事項についてまとめておく。

まず、専門家パネルの説明についてであるが、説明が昨年度に比べてうまくなってきていると感じる。より分かりやすく説明しようとする努力の跡が見られる。しかし、それでも専門家の説明にはさらなる改善が必要だと思われる。「専門家が市民パネルに対して、科学的に不安を表現しろと要求するのは望ましくない」という意見も傾聴すべきである。また、「専門家の発言の中に、市民を無知であるかのような表現があった」との指摘もある。そのような態度はコンセンサス会議には適当でないばかりか、市民も多様であり、それぞれの分野で、かなり専門的な知識を有する市民も含まれている。専門家の説明の間違いを指摘する市民すらいるのである。「分かりやすく、同時に正確に」説明することが望まれている。

また、高齢者のために配付物の印字が小さくなりすぎないような配慮が必要である。OHP などの説明は好評であるが、とくに基礎的な知識の部分については、ビデオなどの活用の可能性も

検討されるべきであろう。

会場の広さ、開放感にも配慮が必要である。長期にわたる議論をするので、リフレッシュのためのスペースなども検討されてよい。

意見の集約のために用いた KJ 法、「ポストイット」（ラベル）などについては、もう少し趣旨を明確に伝えるべきかもしれない。

今回の参加市民には、バイアスがかかるのをさけるため、昨年度の報告書を事前に配布しなかったが、多くの参加市民は事前または会議の途中でそれを目にしていた可能性が高い。昨年度のコンセンサス会議はマスコミでも取り上げられていたので、関心がある市民であれば容易に入手できた。現実的には、事前情報からの隔離は困難であるので、今後は事前に配布することを検討してみる必要がある。その場合に、過去における市民の提案に左右される可能性があるが、それをどのようにコントロールするかを検討すべきである。

(4) 会議のルール

コンセンサス会議には一定のルール、会議を潤滑に進めるための仕掛けがある。このような会議のルール、仕掛けを参加者、関係者が理解する必要がある。

コンセンサス会議の特色の一つは、市民パネルの事前の知識、学習を前提としないことである。従来は、少なからず専門的知識を持っていないと、科学技術に関する適切な判断ができないという暗黙の前提があったが、これはまったく逆の前提でスタートしている。

通常は、一般市民がわからないことを専門家に質問しようという気にはなりにくい。ところが、コンセンサス会議では、市民パネルは事前知識を前提とされておらず、（専門家からみて）非常に低レベルな質問を、その道の第一人者にしてよいことになっている。むしろ、質問することが彼らの役割であり、専門家は一般市民に理解できるように説明することが与えられた役割である。このことを関係者は十分に認識し、行動すべきである。この点については、概ね妥当であったと評価できる。参加者の中には「これまでの人生の中で、これほど民主的な活動は経験したことがなかった」という感想を述べた者もいる。しかし、前段で述べたように、一層の努力が必要である。

第 2 は信頼関係である。専門家にしても、市民にしても、それほど回数は多くないとはいえ、長時間一緒に議論する（ときには寝食を共にする）ことで、お互いに信頼関係が醸成され、真摯な議論が可能になる。もっとも、一緒に過ごすだけで信頼関係が築けるかという点必ずしもそうではない。たとえば、同じことは地域の自治会のようなコミュニティでもできるはずだが、コミュニティで十分な議論ができるとは限らないことを考えれば、信頼関係の構築が容易でないことは理解できるだろう。

コンセンサス会議が、この点でうまくいくのは、特定的话题に議論の焦点を絞っているからである。日常生活では、隣同士が生活時間帯がずれているだけでも互いに気まづくなって、協力しにくくなることがある。しかし、コンセンサス会議は、そのようなバックグラウンド・ノイズを極力持ち込まないような仕掛けになっている。その結果、通常の生活の中では生まれえない専門家と市民、市民同士の交流が生まれるのである。

したがって、会議の途中では、参加市民は必要以上にバックグラウンドを露出しない方がよいし、所属する組織の意見を離れ個人として自由な発言をするべきである。参加市民のインタビューからは、参加者は意識して「白地」で、聴講し、議論するように心掛けたようである。もちろん、それぞれの意見があったり、所属組織の意見を共有していることはあるが、そのこと自体は会議の進行にとって問題とはならないようである。しかし、たまたま今回は、著名な農業者が複数参加したため、お互いに知り合いであるケースがみられた。初めて参加した会議で、お互いに知り合いである参加者がいることを知った参加市民は、一瞬違和感を感じるようである。そこに何らかの作意を感じ取る可能性がある。参加者の信頼関係の醸成と、会議の中立性を担保するためには、なるべく互いに知り合いである参加者は避けることが望ましいだろう。

第3は、結論である「市民の提案」はあくまで市民パネルがまとめることである。決して、専門家や役人が下書きをしたりしない。このことによって、結論に透明性を持たせている。ところが、今回は上述のように、会議のあいだに、専門家として参加した企業の関係者（専門家パネルとして参加した者ではない）と参加市民が会い、遺伝子組換え農作物に関する情報交換を行うという事態が発生した。もう少し具体的に述べると、市民パネルに参加した農業者の1人の依頼にもとづいて、開発企業の技術者が、第1回目の会議と第2回目の会議のあいだに、遺伝子組換え農作物の栽培技術について説明するということがあった。お互いに悪意をもって接したわけではなく、遺伝子組換え農作物についてもっと知りたいと願ってのことであるし、市民パネルに参加した市民がこのように積極的な取り組みをすること自体は、コンセンサス会議の成果ともいえる。しかし、タイミングが好ましくなかった面がある。会議が終わり、市民の提案がまとめられた後であれば問題はないが、途中での接触は、事情のわからない外部の人が「なんらかのバイアスがかけられたのではないかと疑念を持つきっかけになりうる。実際には、このことによって、当該市民の態度に変化がなかったことは、周囲の参加市民も認めており、コンセンサス会議の運営そのものには何ら影響を与えなかった。実質的問題はなかった。しかし、会議の透明性、公平性の担保という観点からは望ましいことではない。

ただし、この問題はあくまでもコンセンサス会議の運営方式の問題であり、個人の瑕疵の問題ではないことに留意しなければならない。この方式の実施にあたり、そのような事態の発生を十分に予想していなかったことと、それに関するルールをあらかじめ明確化しておかなかったことが問題なのである。例えば、農業者であれば、遺伝子組換え農作物を話題とすることは別にしても、日々の営農の過程で関連企業の関係者と会わざるをえない場合がありうる。それを完全に排除することは、コンセンサス会議といえどもしてはならない。そのような場合に、どのように対処すべきかのルールを決めておくことが必要だったのである。すべての事態を予想することができないならば、例えば「会議の運営に影響がありうる事態については、会議の場で市民パネルに公表し、判断を仰ぐ」といったルールが必要かも知れない。

逆説的な言い方になるが、今回の経験は非常によい経験であった。大切なことは、経験を積むことによって、コンセンサス会議の運営方法、ルールなどをさらに進化させていくことである。コンセンサス会議方式が充実したものとなれば、そこで行われる討論、そこから導かれる提案もいっそう充実し、社会的な効果を持つようになるだろう。

(5) 会議の効果

昨年度のコンセンサス会議が我が国で初めての本格的コンセンサス会議であったこともあり、マスコミ報道などでも頻繁に取り上げられた。それと比べると、今年度は第2回目ということもあり、昨年度ほどの熱気、社会的プレゼンスがなかった。これはやむを得ないことではあるが、コンセンサス会議の参加市民がたかだか20名程度であることを考えると、参加者だけに会議の成果が占有されるのは社会的に好ましいことではない。コンセンサス会議は、本質的に社会的な話題となる必要がある。そのための工夫をすることが常に求められる。

一方、参加市民の満足感が高い。これはコンセンサス会議の優れた特性である。

4. 今後の課題

コンセンサス会議の枠を離れて、若干の感想、今後の課題を述べておく。

第1は、政府、制度の位置付けの問題である。コンセンサス会議の専門家パネルには並んでいないが、重要な影のプレーヤーは政府や制度であった。制度のあり方、制度の背景にある考え方、行政担当者の考え方などは、しばしば重要な論点として登場した。しかし、専門家パネルには、政府関係者は含まれないため、間接的な解説を聞くだけであった。そのため、参加市民のあいだには、ある種の欲求不満が残ったのではないだろうか。それだけでなく、正確な情報がえられないという問題もある。もちろん、制度に関してはさまざまな文書、文献が存在しており、それら

を読めば分かるという考え方もありうる。しかし、行政文書は素人には分かりにくいものである。なんらかのガイドが必要であろう。それでは、行政担当者を専門家パネルに参加させるべきなのだろうか。それとも、事前の学習の段階で、解説者として登場させるべきか。あるいは第3者に解説をさせるべきか。このような問題について検討する必要がある。

第2は、インターネットの問題である。コンセンサス会議自体は、インターネットが普及する以前から成立している手法である。しかし、今日ではインターネットが普及し、参加市民のうち少なからぬ人々はインターネットで関連情報を収集し、独自に勉強をしていた。一方で、高齢者などのインターネット非利用者とのあいだで、情報格差が生じている。このことが、会議の進行にどのような影響を及ぼしているのかは不明であるが、今後はどのような影響があるのか、どのように対処すべきかを検討する必要がある。

さらには、インターネットによる情報流通の普及が、コンセンサス会議方式そのものにどのような影響を及ぼすかについても検討が必要である。インターネットの登場により、世論形成様式は明らかに進化している。コンセンサス会議の始まったころの世論形成は、TV、新聞などの国内マスコミによる世論形成が主流であった。しかし、1990年前後からはCNNの登場により、世論形成がグローバルな性格を持つようになった。つまり、世論形成において世界の動向、海外動向を意識するようになってきたのである。さらに、インターネットは、レディメイドの情報を一方的に受信するのではなく、必要な情報を好きな時に入手することを可能にした。さらには、市民による情報発信も可能にした。つまり、マスメディアを経由しない直接的で、時間に拘束されない情報の流通が可能になった。その結果、世論形成の多元化が進展するのである。はたして、このような状況の中で、コンセンサス会議の性格はどのようなものになるのだろうか。コンセンサス会議の役割は低下するのか。むしろ、インターネット時代にこそ適した方式なのだろうか。今後の検討が必要な課題である。

このこととも関連するが、第3は、コンセンサス会議方式以外の方法についても検討する必要があるということである。参加市民も、コンセンサス会議に限らず、さらにコンセンサス会議においても、いっそう市民の意見を汲み取る方法の開発を求めている。これは、市民による意見の表明が実現可能であることを実感した参加者の言葉である。彼らは、様々な方法がありうることを直観した。海外に目をやれば、たしかに、コンセンサス会議以外の多様な方法論が提唱され、実験されている。我が国でも、本格的にそのような多様な手法の試行と開発に取り組む段階に到達したといえよう。

最後に、派生的問題であるが、是非提案したいことを述べたい。それは、賛成派、反対派の両方の立場を盛り込んだ遺伝子組換え農作物の解説本を作ることである。少なからず参加市民は、事前、事後に遺伝子組換え農作物に関する書籍を読んでいて、彼らは、どの本も、推進派の立場から書かれているか、さもなくば慎重派の立場から書かれているかであり、両者の意見を公平に取り上げている本がないことに不満を述べた。まったくその通りである。両論を公平に取り上げた文献は是非ほしいと思う。このような本を実現することは容易ではないが、コンセンサス会議の経験はそれを可能にするかもしれない。「せっかくコンセンサス会議で両派の意見を聞くことができたので、それを本にしたらどうか。両論併記の文献があれば、一般市民も公平な目で考えることができるのではないか」というのがある参加市民の意見である。「紙上コンセンサス会議」ではないが、市民パネルに参加できなかった人にも、学ぶ機会、考える機会を提供するよい方法であるように思える。

以上指摘してきた問題点は、筆者自身解決策を見出せないでいるものが多い。そのため、問題点の羅列になってしまっていることは否めない。しかし、今後は是非とも検討すべき課題であると考えられる。

以上

目次

はじめに	3
エパリュエータの視点	
－「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議を観察して」－	4
「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」のあらまし	12
1. 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」実施の背景	15
2. 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」の実施概要	
1) 会議開催までの準備	16
(1) 事務局の設置	16
(2) 会議の名称	16
(3) 企画委員会の設置	16
(4) 第1回企画委員会	17
(5) 参加市民の募集	20
(6) 参加市民の選出	21
(7) 参加市民の選出者・非選出者への通知	23
(8) 世話人の依頼	25
(9) 専門家の選定と依頼	25
(10) 第2回プレス公表	25
(11) 専門家プレゼンテーション用資料の事前配付	25
2) 市民会議<横浜>の開催	
(1) 第1回会議 (9/18)	26
(2) 第2回会議 (9/26)	27
(3) 第3回会議 (10/3)	28
(4) 第4回会議 (10/9)	29
(5) 専門家の選定と依頼	29
(6) 第5回会議 (11/13)	30
(7) 第6回会議 (11/21)	31
(8) 市民の提案の最終文書化	31
3) 市民会議<仙台>の開催	
(1) 第1回会議 (10/6～8)	32
(2) 専門家の選定と依頼	34
(3) 第2回会議 (11/23～24)	35
(4) 市民の提案の最終文書化	36
4) 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」の公開と情報発信	
(1) プレス公表	36
(2) ホームページへの掲載	37
(3) 会議の一般傍聴および報道取材	37
3. 「市民の提案」(市民会議の結論)	
(1) 「市民の提案」<横浜>	39
(2) 「市民の提案」<仙台>	45
4. 市民会議終了後の活動	
(1) 関係省庁への要望	51
(2) 第2回企画委員会	51
(3) 調査研究	51
(4) 座談会	51
5. 寄稿文・参加市民アンケート	53
6. 資料集	94

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」のあらまし

(社)農林水産先端技術産業振興センター[略称:STAFF]は、農林水産省の委託を受け、「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」(以下「市民会議」)を実施した。

遺伝子組換え農作物について、テクノロジーアセスメントへの市民参加を目的とし、一般市民と専門家とのコミュニケーションに重点を置いて実施した。

ここではあらましを紹介する。(詳細は15頁からの本文参照。)

1. 市民会議実施の背景

近年、テクノロジーアセスメント(技術評価)への市民参加が非常に重要になるとともに、その手法についての研究も盛んに行われている。市民参加型テクノロジーアセスメントの一つの手法として、コンセンサス会議があり、我が国においても、試験的に2回行われている。平成12年度には、初めて公的機関が関与して、遺伝子組換え農作物をテーマにコンセンサス会議が行われ、STAFFが事務局を努めた。

引き続き、遺伝子組換え農作物について市民の提案をとりまとめていただくために、農林水産省の委託を受けSTAFFが「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」を実施することとなった。

2. 市民会議の概要

(1) 目的

遺伝子組換え農作物の実用化にあたっては、研究開発の推進と併せて、科学的知見に基づいた安全性の評価・確認などが不可欠であるとともに、市民の関心への確に答えていくことが重要となっている。このため、平成12年度は、遺伝子組換え農作物に関する市民からの要請・提案に答えていくための初めての試みとして「遺伝子組換え農作物を考えるコンセンサス会議」を実施した。(コンセンサス会議のあらましは140頁参照)

市民会議では、コンセンサス会議の経験を踏まえ、市民と専門家との双方向のコミュニケーションに重点を置くこと、消費者と農業生産者の双方の意見が市民の提案に反映されるよう、首都圏(横浜)と農業生産地域(仙台)の2ヵ所で別々に会議を行うことを基本理念として開催した。

(2) 運営

企画委員会：5名により構成

市民会議を公正かつ円滑に運営することを目的として企画委員会を設置した。

世話人：〈横浜〉・〈仙台〉で各1名ずつ(〈横浜〉には世話人補助1名)

世話人の役割は、会議の司会・進行、参加市民の議論・「市民の提案」のとりまとめの支援などである。

事務局：STAFF役職員9名

企画委員会の意見等を参考に、市民会議の実施に関する業務を行う。

(3) 企画委員会

第1回企画委員会(7/31): 市民会議の推進、開催場所・日程、参加市民の募集方法・選出方法、世話人の選定、専門家の選定、第1回プレス公表等、市民会議の運営方針が検討された。

第2回企画委員会(1/16): 市民会議の開催経過の報告、意見交換がなされた。さらに、報告書の構成等、参加市民による座談会を行うこと等が検討された。

(4) 参加市民の募集・選出

募集対象: <横浜>; 神奈川県、東京都、埼玉県、千葉県に在住の成人
<仙台>; 東北6県に在住の成人

募集期間: 8/2~8/27

案 内: 新聞(プレス公表、案内広告)、ホームページ、募集要項郵送等

応募総数: <横浜>83名、<仙台>51名

選出者数: <横浜>15名、<仙台>16名

選 出: 横浜は家庭の女性に重点をおき、仙台は農業生産者に重点を置いて定員を決め、無作為抽出により選出した。

(5) 会議の経過

<横浜>	内容	<仙台>
日時等		日時等
9/18,26,10/3 専門家: 9名 自然科学者 社会学者 ジャーナリスト 消費者団体 遺伝子組換え農作物開発企業	共通基礎知識等の説明 「農作物の品種改良と遺伝子組換え技術の応用」 「遺伝子組換え農作物の環境安全性」 「遺伝子組換え食品の安全性」 「遺伝子組換え農作物の社会科学的側面」 参加市民と専門家とのコミュニケーション	10/6,7 専門家: 10名 自然科学者 社会学者 ジャーナリスト 消費者団体 遺伝子組換え農作物開発企業
10/9	参加市民による議論 「市民の提案」中間とりまとめ 専門家と参加市民との追加コミュニケーション内容の決定	10/8
11/13 専門家: 4名 自然科学者 消費者団体 行政	参加市民と専門家との追加コミュニケーション	11/23 専門家3名 自然科学者 消費者団体 行政
11/21	参加市民による議論 「市民の提案」とりまとめ	11/23~24

(6) 「市民の提案」

① 「市民の提案」

参加市民と専門家とが相互コミュニケーションを行い、参加市民同士だけで議論することによりとりまとめられた。遺伝子組換え農作物についての様々な提案を記載したものであり、この市民会議の結論である。

② 内容

<横浜>：遺伝子組換え食品の安全性、遺伝子組換え農作物の環境影響、社会的・経済的影響、行政に対する提案等についてまとめられた。（詳細は39～44頁参照）

<仙台>：世界の食料問題、食料・農業、環境、食品の安全性、情報、教育等についてまとめられた。（詳細は45～49頁参照）

3. 提案を受けての活動

(1) 調査研究

STAFFは「市民の提案」を踏まえ、環境影響、食品安全性にかかわる試験研究を開始した。

(2) 関係省庁への要望

STAFF理事長は、「市民の提案」を遺伝子組換え農作物等に係わる政策の推進に当たっての参考として頂くよう、平成13年12月14日付で、農林水産省、厚生労働省および文部科学省に要望書を提出した。

4. その他の活動

(1) 座談会

<横浜>・<仙台>各5名、計10名の参加市民にお集まり頂き、「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」を振り返るとともに、市民会議のあり方等について、話し合う座談会を行った。司会は、市民会議のエバリュエータを担当した筑波大学の小林信一先生にお願いした。

(2) 報告書の作成

企画委員会で検討された内容をもとに、会議開催までの準備、会議経過、「市民の提案」等を盛り込んだ本報告書を作成した。

1. 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」実施の背景

現在、科学技術の発達・進歩は、社会の人々の生活に多大な恩恵をもたらしている。これらの科学技術の実用化を図るためには、研究開発の推進と併せて、科学的な知見に基づいた安全性の評価・確認等が不可欠であるとともに、それに加えて、一般市民の関心に的確に応えていくことが重要である。

遺伝子組換え技術は、地球的課題となっている食料・環境・エネルギー、医療等の問題を解決する次世代のキーテクノロジーの一つとして大きな役割を果たすことが期待されている。遺伝子組換え技術の発達・進歩に伴い、その技術の農作物への応用が始まり、現在商業的に栽培されるまでに至っている。

農林水産省は、昭和 62 年度から組換え体の安全性確保等に関する研究を総合的に継続実施してきているが、それらの研究課題は研究開発関係者から提起されたものであり、一般市民の要請・提案に基づく研究課題を実施する仕組みではなかった。そこで、農林水産省は、一般市民の要請・提案に的確に応えるための新たな試みとして、一般市民が専門家の説明を聞いた上で議論し、一定の合意を得るコンセンサス会議を実施するとともに、それを踏まえて必要な調査研究を行うため、平成 12 年度より「市民からの提案に対応する研究」プロジェクトを開始した。

そのプロジェクトの一環として、平成 12 年度に、「遺伝子組換え農作物を考えるコンセンサス会議」が行われた。この会議は日本で初めて公的機関が関与して行われたコンセンサス会議であった。この会議実施の委託を農林水産省より受け、事務局を担当した社団法人農林水産先端技術産業振興センター〔略称：STAFF〕は、この会議でとりまとめられた「市民の考えと提案」を関係省庁に提出し、関連施策に反映させて頂くよう要望するとともに、提案を踏まえて環境ストレス遺伝子が組換え農作物の交雑親和性に与える影響等に関する調査研究を実施している。また、農林水産省は遺伝子組換え農作物の長期栽培による環境への影響モニタリングを平成 13 年度より開始した。このコンセンサス会議は一般市民の要請・提案に基づく研究課題実施の仕組みづくりをしたという点からもその意義は大きなものであったといえる。

一方、遺伝子組換え技術にかかわらず、科学技術は日々発達・進歩していることから、継続的に科学技術に対する一般市民の関心に応えていくことや、その仕組みを確立することは重要である。また、よりの確に一般市民の意志を研究開発等に反映させるためには、一般市民と専門家との相互コミュニケーションを十分に行うことが重要である。

このような背景の中で、平成 12 年度に実施したコンセンサス会議を踏まえ、引き続き遺伝子組換え農作物について市民の提案をとりまとめて頂くため、農林水産省の委託を受け、STAFF が「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」を実施することになった。

2. 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」の実施概要

1) 会議開催までの準備

(1) 事務局の設置

STAFF は、平成 13 年の初めから会議についての検討を開始し、平成 13 年 6 月に事務局を STAFF 本部内に開設した。

(2) 会議の名称

会議の名称を「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」(以下「市民会議」)とした。

(3) 企画委員会の設置

市民会議が公正かつ円滑に運営されるように、企画委員会を設置することとし、社会学、生物学、消費者団体、生産者団体、ジャーナリスト等の各分野から知見を有する 5 名に企画委員をお願いした。(資料 1 参照)

企画委員会の主な役割は、市民会議の運営のあり方、参加市民の募集・選定、世話人・専門家の選定等についての検討である。

(資料 1)

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」	
企画委員	
○ 企画委員長	
原田 宏	筑波大学 名誉教授
○ 企画委員	
大塚 善樹	広島経済大学経済学部 助教授
中村 靖彦	農政ジャーナリストの会 会長
日和佐 信子	全国消費者団体連絡会 事務局長
松尾 英章	全国農業協同組合連合会 常務理事

(注) 企画委員長は、第 1 回企画委員会において、企画委員の中から互選された。

(4) 第1回企画委員会

日 時：平成13年7月30日(月)14:00～16:00

場 所：STAFF 会議室

出席者：企画委員 5名

【農林水産省農林水産技術会議事務局技術安全課 2名、事務局 8名】

以上15名

検討事項：

i) 市民会議の推進について

市民会議を実施するにあたって、その基本となる考え方を『「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」の推進について』としてまとめた。市民会議の趣旨、内容、具体的な進め方(推進体制、開催手順、その他)についてまとめられ、そのなかで、事務局は企画委員会の意見を参考として会議の運営を行うことが定められた。

市民会議は、横浜・仙台の2ヵ所で別々に行うこととし、その進行は、専門家による基礎知識の提供及び専門家としての考えの説明と、参加市民と専門家との双方向のコミュニケーション(質疑応答、意見交換等)、「市民の提案」中間とりまとめのための議論、追加コミュニケーションの内容決定、さらなる専門家と参加市民との相互コミュニケーションを行い、最終的に「市民の提案」をとりまとめ発表することが定められた。

ii) 会議場所・日程

市民会議は、消費者と農業生産者双方の意見が市民の提案に反映されるよう、消費地域として横浜、農業生産地域として仙台の2ヵ所で別々に行うこととした。

また、横浜での会議(以下<横浜>)は家庭の女性が参加しやすくなるよう平日に日帰りで6回開催することとし、仙台での会議(以下<仙台>)は東北6県を対象としていることから、休日を利用し2泊3日、1泊2日の2回計5日間で開催することとした。

なお、<横浜>・<仙台>の会議でそれぞれの「市民の提案」を同時にまとめて公表できるように、「市民の提案」のとりまとめがほぼ同時期に終了する日程とした。

iii) 参加市民の募集方法

- ・ 募集対象地域：<横浜>は、日帰り可能な範囲として神奈川県、東京都、千葉県、埼玉県、1都3県とした。<仙台>は、東北6県とした。
- ・ 募集定員：各々15名程度
- ・ 募集期間：多数の市民が申込みできるように、参加市民の募集期間を26日間に設定した。
- ・ 案内方法：プレス公表、新聞広告掲載、ホームページ掲載等に加え、関係機関・団体等への募集要項の配布を行うこととした。

募集要項(ちらし、手引き [「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」あらましと参加申込みにあたって]、申込書の3点セット)の記載内容を検討した。

また、市民会議の趣旨から、特定の立場を主張・宣伝する目的での申込みはして頂かないよう要領に明記した。

iv) 参加市民の選出方法

参加市民は申込者の中から選出することとし、〈横浜〉については、30~40才代の家庭の女性を、〈仙台〉については、農業生産者を、それぞれ優先的に一定数選出したのち、無作為に抽出することとした。どちらの会議についても、詳細は申込状況をまとめてから決めることとした。

v) 世話人の選定

市民会議の司会・進行役である、世話人の候補者について検討した。

世話人の主な役割は、市民会議の司会・進行、参加市民による議論・「市民の提案」のとりまとめの支援を行うことなどである。

vi) 専門家の選定

専門家は、参加市民への基礎知識の提供、プレゼンテーション、参加市民とのコミュニケーションを行うため、自然科学者、社会科学者、ジャーナリスト、その他各分野の有識者を専門家として選出することを決めた。また、一方的な情報提供にならないように、遺伝子組換え農作物について肯定的な意見を持つ専門家と慎重・否定的な意見を持つ専門家の両方を選定することとした。

vii) 第1回プレス公表

第1回のプレス公表は、平成13年8月2日に東京、横浜、仙台の3カ所で行うこととした。

(資料2) コンセンサス会議(平12)と市民会議(平13)との主な進め方の比較

項目	平12 コンセンサス会議	平13 市民会議	変更の趣旨
開催場所	東京 (4回の会議の内1回はつくば市)	横浜(首都圏消費地域) 仙台(農業生産地域)の2カ所	コンセンサス会議では、農業生産者の参加は1名であった。消費者と農業生産者の双方の意見が市民の提案に反映されるようにした。
募集地域	全国	横浜:1都3県 (神奈川・東京・千葉・埼玉) 仙台:東北6県	横浜では、家庭の女性が参加し易くなるように平日10-16時の日帰りとした。 仙台では、東北6県からの参加となるので、宿泊とし、休日に行くこととした。
参加市民選出	性別・年齢・地域別に定員を決めて抽選	横浜:家庭の女性に重点を置いて定員を決めて抽選 仙台:農業生産者に重点を置いて定員を決めて抽選	
会議日程	休日・全4回6日 (内2回は宿泊)	横浜:平日日帰り6回 仙台:休日宿泊2回5日	
進行	準備会合(第1回・第2回) ・基礎知識の説明 論点が幅広く多様になるよう、自然科学・社会科学・リスク論・ジャーナリスト等幅広い範囲(説明者 7名) ↓ ・「鍵となる質問」作成 ↓ 「鍵となる質問」への専門家による回答(専門家11名) ↓ 「市民の考えと提案」のとりまとめ	セッション毎の ・基礎知識の説明 ・専門家の考えの説明 ・全専門家(2-4名)と市民とのコミュニケーション(専門家は通算、9-10名) ↓ 「市民の提案」中間とりまとめ及び追加コミュニケーション内容まとめ ↓ 追加コミュニケーション内容に関する ・専門家プレゼンテーション ・全専門家(3-4名)と市民とのコミュニケーション ↓ 「市民の提案」のとりまとめ	コンセンサス会議では、基礎知識の説明の後「鍵となる質問」を作成したところ網羅的な内容となったため、それに多くの専門家が回答した。その結果、全体として、市民と専門家とのコミュニケーションは、必ずしも十分にはならなかった。 市民会議では、参加市民と専門家とのコミュニケーションが充実するように、セッション毎(環境安全性、食品安全性、社会科学的側面など)に複数(肯定派及び慎重/否定派)の専門家によるプレゼンテーションとともに、セッション毎の全専門家(2-4名)と参加市民との総合コミュニケーションを行うこととした。 また、コミュニケーションを深化させるべく、全ての専門家にその意見を説明して頂くこととした。 さらに、市民の提案とりまとめのための議論を通じた方が、真に追加説明等を受けたい内容がまとまり易いと考え「市民の提案」中間とりまとめを行うこととした。
専門家のプレゼンテーション	準備会合では、事実の説明とし、自分の意見だけの主張は不可とした。 (様々な意見の紹介は可とした。)	基礎知識の事実の説明はもとより、専門家としての考えの説明をして頂くようにした。	
参加市民と専門家とのコミュニケーション	事前想定は ・「鍵となる質問」は4-6件。 ・それに回答する専門家は数名 [実際は、9件、専門家11名]	参加した全専門家(13名)とのコミュニケーションを行うプログラムとした。	

(5) 参加市民の募集

i) 案内

ア. 新聞報道の活用

平成 13 年 8 月 2 日(木)に農林水産省内の農政クラブ・農林記者会と神奈川県庁内の県政記者クラブ、宮城県庁内の県政記者クラブと東北電力内の東北電力記者クラブでプレス公表した。

イ. 新聞広告等

案内広告を日本農業新聞(8/8)、河北新報(8/9)、全国農業新聞(8/10)に掲載した。
朝日新聞(8/23)の「暮らし」(全国版)に掲載された。

ウ. ホームページ

STAFF のホームページに掲載した。この内容が、農林水産省をはじめいくつかのホームページに掲載された。

エ. 募集要項の配布

募集要項を 1 万 2 千部作成し、各々の会議の募集対象地域(1 都 3 県、東北 6 県)の消費者団体(918)、生活協同組合(182)、地方自治体の消費生活センター(133)、農林水産消費技術センター(本部、横浜、仙台)、地方農政局(関東、東北)の消費者の部屋等に配布した。また、昨年のコンセンサス会議の申込者・一般傍聴者・シンポジウム(平 13.2.5 開催)申込者のうち、市民会議の募集対象地域に該当する者に対し、募集要項を配布した。

さらに、問合せがあった方々には、募集要項を送付した。

ii) 申込者

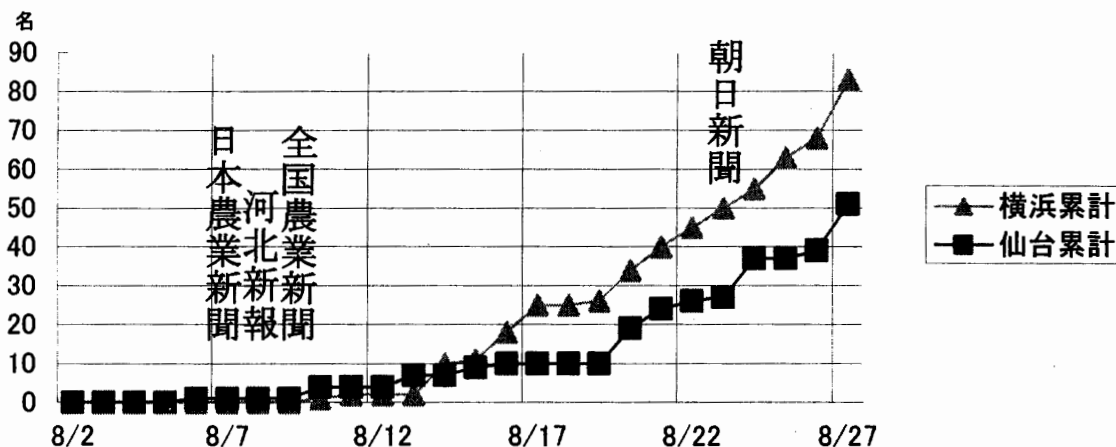
ア. 申込者数の推移

8 月 6 日(月)より申込書が届き始めた。募集開始後 12 日間は、申込者が 6 名(横浜 2 名、仙台 4 名)だった。8 月 16 日(木)を過ぎた頃から申込者が増え始め最終的には横浜では、83 名、仙台では 51 名になった。(資料 3 参照)

なお、昨年のコンセンサス会議の申込者数は、<横浜>の募集対象地域の 1 都 3 県では 175 名、<仙台>の募集対象地域の東北 6 県では 41 名であった。

(資料 3)

参加市民申込者数推移



1. 申込者の属性分布等(資料 4 参照)

- ・ 性別：〈横浜〉では男性が 47%、女性が 53%、〈仙台〉では男性が 43%、女性が 57%であった。
- ・ 年齢：〈横浜〉・〈仙台〉とも 20～30 才代の申込者は、申込者全体の 6%であった。
〈横浜〉は 60 才以上の応募が過半数を占め(54%)、〈仙台〉は 40～50 才代の応募が過半数を占めた(54%)。
- ・ 職業：〈横浜〉では主婦が 42%、無職を含めたその他が 42%であった。〈仙台〉では、主婦が 43%、農業生産者が専業・兼業を合わせて 20%であった(専業 16%、兼業 4%)。

なお、申込書に記載された動機より、申込者の約 70%は、「情報がない」、「本当に安全なのか」等の理由から、遺伝子組換え農作物の環境影響・食品としての安全性に対して不安を感じていると思われた。

(6) 参加市民の選出

i) 参加市民の選出方法

〈横浜〉

選出数：選出数は 15 名とした。

参加資格：遺伝子組換え農作物に対して専門家でないこと、特定の立場を主張・宣伝する目的の申込みではないこと、当日会場に日帰りが可能であることを参加資格とし、参加資格のないものを除外した。その結果除外された申込者は、1 都 3 県以外に在住している 4 名であった。

選出基準：家庭の女性に重点を置いて参加市民を選出するために、参加市民の定員を女性 10 名、男性 5 名とした。また、年齢層については、3 区分に分けたうえでその区分ごとの定員を決め、無作為抽出した。

性別：女性 10 名(内主婦 9 名)、男性 5 名

年齢：20～30 才代 2 名、40～50 才代 10 名、60 才以上 3 名

〈仙台〉

選出数：15 名程度としていたが、第 1 回会議開催日が東北の農繁期と重なるため、農業生産者の中から途中辞退者が出る可能性を考慮し、選出数を 16 名とした。

参加資格：遺伝子組換え農作物に対して専門家でないこと、特定の立場を主張・宣伝する目的の応募ではないこと、東北 6 県に在住していることを参加資格とし、参加資格のないものを除外した。その結果除外された応募者は、東北 6 県以外に在住している 1 名であった。

(資料 4)

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」申込者属性分布

区分	項目	横浜		仙台	
		人数 (名)	割合 (%)	人数 (名)	割合 (%)
性別	男性	39	47	22	43
	女性	44	53	29	57
	不明	0	0	0	0
	合計	83	100	51	100
年齢	20 才代	0	0	2	4
	30 才代	5	6	1	2
	40 才代	15	18	13	25
	50 才代	17	20	15	29
	60 才代	30	36	11	22
	70 才以上	15	18	8	16
	不明	1	1	1	2
	合計	83	100	51	100
職業	主婦	33	40	22	43
	会社員	3	4	3	6
	自営業	6	7	3	6
	公務員	0	0	3	6
	学生	1	1	1	2
	専業農家	1	1	8	16
	兼業農家	0	0	2	4
	農林漁業関係	3	4	0	0
	その他	35	42	9	18
	不明	1	1	0	0
	合計	83	100	51	100
都道府県	神奈川県	46	55		
	東京都	16	19		
	千葉県	12	14		
	埼玉県	5	6		
	青森県			6	12
	岩手県			7	14
	秋田県			2	4
	宮城県			24	47
	山形県			5	10
	福島県			6	12
	その他	4	5	1	2
	合計	83	100	51	100

選出基準：農業生産者に重点を置いて参加市民を選出するために、農業生産者の定員を6名とした。男女比は申込者比に合わせて男性7名、女性9名とした。年齢層は申込状況に合わせ3区分に分けた上でその区分ごとの定員を決め、無作為抽出した。

性別：男性 7名(内農業生産者 6名)、女性 9名

年齢層：20才代～40才代 5名、50才代 8名、60才以上 3名

ii)参加市民の選出

選出基準に基づき、無作為抽出を行い、〈横浜〉・〈仙台〉それぞれの参加市民を選出した。選出された参加市民には、全ての会議に出席すること、特定の立場を主張・宣伝しないことを直接電話にて確認した。

辞退者があった場合、その者と同じ属性の他の者を無作為抽出により選出することとしていたが、結果として辞退者はいなかった。(参加市民選出者は資料5参照)

(7) 参加市民の選出者・非選出者への通知

i)参加市民選出者への通知内容等

参加市民に選出された申込者に対しては、選出通知状とともに、最終的な参加の確認をとるための市民会議参加確認書を送付した。また、市民会議の主旨、内容、プログラム等をまとめた「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議マニュアル」の〈横浜〉・〈仙台〉版をそれぞれ作成し併せて送付した。(102頁・121参照)

なお、参加市民への参考資料として、「遺伝子組換え農作物を知るために」(STAFF作成のパンフレット)、「組換え農作物早わかり Q&A」、「くらしのなかのバイオテクノロジー」(以上2点、農林水産省農林水産技術会議事務局作成のパンフレット)、「遺伝子組み換え食品」(暮らしの手帖2001年6・7月号)を送付した。

ii)参加市民非選出者への通知内容等

参加市民に選出されなかった申込者に対しては、通知状を送付した。また市民会議は別室での傍聴が可能なことと、STAFFのホームページにて、傍聴のお知らせ及び会議資料等について公開することをお知らせした。

(資料 5)

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」の参加市民

<横浜> 15名

氏名	(フリガナ)	性別	年齢層	地域	職業
阿部ゆかり	(アベ ユカリ)	女性	40才代	横浜市保土ヶ谷区	主婦
安藤 栄子	(アント ウエイコ)	女性	40才代	横浜市磯子区	主婦
神山 光江	(カミヤマミツエ)	女性	50才代	埼玉県大里郡	主婦
後藤 淳子	(ゴトウアツコ)	女性	50才代	千葉県松戸市	主婦
斉藤 哲哉	(サイトウテツヤ)	男性	30才代	埼玉県さいたま市	会社員
佐々木忠孝	(ササキタダユキ)	男性	60才代	横浜市西区	無職
田村庄一郎	(タムラシヨウイチロウ)	男性	50才代	埼玉県富士見市	会社員
永浜 政子	(ナガハママサコ)	女性	60才代	横浜市戸塚区	主婦
樋口 武	(ヒグチタケシ)	男性	60才代	横浜市青葉区	団体職員
舟木 清恵	(フナキキヨエ)	女性	40才代	横浜市青葉区	主婦
細谷 祥子	(ホソヤショウコ)	女性	40才代	東京都東久留米市	主婦
村上 千里	(ムラカミチサト)	女性	30才代	東京都渋谷区	主婦
村田 晴雄	(ムラタハルオウ)	男性	50才代	横浜市金沢区	無職
吉田美智子	(ヨシタミチコ)	女性	40才代	神奈川県秦野市	消費生活相談員
渡辺 美砂	(ワタナベミサ)	女性	50才代	東京都世田谷区	主婦

<仙台> 16名

氏名	(フリガナ)	性別	年齢層	地域	職業
石木田麻梨子	(イシキタマリコ)	女性	40才代	秋田県鹿角市	主婦
伊藤 基夫	(イトウモトオ)	男性	50才代	宮城県栗原郡	農業
入間田範子	(イルマダノリコ)	女性	40才代	仙台市太白区	生協
木村 慎一	(キムラシンイチ)	男性	50才代	青森県西津軽郡	農業
金野 千恵子	(キンノチエコ)	女性	40才代	仙台市宮城野区	主婦
後藤 和子	(ゴトウワカコ)	女性	50才代	山形県東根市	主婦
小林 重希	(コバシゲキ)	男性	60才代	福島県耶麻郡	農業
今野 武	(イミノタケシ)	男性	50才代	仙台市若林区	農業
佐々木陽悦	(ササキヨウエツ)	男性	50才代	宮城県遠田郡	農業
佐藤 千恵	(サトウチエ)	女性	40才代	山形県東田川郡	公務員
鳥崎 和子	(トリサキワカコ)	女性	60才代	仙台市青葉区	主婦
中洞 正	(ナカホウタカシ)	男性	40才代	岩手県下閉伊郡	酪農
松村 ウメ子	(マツムラウメコ)	女性	50才代	岩手県盛岡市	主婦
的場 文子	(マクハフミコ)	女性	60才代	宮城県桃生郡	主婦
本木 清博	(モトキキヨヒロ)	男性	50才代	宮城県遠田郡	会社員
吉武 洋子	(ヨシタケヨウコ)	女性	50才代	仙台市青葉区	生協

※年齢層等については、参加市民申込み時のものです。

(8) 世話人の依頼

市民会議の司会・進行等を行う世話人を2名に依頼した。(資料6参照)

市民会議の趣旨・進め方・世話人の役割等を説明した。その中で、市民会議の主役は参加市民であり、世話人はあくまで補佐役であって、会議を誘導しないことなどを伝えた。

(資料6)

「遺伝子組換え農作物を考える市民会議」			
世話人			
＜横浜＞	正木 英子	食品科学広報センター	代表
＜仙台＞	有田 芳子	全国消費者団体連絡会	事務局

(9) 専門家の選定と依頼

事務局は、「市民の提案」のとりまとめに必要な基礎知識の提供及び専門家としての考えの説明を行う専門家を選定し、依頼した。

市民会議の趣旨・進め方を説明した。その中で、基礎知識の提供は「市民の提案」をとりまとめる上で重要な一般市民と専門家とのコミュニケーションの材料であることを告げるとともに、より深いコミュニケーションを行うために、専門家としての考えをお話し頂くようお願いした。

また、専門家の持ち時間の半分を説明、半分を参加市民との質疑応答等にとりよう依頼した。

なお、市民会議の日程を決めてから、専門家の選定・依頼を行ったため、依頼するに当たり、市民会議の趣旨には賛同するものの、日程が折り合わず依頼を了承してもらえなかった専門家もいた。

(10) 第2回プレス公表

平成13年9月7日(金)に第2回プレス公表を行った。内容は参加市民の申込者状況、選出方法、選出された参加市民の構成、市民会議のプログラム及び一般傍聴の案内である。

(11) 専門家プレゼンテーション用資料の事前配付

第1回会議のプレゼンテーション要旨を参加市民に事前配付した。(以降、全ての会議において事前配付するよう努めた。)

2) 市民会議〈横浜〉の開催

(1) 第1回会議

1. 日 時 平成13年9月18日(火)10:00~16:00
2. 場 所 神奈川中小企業センター(横浜市中区尾上町5-80)
3. 参加者 参加市民15名、専門家2名、世話人1名(補助1名)、
技術安全課1名、事務局7名、一般傍聴21名
4. 参加市民への配付資料
事務的連絡事項、参加者リスト、第1回専門家プレゼンテーション要旨(事前配付)、
第1回専門家プレゼンテーション資料(OHP、スライド等)
5. 一般傍聴者への配付資料
第1回専門家プレゼンテーション要旨及び資料、「遺伝子組換え農作物を知るため
に」、「組換え農作物早わかり Q&A」、「くらしのなかのバイオテクノロジー」、
「遺伝子組み換え食品」(暮らしの手帖2001年6・7月号)
6. 内 容
10:00 開会
1)主催者挨拶(含:趣旨・運営)
2)メンバー紹介
(1)参加市民自己紹介
(2)世話人、専門家、農林水産省技術安全課、事務局
3)世話人コメント
4)専門家とのコミュニケーションを始めるにあたって
10:40 「共通基礎知識」
太田 隆久 氏(東京大学名誉教授)
12:00 <昼食・休憩>
13:00 「農作物の品種改良と遺伝子組換え技術」
藤巻 宏 氏(東京農業大学教授)
14:00 <休憩>
14:10 総合コミュニケーション
太田氏、藤巻氏
15:00 フリー懇談
16:00 閉会

主催者 STAFF の理事長は、挨拶の後、市民会議が開催されるに至った経緯、参加市民の募集・選出の経緯、参加市民が主役であること、市民会議の流れ、今回の市民会議では別室での傍聴が行われること等についての説明があった。

参加市民全員の自己紹介の後、世話人のコメントがあった。世話人コメントでは、あくまで世話人は補佐であり、参加市民が主役であることが強調された。

第1回会議では、説明時間が長くなることから、専門家は、持ち時間を2つに分け、説明・質疑応答、説明・質疑応答という構成でプレゼンテーションを行った。

また、市民会議では専門家は持ち時間の半分を説明に使い、残りの半分は参加市民と

の質疑応答に時間をとった。専門家は、参加市民との質疑応答とは別途、参加市民との総合コミュニケーションを行った。なお、専門家が使用する OHP 等のプレゼンテーション用の資料は参加市民がメモをとりやすく、また別室の傍聴者に対して、わかりやすくなるように事前に参加市民及び一般傍聴者に配付した。(第 2 回会議以降同じくなる様に努めた。)

昼食時には、参加市民に「市民の提案」とりまとめの進め方の例について、事務局が前年に行われたコンセンサス会議等を例に挙げて説明を行った。また、総合コミュニケーションの後に、フリー懇談が行われ、今後の市民会議の進め方等についての懇談が行われた。

(2) 第 2 回会議

1. 日 時 平成 13 年 9 月 26 日(水)10:00~16:00
2. 場 所 神奈川中小企業センター(横浜市中区尾上町 5-80)
3. 参加者 参加市民 15 名、専門家 3 名、世話人 1 名(補助 1 名)、企画委員 1 名、
技術安全課 1 名、事務局 6 名、一般傍聴 42 名
4. 参加市民への配付資料
事務的連絡事項、参加者リスト、第 2 回専門家プレゼンテーション要旨(事前配付)、
第 2 回専門家プレゼンテーション資料(OHP、スライド等)
5. 一般傍聴者への配付資料
第 2 回専門家プレゼンテーション要旨及び資料、「遺伝子組換え農作物を知るために」、
「組換え農作物早わかり Q&A」、「くらしのなかのバイオテクノロジー」、
「遺伝子組み換え食品」(暮らしの手帖 2001 年 6・7 月号)
6. 内 容
10:00 運営説明
10:10 「遺伝子組換え農作物の環境安全性」(基礎知識と専門家の考え-その 1)
田部井 豊 氏 ((独)農業生物資源研究所研究チーム長)
11:00 「遺伝子組換え農作物の環境安全性」(専門家の考え-その 2)
小若 順一 氏(日本子孫基金事務局長)
11:30 遺伝子組換え農作物の環境安全性に関する質疑応答
田部井 氏、小若 氏
12:00 <昼食・休憩>
13:00 「遺伝子組換え食品の安全性」(基礎知識と専門家の考え-その 1)
三瀬 勝利 氏(前国立医薬品食品衛生研究所副所長)
14:10 「遺伝子組換え食品の安全性」(専門家の考え-その 2)
小若 順一 氏(日本子孫基金事務局長)
14:50 <休憩>
15:00 総合コミュニケーション
田部井 氏、小若 氏、三瀬 氏
16:00 閉会

会議のはじめに第1回会議のフリー懇談において、参加市民から出された説明の仕方、質疑応答の進め方等についての要望を、世話人が関係者に伝えた。

昼食時には、「市民の提案」とりまとめ方の例を事務局が説明した。

とりまとめの例として事務局が掲示したものは、日本で過去に2回、実験的に行われたインターネットと遺伝子治療をテーマにしたコンセンサス会議、及び外国で放射性廃棄物をテーマにして行われたコンセンサス会議においてとりまとめられた3種類の「市民の提案」である。

(3) 第3回会議

1. 日 時 平成13年10月3日(水)10:00~16:00
2. 場 所 神奈川中小企業センター(横浜市中区尾上町5-80)
3. 参加者 参加市民15名、専門家4名、世話人1名(補助1名)、
技術安全課1名、事務局6名、一般傍聴31名
4. 参加市民への配付資料
事務的連絡事項、参加者リスト、第3回専門家プレゼンテーション要旨(事前配付)、
第3回専門家プレゼンテーション資料(OHP、スライド等)
5. 一般傍聴者への配付資料
第3回専門家プレゼンテーション要旨及び資料、「遺伝子組換え農作物を知るために」、
「組換え農作物早わかり Q&A」、「くらしのなかのバイオテクノロジー」、
「遺伝子組み換え食品」(暮らしの手帖2001年6・7月号)
6. 内 容
10:00 運営説明
10:10 「遺伝子組換え農作物の社会科学的側面」(専門家の考え・その1)
大塚 善樹 氏(広島経済大学助教授)
10:50 「遺伝子組換え農作物の社会科学的側面」(専門家の考え・その2)
坂本 智美 氏(日本モンサント(株)バイオ作物情報室長)
11:30 「遺伝子組換え農作物の社会科学的側面」に関する総合コミュニケーション
大塚 氏、坂本 氏
12:15 <昼食・休憩>
13:15 「消費者から見て」
日和佐 信子 氏(全国消費者団体連絡会事務局長)
13:55 「ジャーナリストから見て」
中村 靖彦 氏(農政ジャーナリストの会会長)
14:35 総合コミュニケーション
日和佐氏、中村氏
15:20 <休憩>
15:30 参加市民による議論と「市民の提案」とりまとめの進め方に関する議論
16:00 閉会

総合コミュニケーションの後には、第 4 回会議に行われる「市民の提案」中間とりまとめについての説明等があり、そのとりまとめをどのような形式で進めるか等の話し合いが行われた。また、遺伝子組換え農作物について項目別に考え、意見、提案等を第 4 回会議までに付箋紙に記入して、「市民の提案」中間とりまとめの際に使用することとした。事務局は参加市民に付箋紙を配付した。

(4) 第 4 回会議

1. 日 時 平成 13 年 10 月 9 日(火)10:00～16:00
2. 場 所 神奈川中小企業センター(横浜市中区尾上町 5-80)
3. 参加者 参加市民 15 名、世話人 1 名(補助 1 名)、技術安全課 1 名、事務局 5 名
4. 参加市民への配付資料 参加者リスト
5. 内 容
 - 10:00 運営説明
 - 10:10 参加市民による議論と「市民の提案」中間とりまとめ
 - 12:00 <昼食・休憩>
 - 13:00 参加市民による議論と「市民の提案」中間とりまとめ
専門家と参加市民との追加コミュニケーション内容の決定
 - 16:00 閉会

「市民の提案」中間とりまとめのための参加市民による議論が行われた。参加市民各自が、遺伝子組換え農作物について項目別に意見、提案等を記入した付箋紙を用いて KJ 法により議論すべき項目、意見、疑問点等を整理した後、数項目ずつ 3 グループに分かれて「市民の提案」中間とりまとめのための議論が行われた。農業政策、農業のあり方、遺伝子組換え技術開発、生命・倫理、アグリビジネス・企業責任等の項目において、大まかな共通認識をとりまとめた。また第 5 回会議にどのような専門家との追加コミュニケーションを行うか等について話し合われた。

また、参加市民によりとりまとめられた追加コミュニケーション内容は 10 件を越える多岐にわたり、その全てに専門家が会議で対応すると、参加市民と専門家のコミュニケーションが希薄になると考えられたので、そのうち 4 件については、事務局が作成する文書により回答をすることが、参加市民により了承された。

(5) 専門家の選定と依頼

事務局は、第 4 回会議でまとめられた参加市民の追加コミュニケーションの内容を踏まえて、専門家を選定し、依頼した。

第 4 回会議において話し合われた議論等を、専門家に説明した。その中で第 5 回会議の追加コミュニケーションが「市民の提案」とりまとめのための議論の材料であることを告げた。

(6) 第5回会議

1. 日 時 平成 13 年 11 月 13 日(火) 10:00~16:00
2. 場 所 神奈川中小企業センター(横浜市中区上町 5-80)
3. 参加者 参加市民 15 名、世話人 1 名(補助 1 名)、専門家 4 名、
技術安全課 1 名、事務局 6 名、一般傍聴 27 名
4. 参加市民への配付資料
参加者リスト、第 5 回専門家プレゼンテーション要旨(事前配付)、
第 5 回専門家プレゼンテーション資料(OHP、スライド等)、
文書回答集* (事前配付)
 - i. 「遺伝子組換え食品・農作物の審査体制(日本)」
 - ii. 「遺伝子組換え農作物に係わる特許状況」
 - iii. 「外国の農業生産者の声」
 - iv. 「遺伝子組換え技術の農作物への応用に関する肯定派 vs 非肯定派の意見など
の対比表」

※ 文書回答集の作成は、中立性を保つため、次のように行った。

 - ・官公庁公表データ・資料をベースにした。
 - ・肯定派または慎重/否定派が著書の成書それぞれ複数を対象として、それらの中から項目別にそれぞれの見解等をピックアップし整理した。
5. 一般傍聴者への配付資料
第 5 回専門家プレゼンテーション要旨及び資料、「遺伝子組換え農作物を知るために」、「組換え農作物早わかり Q&A」、「くらしのなかのバイオテクノロジー」、「遺伝子組み換え食品」(暮らしの手帖 2001 年 6・7 月号)、文書回答集
6. 内 容
 - 10:00 運営説明
 - 10:10 専門家の考え(1)
鎌田 博 氏(筑波大学教授)
 - 10:50 専門家の考え(2)
水原 博子 氏(日本消費者連盟事務局長)
 - 11:30 総合コミュニケーション
鎌田氏、水原氏
 - 12:00 <昼食・休憩>
 - 13:00 「表示・流通などについて」
川村 和彦 氏((独)農林水産消費技術センター)
 - 13:30 「国際状況などについて」
大島 潔 氏(農林水産省農林水産技術会議事務局技術安全課)
 - 14:00 総合コミュニケーション
川村氏、大島氏、鎌田氏、水原氏
 - 15:00 <仙台>農業生産者の声(ビデオテープ)
 - 15:20 「市民の提案」とりまとめの進め方の議論
 - 16:00 閉会

第4回会議の際に参加市民によりまとめられた追加コミュニケーション内容のうち、いくつかは、文書にて回答を作成し、参加市民に事前配付した。また、この文書回答集は一般傍聴者にも配付した。

専門家による追加コミュニケーションが行われた。なお、15:00から〈仙台〉で農業生産者6名全員が考えを述べたビデオテープを放映した。

総合コミュニケーションの後には、第6回会議に行われる「市民の提案」のとりまとめについての説明があり、そのとりまとめをどのような進め方でまとめるか等の話し合いが行われ、効率的に進めるために提案等を文書化したものを持参して「市民の提案」のとりまとめに利用すること等が決定された。

(7) 第6回会議

1. 日 時 平成13年11月21日(水) 10:00~20:30(16:00より4時間半延長)
2. 場 所 神奈川中小企業センター(横浜市中区尾上町5-80)
3. 参加者 参加市民14名(1名欠)、世話人1名(補助1名)、
技術安全課2名、事務局7名
4. 参加市民への配付資料
参加者リスト、参加市民名簿(氏名(フリガナ)、年齢層、地域、職業(24頁参照))、
参加市民アンケート用紙
5. 内 容
10:00 開会、運営説明
10:10 参加市民による議論と「市民の提案」とりまとめ
12:00 <昼食・休憩>
13:00 参加市民による議論と「市民の提案」とりまとめ
16:00 参加市民による議論と「市民の提案」とりまとめ(延長)
20:30 閉会

1名の参加市民が所用により欠席となったが、事前に事務局宛に提案等を文書化したものを提出した。その提案等を「市民の提案」とりまとめの議論に反映させることが、参加市民により了承された。

これまでの会議を受けて、参加市民による議論が行われ、「市民の提案」とりまとめが行われた。3グループに分かれて、各グループが数項目ごとに参加市民が事前に文書化した提案等を考慮に入れて提案をまとめた。その後スクリーンにとりまとめの文書を映写し、各項目ごとに全員で確認しながらとりまとめをまとめていくこととした。遺伝子組換え食品の安全性、遺伝子組換え農作物の環境への影響、社会的・経済的影響、行政・制度等についての項目がまとめられた。「市民の提案」のとりまとめは、当初の予定では、16:00までの予定であったが、終了したのは20:30であった。しかし、最終的な文書化には至らなかった。

会議終了後、プレス公表に使用する氏名等が記載された参加者名簿を渡し、その名簿をプレス公表に使用する許可を取るとともに、参加市民アンケートを配付した。(アンケート結果は70~82頁参照)

(8) 市民の提案の最終文書化

会議中にとりまとめられた「市民の提案」は、会議後世話人が中心となって参加市民全員との文書連絡により、文書校正等が行われ、12月に入ってから完成した。(39~44頁参照)

3) 市民会議<仙台>の開催

(1) 第1回会議

1. 日 時 1日目 平成13年10月6日(土) 13:00~19:30
2日目 平成13年10月7日(日) 9:00~18:30
3日目 平成13年10月8日(月・祝日) 9:00~15:00
2. 場 所 かんぼヘルスプラザ仙台(仙台市青葉区上杉3-2-7)
3. 参加者 参加市民16名、専門家10名、世話人1名、
技術安全課1名、事務局7名、一般傍聴(1日目6名、2日目8名)
4. 参加市民への配付資料
事務的連絡事項、参加者リスト、第1回専門家プレゼンテーション要旨(事前配付)、
第1回専門家プレゼンテーション資料(OHP、スライド等)
5. 一般傍聴者への配付資料
第1回専門家プレゼンテーション要旨及び資料、「遺伝子組換え農作物を知るために」、
「組換え農作物早わかり Q&A」、「くらしのなかのバイオテクノロジー」、
「遺伝子組み換え食品」(暮らしの手帖2001年6・7月号)
6. 内 容

1日目(10月6日(土))

13:00 開会

1)主催者挨拶(含:趣旨・運営)

2)メンバー紹介

(1)参加市民自己紹介

(2)世話人、専門家、農林水産省技術安全課、事務局

3)世話人コメント

4)専門家とのコミュニケーションを始めるにあたって

13:40 「共通基礎知識」

太田 隆久 氏(東京大学名誉教授)

15:00 <休憩>

15:20 「農作物の品種改良と遺伝子組換え技術」

藤巻 宏 氏(東京農業大学教授)

17:10 <休憩>

17:20 「環境安全性」基礎知識と専門家の考えその1

田部井 豊 氏((独)農業生物資源研究所研究チーム長)

18:00 「環境安全性」専門家の考えその2

小若 順一 氏(日本子孫基金事務局長)

18:30 「環境安全性」総合コミュニケーション

田部井氏、小若氏

19:00 フリー懇談

19:30 終了

2 日目(10 月 7 日(日))

- 9:00 運営説明
- 9:10 「食品安全性」基礎知識と専門家の考えその 1
三瀬 勝利 氏(前国立医薬品食品衛生研究所副所長)
- 10:30 「食品安全性」専門家の考えその 2
山口 英昌 氏(大阪市立大学教授)
- 11:00 総合コミュニケーション
田部井氏、三瀬氏、山口氏
- 12:00 <昼食・休憩>
- 13:00 「社会科学的側面」専門家の考えその 1
大塚 善樹 氏(広島経済大学助教授)
- 13:40 「社会科学的側面」専門家の考えその 2
山根 精一郎 氏(日本モンサント(株)副社長)
- 14:20 「社会科学的側面」総合コミュニケーション
大塚氏、山根氏
- 15:20 <休憩>
- 15:40 「科学アナリストからみて」
川口 啓明 氏(科学アナリスト)
- 16:20 「ジャーナリストからみて」
中村 靖彦 氏(農政ジャーナリストの会会長)
- 17:00 総合コミュニケーション
川口氏、中村氏
- 18:00 参加市民による議論と「市民の提案」とりまとめの進め方に関する議論
- 18:30 終了

主催者 STAFF の理事長は、挨拶の後、市民会議が開催されるに至った経緯、参加市民の募集・選出の経緯、参加市民が主役であること、市民会議の流れ、今回の市民会議では別室での傍聴が行われること等についての説明があった。

参加市民全員の自己紹介の後、世話人のコメントがあった。世話人コメントでは、あくまで世話人は補佐であり、参加市民が主役であることが強調された。

「共通基礎知識」及び「農作物の品種改良と遺伝子組換え技術」では、説明時間が長くなることから、専門家は、持ち時間を 2 つに分け、説明・質疑応答、説明・質疑応答という構成でプレゼンテーションを行った。

また、市民会議では専門家は持ち時間の半分を説明に使い、残りの半分は参加市民との質疑応答に時間をとった。専門家は、参加市民との質疑応答とは別途、参加市民との総合コミュニケーションを行った。なお、専門家を使用する OHP 等のプレゼンテーション用の資料は参加市民がメモをとりやすく、また別室の傍聴者に対して、わかりやすくなるように事前に参加市民及び一般傍聴者に配付した。(以降同じくなる様に努めた。)

1 日目の総合コミュニケーションの後に、フリー懇談が行われ、今後の市民会議の進め方等についての懇談が行われた。

2 日目の総合コミュニケーションの後、「市民の提案」中間とりまとめの進め方等について参加市民の議論が行われた。また、遺伝子組換え農作物について、項目別に考え、意見、提案等を翌日までに付箋紙に記入して、「市民の提案」中間とりまとめの際に使用することとした。事務局は参加市民に付箋紙を配付した。

3 日目(10 月 8 日(月・祝))

9:00 運営説明

9:10 参加市民による議論と「市民の提案」中間とりまとめ

12:00 <昼食・休憩>

13:00 参加市民による議論と「市民の提案」中間とりまとめ

専門家と参加市民との追加コミュニケーション内容の決定

15:00 終了・閉会

1 名の参加市民が都合で急きょ会議を欠席することになり、15 名で「市民の提案」中間とりまとめが行われた。この欠席者は、中間とりまとめの基となる意見、提案等を記入した付箋紙を提出できなかつたので、その意見等を中間とりまとめに反映させることは出来なかつた。

1 日目、2 日目の専門家のプレゼンテーション・総合コミュニケーションをもとに、参加市民同士による議論が行われた。前日の夜に参加市民各自が、遺伝子組換え農作物について項目別に意見、提案等を記入してきた付箋紙を用いて KJ 法により議論すべき項目、意見、疑問点等を整理した後、3 グループに分かれて「市民の提案」中間とりまとめのための議論が行われた。

まとめられた内容は、遺伝子組換え農作物の食品としての安全性、環境への影響、特許、メリット、デメリット等についてまとめられた。また第 2 回会議にどのような専門家との追加コミュニケーションを行うか等について話し合われた。

また、参加市民から、用語集・海外農業生産者の考え等の資料に関する要望であったので、団体及び専門家の作成した用語集等を事務局が用意することが、参加市民により了承された。

(2) 専門家の選定と依頼

事務局は、第 1 回会議でまとめられた参加市民の追加コミュニケーションの内容を踏まえて、専門家を選定し、依頼した。

第 1 回会議において話し合われた議論等を、専門家に説明した。その中で第 2 回会議の追加コミュニケーションが「市民の提案」とりまとめのための議論の材料であることを告げた。

(3) 第2回会議

1. 日時 1日目 平成13年11月23日(金・祝日)13:00~19:30
2日目 平成13年11月24日(土) 9:00~18:30
2. 場所 ホテルリッチフィールド仙台 10階7エックス(ABC会議室)
仙台市青葉区国分町2-2-2
3. 参加者 1日目(11月23日)
参加市民14名(2名欠席)、世話人1名、専門家3名、技術安全課2名、事務局7名、一般傍聴8名
2日目(11月24日)
参加市民14名(2名欠席)、世話人1名、技術安全課2名、事務局7名
4. 参加市民への配付資料
事務的連絡事項、参加者リスト、第2回専門家プレゼンテーション要旨(事前配付)、
第2回専門家プレゼンテーション資料(OHP、スライド等)、
文書回答集(事前配付)
 1. 「アメリカ農業生産者の声」
[肯定派及び慎重/否定派が著書の成書からそれぞれ整理して作成した]
 2. 遺伝子組換え食品関連用語集(食品科学広報センター編)
 3. 用語解説(太田隆久編)参加市民名簿(氏名(フリガナ)、年齢層、地域、職業(24頁参照))(2日目に配付)
5. 一般傍聴者への配付資料
第2回専門家プレゼンテーション要旨及び資料、「遺伝子組換え農作物を知るために」、「組換え農作物早わかりQ&A」、「くらしのなかのバイオテクノロジー」、「遺伝子組み換え食品」(暮らしの手帖2001年6・7月号)、文書回答集
6. 内容
1日目[11月23日(金:祝日)]
 - 13:00 開会・運営説明
 - 13:10 専門家の考え(1)
日野 明寛 氏((独)食品総合研究所)
 - 13:50 専門家の考え(2)
水原 博子 氏(日本消費者連盟事務局長)
 - 14:30 表示・流通などについて
川村 和彦 氏((独)農林水産消費技術センター)
 - 15:10 <休憩>
 - 15:30 総合コミュニケーション
日野氏、水原氏、川村氏
 - 16:30 <休憩>
 - 16:40 参加市民による議論と「市民の提案」のとりまとめ
 - 17:40 <休憩>
 - 18:00 参加市民による議論と「市民の提案」のとりまとめ(続)
 - 19:00 閉会

第2回会議では、2名の参加市民が所用により欠席した。内1名は第1回会議において3日目に欠席した参加市民であった。欠席者2名は、「市民の提案」とりまとめの基となる意見、提案等を記した文書を提出することが出来なかったため、その意見等は「市民の提案」とりまとめの議論に反映させることは出来なかった。

第2回会議の際に参加市民から要望があった用語集等は、文書にて回答を作成し、参加市民に事前配付した。また、この文書回答集は一般傍聴者にも配付した。

総合コミュニケーションの後、参加市民の議論の後に「市民の提案」のとりまとめが行われた。項目別に3グループに分かれ、大まかに提案をまとめた。

2日目〔11月24日(土)〕

9:00 開会

9:10 参加市民による議論と「市民の提案」のとりまとめ

12:00 <昼食・休憩>

13:00 参加市民による議論と「市民の提案」のとりまとめ(最終)

参加市民による「市民の提案」の発表

15:00 閉会

前日に引き続き、「市民の提案」のとりまとめが行われた。1日目同様3グループに分かれ、大まかに提案をまとめた後、スクリーンにとりまとめの文書を映写し、全員で確認しながらまとめる方法をとった。提案は食料問題、食料・農業、環境、食品としての安全性、情報、教育の項目についてまとめられた。しかし、最終的な文書化には至らなかった。

会議終了後、プレス公表に使用する氏名等が記載された参加者名簿を渡し、その名簿をプレス公表に使用する許可を取るとともに、参加市民アンケートを配付した。(アンケート結果は83～93頁参照)

(4) 市民の提案の最終文書化

会議中にとりまとめられた「市民の提案」は、会議後世話人が中心となって参加市民との文書連絡により、文書校正等が行われ、12月に入ってから完成した。本文中の少数意見は1件だけであったので、参加市民全員の了解をとり前文に組み入れることとした。また、一部事実誤認があったので、これも参加市民全員の了解をとり修正した。(45～49頁参照)

4) 市民会議の公開と情報発信

市民会議は、その会議の目的から、会議内容を極力公開すること、情報発信を実施することが重要である。そのため、市民会議については、会議開催決定から「市民の提案」の公表まで、プレス公表、ホームページ、一般傍聴等により、その公開と情報発信に努めた。

情報発信の内容は以下の通りである。

(1) プレス公表

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」の開催告知から、「市民の提案」の公表までに計3回のプレス公表を行った。プレス公表の内容等は下記のとおりである。

月/日	内容
8/2	市民会議の開催告知と参加市民募集
9/7	参加市民の選出結果、申込状況、選出方法と一般傍聴のお知らせ
12/14	「市民の提案」の公表

(2) ホームページへの掲載

STAFF ホームページにて、プレス公表内容、市民会議の経過をできるだけ速やかに、ホームページに掲載することにより情報公開に努めた。

掲載内容は下表のとおり。

月/日	タイトル
8/ 2	市民会議の参加市民募集と開催告知
9/ 7	参加市民の選出結果と一般傍聴のお知らせ
9/19	<横浜>第1回会議概要
	<横浜>第1回専門家プレゼンテーション要旨
	<横浜>第1回専門家プレゼンテーション用資料
9/27	<横浜>第2回会議概要
	<横浜>第2回専門家プレゼンテーション要旨
10/10	<横浜>第3回会議概要
	<仙台>第1回会議概要
	<横浜>第4回会議概要
12/ 5	<横浜>第5回会議概要
	<横浜>第6回会議概要
	<仙台>第2回会議概要
12/14	「市民の提案」の公表

(3) 会議の一般傍聴及び報道取材

市民会議において、「市民の提案」をとりまとめ(中間を含む)をまとめるための議論以外の専門家のプレゼンテーション及び、総合コミュニケーションは全て別室にての傍聴を行い、情報の公開に努めた。

横浜における一般傍聴による公開は第1回、第2回、第3回、第5回会議の計4日間行った。仙台では、第1回会議の1日目、2日目、第2回会議の1日目の3日間一般傍聴による公開を行った。各回の傍聴者数は下記のとおり。

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」一般傍聴者数

<横浜>月/日等	<横浜>	<仙台>	<仙台>月/日等
第1回会議 9/18	21名	6名	第1回会議1日目 10/ 6
第2回会議 9/26	42名	8名	第1回会議2日目 10/ 7
第3回会議 10/ 3	31名		
第5回会議 11/13	27名	8名	第2回会議1日目 11/23

3 - (1) 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」

「市民の提案」

<横浜>

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」 <横浜>
「市民の提案」

横浜において開催された「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」に際して、私たち 15 名は参加市民に応募して抽選により選ばれ、9 月から 11 月の間に 6 回にわたって会議を行いました。

9 月 18 日、9 月 26 日及び 10 月 3 日に、9 名の専門家から基礎知識の説明を受け、専門家との質疑応答・意見交換等を行いました。これをもとに、10 月 9 日に、私たち参加市民による議論を行い、中間とりまとめを行うとともに、さらに専門家から追加説明を受けたい内容をまとめました。その後、11 月 13 日に、4 名の専門家から説明を受け、専門家との質疑応答・意見交換等を行い、最終日の 11 月 21 日に、項目ごとに私たちの考えをとりまとめ、この「市民の提案」を作成しました。

10 月 9 日及び 11 月 21 日のとりまとめにあたっては、3 つに分かれてのグループ別議論と全体議論とを繰り返しましたが、参加者の考えはきわめて多様でした。「市民の提案」のとりまとめ方についても、多様のまますべて盛り込んだほうがよいのではないか、という議論も行われたほどです。

しかし、異なる考えもあることを踏まえたうえで議論を繰り返し、共通の考えを探りながら、項目ごとに問題点と提案をとりまとめ、「市民の提案」としました。

1 遺伝子組換え食品の安全性について

(1) 実質的同等性について

* 問題点：実質的同等性の概念だけで、遺伝子組換え作物も安全としていること。

* 提案：実質的同等性の概念だけで元の農産物との設定項目ごとの比較をするだけでなく、遺伝子組換え農産物そのものを検体とする安全性試験により確認することを望む。その方が現在の科学レベルからして合理的である。また、確認にかける期間も短期でなく、10 年くらいの長期に亘る期間が求められる。

(2) アレルギー性について

* 問題点：現在の安全性確認は、既存のアレルゲンとの相似性等をもって検討しているというが、不十分ではないか。

* 提案：① 産生されるタンパク質自身が、アレルゲン性を持つかどうかという点については、さらなる検討が必要である。

② 高齢者、幼児、妊産婦、消化器官摘出者などハイリスクグループの人達など、さまざまなケースを想定した試験も必要である。

(3) 消費者の漠とした不安について

* 問題点：① 安全性の確認が短期間しか行なわれず、将来にわたる安全は不明のままである。

② エイズ・ヤコブ病などは、海外で危険性が指摘されていたにもかかわらず、対応が遅れた行政に不信感がある。

* 提案：① 消費者は遺伝子組換え食品の安全性について、正しく客観的な情報

を求めている。消費者が安全性を容易に判断できるように、正しくわかりやすい情報開示・提供を行うことを、企業・行政・専門家の役割として早急に確立していくべきであろう。

②買いたくない人が買わなくてもすむように、表示を徹底してほしい。

2 遺伝子組換え農作物が環境に及ぼす影響について

(1) 環境に関する長期的観察について

* 問題点：現在の実験ほ場での確認期間は短い。

* 提案：環境に与える影響について、長期にわたる観察と確認が、開発責任者もしくは何らかの公的機関により行われる必要がある。

(2) 生態系への影響について

* 問題点：遺伝子組換え農作物は「種」の壁を越え人為的に遺伝子を操作された生物であり、近縁種への影響が考えられる。従来の環境汚染物質とはこの点が大きく異なるところである。ダイオキシン・PCBなどの化学物質や放射能は、時間が経過すれば、年数はかかるとしても確実に量は減っていく。しかし、農作物は環境に適応すれば、時間の経過と共に数は増えていく。そこに、遺伝子組換え農作物の環境への影響の深刻さがある。

* 提案：①生態系に与える影響について、長期にわたる観察と確認が、開発責任者もしくは何らかの公的機関により行われる必要がある。

②生態系への影響を最小限に止めるためには、作付けの時に、近縁種や雑草などと交配しないための方策が必要と考える。

3 遺伝子組換え農作物が与える社会的・経済的影響について

(1) 日本の農業政策の中で遺伝子組換え技術をどう位置付けるのか

* 問題点：①遺伝子組換え農産物がダイレクトで日本人の食に輸入されている現状に鑑み、「食のあり方」「農業の将来像」を考え直す時期にきているのではないか。

②遺伝子組換え技術が日本の農業にどのような「好影響」を与えることができるのか、よくわからない。米国などの大規模農業や途上国の安い労働力の攻勢を受け、価格競争では先が見えない日本の農業にとって、遺伝子組換え技術はどのように貢献できるのだろうか？

* 提案：①消費者の遺伝子組換え農作物に対する漠とした不安感や不信感を逆手にとって、「国産」イコール非遺伝子組換え農作物路線を貫き、価格外の競争力を高める方向に利用することもできるかもしれない。日本の自給率をどうするのかという戦略のもとに、遺伝子組換え技術を考え直す機会を設けてはどうか。

②「食と農」について生産者と消費者が共同で考える場を作ってほしい（シンポジウムの開催等）。生産と消費が乖離してしまっている今、無農薬・有機農法・減反・自給率などのことを生産者と消費者で考えた上で、遺伝子組換え農作物についても取り組むべきである。

遺伝子組換えイネの導入については慎重に検討を重ねてほしいという声もある。

- ③日本・韓国・中国を主とする東アジアの諸国と「食料」供給における、共通政策を探る。もはや一国だけで、経済を論ずることが困難な国際環境であることを考慮して、この地域の共通理解に基づく、生産分業、開発投資、分配・流通を目指す農業政策を探る。

(2) 世界の農業政策の中で遺伝子組換え技術をどう位置付けるのか

- * 問題点：①遺伝子組換え農作物の技術開発は、一部先進国、とりわけアメリカの優位が確立され、その差がますます拡大していくのではないかと。
②そもそも飢餓に苦しむ人々に向けた技術開発に、企業がどれだけ努力できるのかは疑問である。
③開発された技術は当然特許の対象となり、途上国は種子や農薬を先進国から購入するしかない。食糧問題や人口問題は南北問題と深いつながりがあることは明らかなのに、遺伝子組換え技術によってさらに途上国の経済的自立が難しい状況になるのではないかと。
- * 提案：①遺伝子組換え農作物の開発に要する資本を公的な一定の機関にプールし、そこから得られた科学的知見だけを有効活用する仕組みにする必要がある。その成果をあらゆる国で自由に活用できる共有財産となるような仕組み作りを検討すべきだと思う。
②遺伝子組換え技術を技術的視点からだけではなく、倫理や社会経済的視点から議論・コントロールする場が必要だ。遺伝子組換え農作物の技術開発を科学者、研究者の独走にまかせず、社会的・経済的専門家も含めた各専門学界などで、チェックし制御する。
③世界の食糧危機を解決するためには遺伝子組換え技術だけに頼らなくてもよい。自給率が低いにもかかわらず、食物廃棄が多い日本人の食生活を見直してはどうか。

(3) 今後の開発の方向性について

- * 問題点：多くの人々が遺伝子組換え技術にまだまだ不安を抱えているにもかかわらず、現在は研究者や企業の主導で遺伝子組換え農作物は開発され市場に出回ってきている。今後どういう分野でこの技術を使っていきたいのか、また使ってほしくないのか、方向性を考える場に市民が声を届けることができていない。
- * 提案：どの分野に遺伝子組換え技術を生かしていくのか、もっとオープンに議論する場を継続してもっていきべきではないだろうか。科学者以外に一般市民の声を反映できる市民会議の継続を望む。

4 行政に対して

(1) 法律について

*問題点：現状の「食品衛生法」は、50年以上前に制定され、改正を重ねてきたが、消費者の健康を守るために、十分に機能しているとはいえない。加えて、食品の安全性に関わる省庁や法律体系がバラバラで、連携がとれていないのではないかと。

*提案：①消費者の健康を守ることを目的に、生産、流通、消費、情報開示まで、すべての食品を対象とする「食品安全法」（仮称）を制定する。
②「食品安全法」（仮称）に基づいた、行政の縦割りを解消した機関「食品統括会議」を設置する。その内容は、輸入、生産、流通、食品加工、食品安全などを総合的に審議するもので、機能としては、政策立案、規制、勧告などが考えられる。構成は、科学者、生産者、流通業者、行政、消費者とする。

(2) 検査について

*問題点：輸入品に対する検査体制は大変不十分なものである。水際における検査率約3%という現状では、今回発生したような未承認遺伝子組換え農産物の混入という事態も把握できない。

*提案：問題が発生したか否かでなく、遺伝子組換え食品など特に新しい分野のものについては、検査率を向上させる等、食の安全を図る方策を導入する。

私たちの生命の柱となる食を守るために、検疫所の検査官を大幅に増員してほしい。

(3) 表示について

*問題点：①表示は消費者の商品選択に不可欠な唯一の情報であるにもかかわらず、現在、遺伝子組換え食品の表示は、消費者が安心して購入できる方法になっていない。

②現段階では義務表示対象が限られているので、遺伝子組換え農産物が使われているのか使われていないのかわからず識別できない食品も多い。

③遺伝子組換えでないを表示するためには、EUでは遺伝子組換え農産物の混入が1%未満でなければならない。日本は混入率が5%未満まで許容されていて、基準が緩やかである。

*提案：①簡単に識別可能な表示方法にするべきであり、遺伝子組換え食品であることが一目でわかるようなラベルを貼付する。

②遺伝子組換え農産物を使用しているすべての加工食品に、表示を義務づけてもらいたい。

③表示方法は、国際的に統一することが望まれる。

④表示方法に違反している場合は厳格な罰則を科す。

⑤表示の根拠となる検査技術を向上させる

⑥分別流通を徹底して、もっと許容混入率を引き下げてほしい。

(4) 情報公開・消費者の施策立案への参画・教育について

a. 情報公開について

*問題点：行政と個人である消費者の情報の差は歴然である。消費者は遺伝子組換え食品関連の情報伝達不足を感じている。情報を公開するにあたり、行政は消費者への一方的な情報提供にとどまりがちである。

また、遺伝子組換え食品に限らず、有害であることが判明したときの情報開示は確立されていない。

*提案：行政は、情報公開をもっと進めていくべきである。消費者の声を常に聞くという姿勢が必要だろう。対等に意見を交換しながら施策につなげることが必要だ。また食品の安全性について何か問題が起こったときに被害を最小限にいとめるため、行政は、速やかな対応システム作りを推進するべきである

b. 消費者の施策立案の参画について

*問題点：遺伝子組換え食品の関連委員会、審議会等への消費者の参加の機会が少ない。またリスク評価をする場合、専門家の意見は大切だが消費者とは、情報量、知識のレベルに大差がある。

*提案：委員は公募とし、構成メンバーは1/3くらいを消費者とする委員会の設置等を推進してほしい。また委員会では、力の差があっても、専門家は消費者をサポートし、対等にコミュニケーションが図れるようにしてほしい。

c. 教育について

*問題点：専門家等からの情報を多く得ることができても、消費者側は理解する術がない。

*提案：遺伝子組換え技術、遺伝子組換え食品を含めて、食と農業、環境問題等にまで理解を深めたうえで、正しい選択が出来るよう、教育の現場でこの問題を取り入れていくことが必要である。

3 - (2) 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」

「市民の提案」

<仙台>

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」〈仙台〉
「市民の提案」

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」〈仙台〉に際して、参加市民が東北6県から公募され、私たち16名が抽選で選ばれました。

私たちは、10月6日と10月7日に10名の専門家から基礎知識の説明を受け、専門家との質疑応答・意見交換等を行い、これをもとに、10月8日に、私たち参加市民による議論を行い、中間とりまとめを行うとともに、さらに専門家からの説明を受けたい内容をまとめました。11月23日に、3名の専門家から説明を受け、専門家との質疑応答・意見交換等を行い、その日から11月24日にかけて、項目ごとに私たちの考えをとりまとめ、この「市民の提案」を作成しました。

10月8日と11月23日から24日にかけてのとりまとめにあたっては、3つのグループに分かれてのグループ議論と全体議論とを繰り返しました。

遺伝子組換え技術は研究をも含めて全面凍結すべきであるという少数意見もありましたが、共通的な考えを項目ごとに課題と提言としてとりまとめ、「市民の提案」としました。

なお、16名のうち2名は、本人のやむを得ぬ事情により、この「市民の提案」とりまとめに参加できませんでした。

はじめに

日本の食糧供給地としての役割を担う東北の農業者を含めた市民が集まってこの会議が開かれました。今、世界的な食料不足が心配されています。一方、食料の国際化の中で日本の食料自給率は40%を割るに至っています。国は新農業基本法において自国食料の安定供給と農業の振興を図ろうとしています。

そこで、そのような現状を十分にふまえて、遺伝子組換え農作物の問題を日本の食料・農業問題の視点から話し合いました。

遺伝子組換えについては、科学的な技術としては貴重なものであると理解していますが、これまでのような国民的コンセンサスを得る前に普及を進めるようなことは問題だと思われれます。現段階の遺伝子組換え農作物に関して言えば、歯止めのきかない輸入農産物の拡大が危惧されます。

しかし、一方で国が市民の声を反映して、遺伝子組換え食品の表示を進めた事については評価ができます。

○世界の食料問題

課題

人の命に関わるものについて経済性が優先されています。

特定の企業による種子や食料の支配が懸念されます。

世界的人口の増加により食料不足が懸念されています。

先進国が穀物を浪費しています。

提言

特定の企業による種子や食料の独占は認められません。

生命にかかわる食料・医薬品などは営利や特許の対象にすべきではありません。

世界的人口増加による食料不足の回避は、遺伝子組換え技術の応用で解決することを訴えるより、第3世界の貧困からの解放など女性の地位向上の点からの解決が先決です。

先進国のカロリーの迂回生産（発展途上国の人たちの食糧にもなるトウモロコシなどを家畜に与えること）を考え直すことも必要です。

地球全体の農業を考えた時、遺伝子組換え農作物が経済的に弱い文化的農業、自給自足的小規模農業のほとんどを駆逐する恐れがあります。

○食料・農業

課題

自給率の低下している日本農業は危機的現状です。

国民的合意が得られれば今後の技術としても大切であることは認めますが、現段階の遺伝子組換え技術について不安はまだ拭えません。

日本で遺伝子組換え農作物を生産しても、コスト的に海外農産物に太刀打ちはできるとは思えません。

地域の食文化にあった食料生産が進められていません。

提言

・ 自給率向上のための施策、消費者の意識変革の必要があります。

遺伝子組換え農産物の推進よりも、飼料を含めた自給率を向上すべきです。

自給率を高めるために、より一層の技術向上にむけた努力が必要です。（遺伝子組換えの技術も含めて）

○環境

課題

生物多様性の視点から遺伝子組換えは問題だと思えます。

一度破壊された自然環境は元の状態には戻せません。

農業現場において、除草剤をまくと除草剤耐性の雑草が生えてきます。そのような現状が肌で理解出来ている現場においては、遺伝子組換えの技術が、環境に影響を与えず安全であるという理論について、まだ不安を払拭できていません。

環境に対するリスクは、まだまだ不安があります。グローバルな視点でのリスクを考えて欲しいと思えます。

一部の科学者からは、生物や昆虫など生態系への影響なども報告されています。

提言

検証に時間をかけるべきです。

開発段階から徹底したリスク管理を行うべきです。

リスク情報の公開・共有化を行なう必要があります。

重要性と有用性、安全性をきちんと判断してから許可すべきです。

○食品としての安全性

課題

急性毒性からみた安全性のチェックは信頼しますが、長期・慢性毒性（身体へ影響）には不安があります。

抗生物質耐性やアレルギーへの不安感は残ります。

企業の情報だけによる安全性の確認では、不十分だと思われれます。

健康被害が出たとしても立証不可能であることが一層の不安を感じさせます。

提言

国際基準も必要ですが、経費や時間をかけても生命にかかわるものについては、より厳しい国内の安全基準づくりを要求します。

○情報

課題

明確な表示がされていません。

コンセンサスをもっと得たうえで進めるべきだと思えます。

非遺伝子組換え農作物の表示であっても5%までの混入を認めているのが問題です。

提言

わかりやすい表示を求めます。

遺伝子組換え技術に由来するものを使用したものについては、加工後残留していないものについてもすべて表示をするべきです。

メリット・デメリット及びリスク情報の公開を進めて下さい。

情報の公開は、消費者のわかりやすい手に入れやすい方法で常に公表してください。

遺伝子組換え農作物の混入率は5%まで認めています。混入率をヨーロッパなみに(1%)厳しくしたうえで「遺伝子組換えしていません」の任意表示を認めるべきです。

○教育

課題

自分たちの生きる糧となる食料問題を含め、幼少期から次世代を担う人達に国内農業の重要性と家庭での食生活の重要性を理解してもらうための教育が不足しています。(遺伝子組換えに関するものも含めて)

提言

すべての人が遺伝子組換え農産物も含めて食の情報に気を配ることは必要です。そのために常に食生活を大切にす教育を進めるべきです。

・学校現場でも農業にふれさせる場面をふやすようにして下さい。

おわりに

さまざまな立場の市民が集い、遺伝子組換え農作物について専門家の皆様からお話を伺い、コミュニケーションを持てたことを感謝いたします。

遺伝子組換え農作物からいろいろな問題が見えてきました。特に今、日本の抱える農業問題、単に食料としてだけでなく、環境保全の面からも農業の果たす大きな役割を私たちはもっと評価し、国も必要な助成をすべきだと思います。

立場の違いはあれ、この技術については今後とも共に考え、科学最優先ではなく、市民の理解を積極的に求めながら、社会にとって安全かつ有用な技術として確立できればと願っております。

このような場を用意して下さった世話人及びSTAFFのみなさま、本当にありがとうございました。

4. 市民会議終了後の活動

(1) 関係省庁への要望

STAFF 理事長は、市民会議でとりまとめられた「市民の提案」を遺伝子組換え農作物等に係わる政策の推進に当たっての参考として頂くよう、平成 13 年 12 月 14 日付で、農林水産省、厚生労働省及び文部科学省に要望書を提出した。(次項資料 7 参照)

(2) 第 2 回企画委員会

日 時：平成 14 年 1 月 16 日(水)15:00～17:00

場 所：STAFF 会議室

出席者：企画委員 5 名

【世話人 2 名、農林水産省農林水産技術会議事務局技術安全課 2 名、事務局 8 名】

以上 17 名

内 容：市民会議の開催経過の報告、意見交換がなされた。さらに、報告書の構成等、参加市民による座談会を行うこと等が検討された。

(3) 調査研究

STAFF は「市民の提案」を踏まえ、環境影響・食品安全性にかかわる試験研究を開始した。調査課題は下記の 2 課題である。

- ・ 花粉飛散による遺伝子流動の予防措置に関する研究
- ・ 食用作物に含まれる有害物質の調査、データベース化

(4) 座談会

<横浜>・<仙台>各 5 名、計 10 名の参加市民にお集まり頂き、「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」を振り返るとともに、市民会議のあり方等について、話し合う座談会を行った。司会は、市民会議のエバリュエータを担当した筑波大学の小林信一先生にお願いした。

(資料 7)

関係省庁への要望

〔農林水産省〕

農先振平 13-51号
平成 13年 12月 14日

農林水産省農林水産技術会議事務局
岩元 陸夫 事務局長殿

(社) 農林水産先端技術産業振興センター
理事長 畑中 孝晴

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」の「市民の提案」について

当センターの運営等につきましては、日頃よりご指導賜りまして有り難うございます。

遺伝子組換え農作物については、遺伝子組換え技術の発達・進歩により、その応用が進んでいるところですが、研究開発の推進と併せて、安全性の確保とともに、一般市民の関心に的確に応えることが重要となってきています。

そこで、当センターでは、貴省の委託を受け、昨年度の「遺伝子組換え農作物を考えるコンセンサス会議」に引き続き、今年度は、「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」（以下「市民会議」）を開催いたしました。

今年度は、昨年度の「コンセンサス会議」の経験を踏まえ、横浜及び仙台の2地域で、公募により選出された参加市民と専門家とのコミュニケーションに重点を置いた「市民会議」を開催することとし、参加市民が議論を重ねたうえで、「市民の提案」が取りまとめられました。

これについて、本日別添のとおり取りまとめられましたので、ご報告申し上げます。

貴省におかれましては、このような市民の提案も取り入れて、遺伝子組換え農作物に係わる政策の推進に当たられますよう要望致します。

〔厚生労働省〕・〔文部科学省〕

同様の文書を、厚生労働省医薬局食品保険部、文部科学省研究振興局ライフサイエンス課宛てに、平成 13年 12月 14日に提出した。

5. 寄稿文・参加市民アンケート

(1) 寄稿文

世話人

正木 英子 (横浜)	54
有田 芳子 (仙台)	56

横浜参加市民

神山 光江	58
田村庄一郎	59
樋口 武	60
村田 晴雄	61
吉田美智子	62
渡辺 美砂	63

仙台参加市民

石木田麻梨子	64
入間田範子	65
金野千恵子	66
松村ウメ子	67
本木 清博	68
吉武 洋子	69

(2) 参加市民アンケート

参加市民アンケートのまとめ<横浜>	70
参加市民アンケートのまとめ<仙台>	83

寄稿文は、世話人及び参加市民全員に事務局が執筆を依頼した。ここでは、執筆をして頂いた世話人及び、参加市民の寄稿文を掲載する。また掲載順は、会議別・五十音順に掲載した。

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」を振り返って

＜横浜＞世話人 正木英子

昨年は「遺伝子組換え農作物」をテーマに、我が国では最初の公的なコンセンサス会議が実施された。昨年に引き続き今年度も、「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」と称して、市民パネリストと専門家とが情報を共有した上で、対等の立場で議論する「市民会議」が開催された。

私はコンセンサス会議そのものについてはあまり知らなかったが、昨年の報告書などを読むと、今回の「市民会議」もほぼそれに準じた形で実施されたものと思われる。コンセンサス会議におけるファシリテーターは、今回はきわめてわかりやすい「世話人」という名称になり、私が大役を引き受けることになった。コンセンサス会議におけるファシリテーターの役割は、市民パネリストのすべての活動をサポートし、会議を円滑に進行することにあるというが、正式の会議では訓練を受けた専門家に依頼すると聞いていたので、素人の私にとっては世話人の方が気楽だと思った。

世話人は、議論の活性化と、タイムコントロール、「市民の提案」のとりまとめのお手伝いをするのが主な役割である。したがって、議論を誘導したり、自分の意見を述べたり、市民パネリストや専門家の意見に対して評価をしてはならないことになっている。司会やコーディネーターは何度か経験したことがあるものの、市民会議における世話人としての位置付けや役割の範疇があまり明確でなかったため、しばしば戸惑いを感じた。

市民パネリストに、出来るだけまんべんなく発言してもらえる様に、また意見や質問はなるべく手短けという配慮はしたつもりである。しかし、こんな質問が出てくるともっと議論が深まるのにとったり、消費者にはこんな事例を説明すると、より理解しやすいのではないかなどとったりもしたが、それは世話人の領域を越えるものと判断せざるを得なかった。あまり抵抗なく専門家にお願ひできたことは、難解な用語や表現についてもっとわかりやすく説明して欲しい旨伝えたことだが、質問に対する回答がズレているようなときには、それを指摘し、適切な回答を求めることは出来なかった。

また、議論の活性化、円滑な進行を図ろうと思っても、つい議論の誘導になるのではないかと躊躇してしまうことも多かった。世話人心得が提示され、これにこだわりすぎたき

らいもあるが、会議を盛り上げるためには、中立性、客観性を考慮しながら、もう少し踏み込んだ進行をしても良かったのではないかと反省している。以上、世話人として感じたことを率直に述べたが、今後の検討課題と言ってよいだろう。

今回の会議を進めるにあたっては、タイムコントロールについてかなり留意したつもりだったが、基本的には専門家プレゼンテーションがやや短かったように感じている。説明 20 分間・質疑応答 20 分間という組み合わせの設定だったが、説明が 20 分間という時間配分のため、心ならずも専門家の説明をはしょらせてしまった。その結果、市民パネリストの中には当然、十分理解できずに消化不良を起こしてしまった方々もいたように感じた。アンケート結果にも同様の意見が寄せられている。

遺伝子組み換え食品については、遺伝子の基礎知識、品種改良、環境安全性、食品安全性社会科学的側面、消費者やジャーナリストからみた側面など、実に様々な角度からの議論が必要で、プログラムも十分配慮されたものだった。市民会議はこうした各界の専門家の説明を聞いて、参加者はまず情報を共有し、それをたたき台として議論を重ねていくべきものであると理解している。しかし、もし共有すべき基礎知識や専門家の考えの理解が不十分であったとすれば、会議に参加する以前の情報や私見に、かなり議論が左右されてしまうのではないだろうか。意見の取りまとめ段階で、理解不足の点について個々に持ち寄った資料などで補う場面を目にして、短時間で知識を共有することの難しさも体感した。

今回の市民会議を終えて、昨年コンセンサス会議の流れを汲んで、食の安全性について情報公開の一つの手法として、市民会議が定着しつつあるという実感をもてたことは、大変貴重な体験であった。最近パブリックコメントなどもあり、情報公開についてはかなり進んできている感があるが、市民会議では専門家と消費者が直接、意見を交換したり、議論する、まさに 2 way communication の場である。こうした機会に積極的に関与して発言する参加者、またアカウンタビリティ（説明責任）を果たす献身的な姿勢の専門家、また裏方に徹して会議の運営に重要な役割を果たしてもらった STAFF の皆様にも感謝の念を表したい。

仙台会議世話人 有田芳子

今回の会議が前年度（平成 12 年）「遺伝子組換え農作物を考えるコンセンサス会議」と大きく違った点が 2 点あります。

1 点めは、コンセンサス（合意）会議と言う名称を使用しなかったこと。

そして、もう 1 点は運営スタッフの形式も変更し、独立した運営委員会を設置せず、企画委員会を設置、主に事務局が運営機能も担うかたちで企画や専門家等の選定も行なった後、世話人（ファシリテーター）を依頼すると言う流れをとったことです。2000 年度コンセンサス会議は運営委員会が設置され、事務局ではなく運営委員会が企画を含めファシリテーターの選任も行なっている事とは大きく変化をしています。

今回の会議についての世話人の依頼を受けたとき、名称の件や運営方法で多少違和感が有りましたが、世話人の選定に苦慮されている様子がうかがえ、これまで環境分野などで行なってきたファシリテーターやコーディネーターの経験を活かし、市民の方々の意見を限られた時間の中で、より参加者合意を高くし意見をまとめるお手伝いができるならばと最終的にはお引き受けしました。

名称が変更になった理由を確認させていただいたところ、「コンセンサス会議」では馴染がないから日本語に置き換えたと言う事でした。コンセンサス会議の特徴は市民と専門家が対等な関係で議論ができるような場を設定し、市民からの意見を述べていけるようにする方式ですから、そのつもりで進行させていただきました。

今回の仙台会議の特徴的な事は、開催地（仙台）が農業生産地域ということで、様々な立場の農業生産者の忌憚ない意見が聞けましたが、すでに遺伝子組換え農作物について専門家と考えるとよい生産者の集まりであったことや、生産者以外の市民の方もやはりある程度専門家と見てよい方が多かったこと。生産地に近いためか、生産者以外の市民も含めて農業の自給率向上の話は避けてとおれないと考えられていたことなどがありました。

昨年度は運営委員会が自給率の問題にはふれない判断をされたということがあり、自給率の問題についてふれることで遺伝子組換え農作物の議論から離れてしまうことを事務局の方は非常に心配されました。

しかし、あくまで市民が主人公ということで参加市民の意見を尊重し、遺伝子組換え農作物から離れない意見交換を行うことを約束して、ある程度納得するまで話し込んで頂こうと判断しました。この件については、最終的に意見書の頭の部分に自給率の問題を入れることで合意し解決しました。

予期せぬアクシデントもありましたが時間内にほぼ意見のまとめができ上がり、反対意見も賛成意見も含め、あくまで私見を入れず出された意見が合意の上でまとめられたと思います。

ただ、少数意見として農業生産者である参加市民から高齢化（後継者難）の関係などで「除草剤耐性の遺伝子組換え作物を生産したい」と言う意見も出されました。この件については、仙台会議に参加した企画委員から「除草剤耐性の遺伝子組換え作物を生産したい」と言った市民の声が今回の意見の取りまとめの何処にも無いのは残念と言った発言がありました。この意見を出された市民の方はお仕事の関係で、最終意見のまとめの会議に参加されませんでしたので、少数意見としても取り上げる事ができませんでした。途中でだされた意見についてどう考えるのか、また、その市民の方が最終的にもその意見を持ち続けられたのか気になるところではあります。

今回、運営方法に変化がありましたが、事務局の STAFF の方も非常に努力された様ですので来年度にいかしていただき、今後もこのような会議が継続して行われ、市民参加のもと政策に反映されていくことを望みます。

今回、参加市民の方から、市民会議のあり方について、非常に信頼のおけるものであったことで喜びの感想をいただきました。説得されるであろうとっていて参加したところ、説得されることなく自分たちの意見でまとめを作れたことなどです。そして、オブザーバー参加したコンセンサス会議などの研究者の方からも会議の素晴らしい盛り上がり、まとめ方について賞賛のお手紙をいただいたことをここでお伝えします。

市民会議を振り返っての感想及び意見

＜横浜＞参加市民 神山光江

遺伝子組換え技術は、ある一部の企業や行政（国）の思惑に従って、方向づけられたり、情報の隠蔽などがなされそうな危険性をはらみ、現代会では、技術面でも完全なる安全性は立証されていないと感じられました。

これらのことを勘案すると、取り返しのつかない環境へのリスクや生態系、生命への悪影響を払拭することができません。

この上は、企業や行政は消費者の不安や、提案、要望に応じて、よりきめ細やかな調査や研究を積み上げ、確かな情報公開や表示の拡大を進め信頼を勝ち得なければならないと思います。

又、リスクアナリシスの手法を導入し、消費者の政策決定への参画を望むものです。次代を担う子供達に負の遺産を残すことなく豊かで安全な未来を残すことが、私たち大人の使命だとは思いませんか。

1. 会議のあり方・運営について

今回の「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」に参加させて頂いて、その運営の開放性に驚かされました。参加市民の自意識に全てを委ねると云うやり方は、従来の日本の会議のあり方を覆すものであったからですが、その徹底度と、主催が旧来の日本的な中にも日本的な組織であったと言うことが、驚きを倍化させた様です。ともあれ、最高学府の教授や斯界のトップクラスの研究者を含め、主催の責任者も全て名前を「さん」付けで呼び習わすやり方は、新生日本に定着させられれば、「改革」を声高に叫ぶより数段実効性がある様に思えます。自由と民主性に充ち、開かれた「日本」を世界に証すもっとも簡便で手っ取り早い手立てとなるに違いありません。それ程会議のあり方を考えさせてくれるとともに、自由で開かれた会議を運営された主催の人々に驚きと感謝を禁じ得ません。

2. 市民会議について

市民の声を吸い上げ国の施策に反映し、最小公倍数的ではあってもより多くの人々の満足と安心を得ていこうとするシステムが、及びその確立が近代国家の基軸をなすものであろうと考えています。しかし現在の状況のあり方は、その意に十分に沿ったものではない現象があちこちに見られております。そして一方、市民の声というものは移ろいやすく、幅も広く、焦点が定まらず、従って捉まえ難いものとして、それより指導する方が手っ取り早いとする考え方が多くあるのも事実かと思われまます。しかし、時代の大要の流れは本来のあり方に収斂して行く、とでも言うかの様に変化の芽があちこちに見られる様になって来ているとも感じられます。そう云った状況の中でのこの「市民会議」は、間違いなく変化の芽のひとつであろうと思われまますし、またひょっとしたら流れの正しい解になるのではないかとも思えてまいります。

現在あらゆる場面で、曰く消費者の声、曰くお客さまの声、曰く（市町村の）皆様の声、と声を集める運動がさかんに行われております。営利や（行政の）効率化、ニーズへのフィットやニーズの掘り起こし等々いろいろな意図のもとにそれらは行われておりますが、十分に機能性を発揮している感ではありません。それはやはり、多様で焦点を絞れないことに由来するのではないかと思えます。

一方、行政が意見収集のために設置する各種審議会、協議会等においては市民の参加はどうしても数少ないものになってしまいがちです。今回の市民会議の中でもその参加の頻度と人員数の増加が提言されてはおりますが、限界があることも事実です。

そしてその限界を超越できる手法として、今回の「市民会議」は評価できるのではないかと思います。問題ごとに専門家から教えを頂き、素直に問い質し、それぞれの市民がそれぞれの理解の範囲で理解し、その範囲で意見を闘わせ、ある部分は集約し、ある部分は各論併記のまま「市民会議」の意見として表明し、行政の作成する施策に反映されて行く、乃至はその意見が関連する審議会や協議会等に提出され尊重される、そのようなプロセスの確立無しに信頼と安心に裏打ちされた国家の新たな建設は望めない様に思えます。再び世界に通用する国家を目指すひとつの解が「市民会議」にはあるのではと思えてなりません。

遺伝子組換え農作物を市民が考える会議に参加しての感想及び意見

〈横浜〉参加市民 樋口 武

遺伝子組換え農作物を市民が考える会議は、隔日で6日間実施された。その日程のうち4日間は専門家による説明があり、残りの日数は報告書作成のための討議、意見調整等に消費された。先ず、専門家の説明であるが、与えられた時間が少ないこともあって、大急ぎの説明に終始したため、私達市民側のレベルでは、内容消化に限界を来すことになった。このことが、最終報告書作成での意見調整の困難な一因ともなったのではなかろうか。私達市民側も自分自身で必要最低限レベルの知識を習得する努力をしておかなければ、無益な議論に終始して有効な結果を得ることは難しい。今回の専門家の説明時間は私達市民側の知識レベルから考えて短時間過ぎたのではないかと思われる。又、一方私達市民側は、この会議の期間中に参考図書、資料等による知識の向上に一層努める必要があったのではないだろうか。次に、報告書原案の作成における討議は、各グループ内の各人の知識修得度の格差から有効な論理の構成が難しくなり、妥協の産物になった嫌いがあるように思われる。しかし、最終的には世話人の助力により、報告書の態様を整えることが出来て幸いであった。6日間の会議を通じて私達市民は、終始専門家の説明に対して真剣に質疑し、熱心に討議を重ね、以前よりは豊富な知識を蓄積することが出来、今後は自分自身の力により、知識レベルの向上していく能力を備えることが出来たのではないだろうかと思っている。この蓄積された力を少しでも食品の安全性確保のために傾注することが出来れば幸であると思う。末尾ながら、理事長はじめ事務局の皆様の支援に深謝します。

「遺伝子組換え 農作物を考える 市民会議」に参加して

＜横浜＞参加市民 村田晴雄

4回の「専門家」のお話と対話、その間、2回の市民の「提言」作成への検討を経て終了しました。全般的な感想を述べたいと思います。

1) 遺伝子組換え 農作物を取り巻く客観情勢

アメリカ、カナダなどで生産された、遺伝子組換えの農作物、対害虫抵抗とうもろこし、除草剤耐性大豆などが日本に輸入され、その混入比率が5%以内ならば、表示の必要もなく、日本国内で食品、加工品、飼料、などとして消費されています。

問題は、海の向こうの、種子供給者は種子の販売で、農家は収量の増加、散布農薬の減少などで利益の向上というメリットは享受しています。が日本の消費者には、そのメリットはありません。ただ遺伝子組換え農作物の安全性に危険がない「ハズ」のものを食べ（させられ）ているばかりです。

問題は大きく分けて2点あると思われます。1つは、経済のグローバル化により、コストの安いものだけが、国境を越えて侵入して来る事。2つ目は、先端技術の情報の偏在です。とりわけ、国の内外で、リスクに対応する仕組みが出来ていない事です。例えば、食品としての安全性は、国内でも一応検査体制は整っていると思われる。が、あくまでも想定どおりにことが運んでいる場合だけであります。

いずれも、世界の交易環境の急激な変化に対応した、十分な体制が国内に整っていないことに問題があると、現状を根本的に見直す七つの提言を、別途行いました。

2) 提言の主旨

提言①は東アジアの諸国と共通の政策を探ること。②は遺伝子組換え技術を一部先進国だけの占有物から、人類共有の財産とする仕組みを探るもの。⑤は開発者サイドの論理に、消費者サイドから歯止めを掛けられないものか。⑥は情報の非対称性を考慮し、リスクに対応可能な、国内の体制づくり、⑦は新たな立法を要請するものです。

3) 全般的な感想

- a) 都合13名の各種「専門家」が知見を述べられました。非常に短い発表時間（持ち時間各わずか20分）ながら、現状を指摘されたと感謝したいとおもいます。「専門家」へは、狭い専門領域に陥らない事を、提言③として注文しました。
- b) 「遺伝子組換え農作物に対する市民の理解と関心」を深める目的で開催され、参加市民が議論して「提言」をまとめるのが、この会議の主旨でした。筆者の印象では、残念ながら市民の側は、十分な議論が尽くされたとは言えないようでした。
- c) 今後の改善点として「専門家」の人数は減らして、お話の時間を充分取り、市民の専門家への疑問・質問と市民間の討論の時間（各テーマごとに最低1-2時間）を増やすなどの、工夫を凝らし、小規模で、開催回数を増やして、継続的に、発展的になされることを、期待したいと思います。
- d) また、地球市民として、互いの考えを述べ、合意点を見出す練習の場としても、この会議の主旨はふさわしいものあり、さらに継続させるべきと思います。

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」に参加して

〈横浜〉参加市民 吉田 美智子

私がこの会議に参加した動機は、一市民として感じる、遺伝子組換え農作物に関する漠然とした不安、すっきりとは説明できない、何かもやもやとした気分を少しでも払拭できればという思いからでした。

私自身子どもの頃から、科学的なものに興味を持ち、化学を専攻し、職業としたこともあり、それなりには理解をしていたつもりでした。ところが家庭に入り、子育てをし、母親として生活する中で、いつのまにか、食品添加物など化学製品を遠ざけようとしている自分自身に気がつきました。さらに近年、遺伝子組換え農作物が食品の原材料として、出回るようになりました。消費生活相談員として様々な人に接し、人々がそれに対して、不安を感じていることを知りました。不安の中には明らかに、誤解からくるものもありましたが、未知の技術への安全性の懸念というものもありました。

研究者の立場でお話ししてくださった方々は、それぞれの領域で、それぞれの科学的知見に基づきお話をしてくださり、その方々の「ものさし」で判断されたお話をされました。一生懸命、わかりやすく話をしようとする熱意は伝わりましたし、その方のジャンルの中での精一杯に努力していらっしゃることはわかりました。特定の分野の専門家間でのディスカッションではそれで充分だと思えます。しかしこのテーマは科学的な視点のほかに、社会的、文化的視点など様々な「ものさし」に照らし合わせ、考えなければならない問題であり、分野ごとの専門家はいても、総合的に考察できる人は極めて少ないと感じました。

そして、この会議で気がついたことは、ディスカッションの大切さでした。消費者、行政、開発者が自分たちの情報を公開し、意見を交換して、それぞれの「ものさし」を認め合いつつ方向性を見出していかなければならないと思いました。情報のギャップが大きすぎるとはその作業はできません。最初に、情報という山の高さを同じにしていく作業から始まらなければなりません。農作物という生物体である特性を考慮すると、消費者、行政、開発者という現代に生きる三者だけでの合意ではなく、数十年後、数百年後の人々をも見据えた議論が必要なテーマではないかと思いました。また、経済性という人間の都合だけではなく、経済性という観点からは忘れられがちな、地球に生きるさまざまな生物のことも十分に考慮しなければならないと思いました。

この市民会議の前後から、牛海綿状脳症に対する行政の対応の遅れ、また、大手食品メーカーの偽装工作事件が取りざたされています。人は、過ちを犯すものとあらためて思います。遺伝子組換え農作物がこのようなことにならないように、消費者、行政、開発者が参画して、安全性確保のための危機管理体制を確立し、およびそれが機能するためのシステムをつくり、監視することが必要と考えます。

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」の感想

〈横浜〉参加市民 渡辺美砂

コンセンサス会議には前から関心があり、今回このような機会を持てたことはいい経験になりました。

同じ市民でも、自分と違う考え方も知ることができましたし、自分の考えもしてもらうことができました。事務局も私たちを主体にしていく配慮もあり、自分たちでどうまとめていくのか分からない中で試行錯誤しながら提案まで何とかこぎつけましたが、お互いの考えを合意形成していく難しさを感じました。それが率直な感想です。私もいろいろな会議に出席していますが、まだまだ議論の仕方が下手で、うまく議論まで持ち込めないのを感じます。慣れてないような気がします。

しかし、今回の「遺伝子組換え農作物」のようなものが、これから21世紀を迎えて次から次へと登場してくる可能性があり、合意形成が必要になってくると思います。どう議論すれば、合意形成できるか、こういう場を数多く経験していくことだと思います。今回のようなコンセンサス会議がまだ不十分なところはありましたが、続けていって成果を出していけば、広がっていくでしょう。

次回は、生産者からの情報提供も組み込んでほしいと思います。あれから生産者の声を聞く機会があり、遺伝子組換え農作物について違った視点が見えてきて、消費者としてどうしたらよいか見えてきたような気がしました。

遺伝子組み換え市民会議に参加して

〈仙台〉参加市民 石木田 麻梨子

今回の私たちの会議が、現実の部分でどこまでその考えと方向性が国の施策に取り入れられるのかは狂牛病問題や、それに関連しての一連の政府の方針を逆手にとる企業の言語道断的な実態の中で消費者は何を信じ、何をどのような判断を基準として私たちの日々口にする食の安全性についてチェック出来るのか、今の所はとても不安な部分だけである。しかし、今回の様に、それぞれ立場の違う学者や一般市民、行政、農業者、畜産業を営む人々が、それぞれの立場や現状の中で、バイオテクノロジーの一つである遺伝子組み換えの技術やその食品についての安全性や今後の在り方について、様々な角度で議論する場を与えられた事は、その会に参加した一消費者としても大変勉強になったし、今後それらの事について、そして、それらの技術から波及してくる今後の生命科学の在り方や研究の賛否についても大いに考えるべきことがありとても良かった。そして、国民的議論やコンセンサスの中で今後の特に食の安全性の分野をはじめとする諸々の事柄が今回の数回にわたる会議の延長線上に乗かって今後さらにこれらの問題をはじめ今後の様々な事象に対してこのような形式でもって、多くの底辺のこれまで意見の場を持たない国民にもその場が与えることができる様になれば、多くの国民は自ら私たちの身近な生活の中で起きる問題や事象について今後さらに学び研究しそれに対して、個々の意見をもってこのような議論の場に積極的に参加すると思われる。そういった意味も含めて、国民会議や市民会議が今後もっといろいろな部分や分野で他人任せでない、自己責任の今の時代に積極的に開かれることを、改めて感じました。

そして、これらを企画・セッティングして下さる STAFF の方々にも敬意を表したい。又、このような議論の場に参加できたら・・・と思います。

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」を振り返って

〈仙台〉参加市民 入間田 範子

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」の参加市民募集要項の『この会議は、一般の市民の人々が科学技術に参加する機会であり、市民からの要請に応えていくためのものです』という言葉に興味を惹かれました。

いま、食をめぐる環境は、大変不安なものです。法制度も、行政も、表示も、情報も次々と信頼が崩れ落ちております。このような状況のなかで、遺伝子組換え農作物についても私の不安材料のひとつです。

遺伝子組換え農作物についての情報は、書物や学習会のみならず、インターネットなどでも、膨大な量を手に入れることができます。しかし、情報提供者、たとえば、学者やマスコミなどそれぞれの立場により、その論理は対極にあるといえるような現状です。そのうえ、遺伝子組換え農産物の輸入量は増え、国内の実用化への準備も待ったなしというのが現状です。

私たちは、さまざまな場面に市民参加を訴えてきました。その結果、審議会などへの市民の参加の機会は確実に増えております。しかしそれらの場面は、私たちの疑問に答え、真摯に意見を取り入れようというものにはなっておりません。今回の会議に対しても同様な結果になるのではという不安を抱きつつの参加でした。

しかし、立場のちがう専門家が交互にプレゼンテーションを行い、その後市民が質問、そして専門家同士が意見を戦わすという、今まで経験したことのない形で進みました。内容の濃い学習の時間を与えていただいたと思っております。その後の『市民の提案』も、市民の手によって纏め上げたという、実感があるものでした。特に、まとめのお手伝いをしていただいた世話人の有田さんの力量も忘れられないものでした。また、参加市民のメンバーは、農業生産者・消費者・事業者と多岐にとみ、それぞれ現場での実態を聞くことができたことも大きな収穫でした。

私たちは、『市民の提案』を取りまとめるにあたり、食糧供給地としての東北を強く意識いたしました。日本の農業を守るという視座に立ち、遺伝子組換え農産物を考えました。そのうえで、世界の食料問題、食料・農業など様々な項目ごとに提言というをまとめました。その上で、社会にとって安全かつ有用な技術の確立を願いました。

近年、リスクアナリシスということが、強く認識されるようになりました。私たちの提案が、このなかでどのように位置付けられるのかというのを、最後まで見届けるのも、今回選ばれた市民としての責務だと考えております。『市民の提案』を有効に活用いただけたらと思っております。

市民会議を振り返って

〈仙台〉参加市民 金野千恵子

今回、遺伝子組換え食物について少しでも知識を得られたらと思い参加した。会が終了し色々と考えさせられた。技術推進の方はその目的を第一に人口爆発による食糧不足のためという事であったが、人口はエイズの感染拡大、地球温暖化によるマラリア等の北上、全世界的規模の人体の化学技術等による様々な汚染で、このまま増加の途をとるか疑問であり、また人口増加に合わせて作物を量産するのではなく、人口制限のためまず必要なのは主に教育である。作物の一定区画での量産増は土壤の乾燥化につながり、地球的耕地面積の温度差をなくすためにも荒地の緑化の方が飢餓民に有効で、それについてはネパールの例のように原始的方法で解決をみている。この中でこの技術の持つ意義は何か疑問である。

また今回は生産者の方々の長年の経験に基づいたお話を伺えた。その中でよく出てきた言葉がサイクルであった。科学の発達には遺伝子レベルの解析を進め学問は専門的細分化し微視的には優れていたのかもしれないが、故に全体を見失う様に思う。重要なのは自然の循環とそのバランスにあり、長年淘汰され構成された緻密な遺伝子構成は（生物の営みは遺伝子を伝える事のみ）必要な遺伝子を切り取り他に組み込む荒業が机上で成り立っても自然のバランスという点で危うくまた不可逆的な面がある以上不安を覚える。資源のない日本は戦後、二次三次産業の発達で今日に至ったが、今日の景気低迷、知的低下、人間性の欠如は大変なものがある。これは自然や農業を軽視し、就学以前の自然から得る教育が失われ、生活感のない社会の反映である。今ここで立ち止まり、本当に生命基本の食や農業を大切に考え、自然の仕組みとサイクルを利した技術を開発し、長期的でも本当に実のある技術を生み出すべきと考える。今の社会の新技术に必要なのは、知的好奇心よりも理性、そしてそれを駆使する人たちの良識である。今回、会に参加し、多くの事を教えてくださった皆様に感謝したい。

『遺伝子組換え農作物を市民が考える会議』に参加して

＜仙台＞参加市民 松村 ウメ子

GM 農作物に問題があるとして取り上げるようになってから、講演会や勉強会に参加するようになってきたが、情報として入ってくるものはデメリットばかり多く、なぜ国は安全だと認め、売られているのかずっと疑問であった。

購読していない新聞をたまたま読み、コンセンサス会議という耳なれない言葉の意味が一般市民の声を、国の政策に反映させるという会議との内容に興味を持った。

東北地域の会議に参加でき、実際に農業に携わっている人たちの生の声を聞くことができるとは、地域性がでている会議だと思った。参加者の年代が20代、30代の人たちもいれば、もっと多様な意見もでたのではないだろうか。申込者がいない場合は、依頼して参加してもらおうというのはどうだろう。

この会議では、GM 農作物についての予備知識は、特に必要ないとのことであったが、参加者の中には専門家のように発言をする方もおり、もっと勉強してくるべきであったと反省させられた。

専門家の方々の説明は、私にとって科学や植物学といった難しい内容もあり、何を質問すればいいかわからず、前もって資料配布されていればよかったと思いつた。また、質疑応答の時間が短いと感じた。

朝9時から夜までかんづめ状態というのは初めてであり、午後になるととうとうとする場面もあり、頭脳と体力の会議で、1回目は帰宅後どっと疲れがでた。

小グループに分かれての話し合いでは、全体での話し合いより本音がいえるような雰囲気、話が横道にそれるようなこともあった。

ファシリテーターの進行役の方は、方向性をもちながら纏め上げるということは、熟知した技をもった人であり、重要な役目を果たしたと思う。

また、STAFFのかたがたは裏方に徹し、参加者がリラックスして発言できるよう一日中細やかに気配りをしていただいた。

この市民会議に参加でき、今まで GM 農作物について勘違いしていたこと、再認識したことなどあり、この会議が終わっても GM という活字に目が行ってしまう。

市民パネラーの提案が今後どのように生かされていくのかを見守りたい。

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」の感想について

＜仙台＞参加市民 本木清博

最初にこの会議を開催していただきましたことについてお礼申し上げます。そして参加市民の皆様と共通のテーマで話し合いが出来ましたことは私にとって貴重な体験でございました。

今回の会議を通じて改めて日本の食糧の自給率の低さに不安を感じました。会議後大豆について考えましたことを述べます。平成13年産の国内大豆の生産量はおよそ27万tと予想されています。一方、日本の伝統食品である豆腐、納豆、味噌、醤油等には年間およそ100万tの大豆が使用されますので、この大豆を全量豆腐、納豆等に使用したとしてもその時給は30%未満でございます。又、食用油には年間400万tの大豆が使われているようですので、これらを含めると大豆の自給率は5%程度のものがございます。せめて豆腐、納豆、味噌様等の大豆の自給率を100%にと願い下記のように試算してみました。

国内の大豆生産農家はトン当たり30万円の所得保障があれば生産量を増やしていただけます。加工メーカーが使用している輸入大豆の安値はトン当たり5万円です。国内大豆が5万円であれば加工メーカーは輸入大豆を使用しなくなると思います。

そのときに、単純に計算してみますと30万円－5万円＝25万円を大豆生産農家に保証することが必要です。

100万tの大豆が生産されたとき100万t×25万円＝2,500億円の保証でこれらの自給率が100%達成されます。

周辺環境への影響、長期摂取による不安等々、遺伝子組換え食品への不安感が払拭しきれない現状では一旦、この技術を凍結し、まず自給率の向上に全力を注ぐことが大切なことであると感じました。

このような会議は市民と行政がともに考えて進むべき道を探っていく上で本当に重要なことだと感じました。今後とも数多く開催していただけることをお願い申し上げます。

ありがとうございました。

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」に参加して

＜仙台＞参加市民 吉武洋子

私はこの会議がどのように運営されるのかに一番興味がありました。事前にいただいた会議の資料などから、賛成反対に偏らない立場で虚心坦懐に議論する場にしてほしいという、主催者の意図は了解した上で参加したわけですが、50年余生きていた間に培われた価値観は、そう簡単に虚心にさせてはくれませんでした。

この会議を主催する農林水産先端技術産業振興センター（STAFF）は、その名が示す様に、当然ながら遺伝子組換え技術を推進進行する立場だと思います。そしてわざわざ休日を費やしてまでこのような会議に参加を希望する市民は、遺伝子組換え農作物に反対か慎重な人が多くなるのは当然で、主催者側もその前提で準備を進められたと思います。遺伝子組換え技術に対して、推進・慎重（反対）それぞれの立場の専門家のレクチャーを受けましたが、この技術推進に対して、慎重であるべきという私の意見は変わらず、むしろより慎重になりました。慎重になった理由は、専門家と私のような素人との基本的な発想の違いがよく理解でき、科学者として優秀な専門家の発想と、ごく普通の生活者感覚との相違を、あらためて実感させられたからです。

専門家は、「漠然とした不安感では話にならない、科学的根拠を示せ」「予想できないリスクには対処できない」と言います。しかしこれまで科学技術にまつわる事件事故が起きても、「その時点の科学技術では予想できなかった」との言い訳のもと、その技術を推進した専門家は何の責任もとらない事を、素人は身に染みて感じています。専門家による日進月歩の科学技術、今日は科学的に正しいとされていても明日はひっくり返されるかもしれないと言う不安を、素人は持っているのです。その不安についての専門家や行政の鈍感さが、遺伝子組換え農作物への不安をより深めていると思います。

「予想できないリスクには対処できない」からこそ、人の体にもっとも影響する農作物については、素人も十分納得できる様な長期間に亘る人的環境的な安全確認の実験調査をするべきです。少なくともWTO体制の圧力の下、農薬や食品添加物の安全性基準を緩める様な行政が、短期間の安全性実験で「遺伝子組換え農作物は安全だ」と言っても通りません。

ただ今回の会議で、参加された専門家の方々が安全性の確認にも真摯に取り組んでおられることがよく分かり、また私の様な素人の意見にも耳を傾ける努力をされたことに、僭越ですが敬意を表したいと思います。そしてSTAFFの方々がご自分達の立場を別に、裏方として会議を支えて下さったことに改めて感謝申し上げます。

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」〈横浜〉参加市民アンケート

〈横浜〉参加市民 15名中 13名回収

I. 市民会議について

1. 市民会議に参加されたご感想

今回の市民会議に参加されて、あなたにとって有意義と感じられましたか。

- a. 非常に有意義であった : 7
- b. 有意義であった : 5
- c. どちらともいえない : 0
- d. つまらなかった : 1
- e. 全くつまらなかった : 0

〈自由記載〉

- ・行政、企業、市民の声を一つの場で聞ける機会は、ほとんどなく有意義。
- ・資料がダブルになったケースが多くあり、紙が多くなった。しかし、楽しく、あっという間に過ぎた感じです。
- ・消費者としていろいろ意見や要望などがありましても、なかなか申し上げる所や機会がありませんでした。今回の会議は、とても有意義であり、かつ消費者にとりましても、大変うれしい企画でした。
- ・横浜市には「区民会議」というのがあるが、「話し合い」というのは効率が悪いと前は思っていた。今回も同じ。しゃべるのではなく書かせるとうい。
- ・一回の開催コストを下げて、開催回数を10倍に。先進国では、この種の検討会は、もっと小規模で常時そこいら自由で行われています。年2回では話になりません。
- ・私自身は感謝してこの会議に参加させていただきました。当選して幸いでした。もっと多くの方が参加されたら、さらに有意義であったと思います。質素な昼食にして、または自費でもよかったと思います。交通費を出して下さっただけで充分かと思いません。
- ・会議に参加させていただいて知識を得たことや、学生時代に勉強した事を思い出したり、参加市民の方の組換えについての考え方も多少分かったし、有意義でした。
- ・遺伝子組換えに関して、知識が皆無に近かった者が、お陰様で多少なりとも理解出来るようになった。会議の効果は大である。

2. 会議の進め方

今回の会議の進め方について、満足されたでしょうか。

- a. 大変満足した : 2
- b. 概して満足した : 6
- c. どちらともいえない : 3
- d. 概して不満であった : 2
- e. 大変不満であった : 0

〈自由記載〉

- ・市民の自主性を尊重されましたが、尊重し過ぎであったのかと思います。難しいところでは。
- ・事務局には、私たちの質問や要望などを公平かつ中立的に取り上げていただいたと思っています。
- ・15分話し、15分質問では、どうせ皆は質問できない。十分話させよ。
- ・質疑討論の時間が少なすぎて、十分な意見交換が出来ず、結果として「提言」の内容が不満足なものとなった。

- ・時間不足を感じた。
- ・議論やまとめ方自体もオープンに参加市民に任せるというスタンスは良いと思うが、そうであればもっと議論のための時間を確保する必要があると思う。内容に干渉せず、プロセスやアウトプットイメージは提供するという進めの方が、今回の時間配分では良かったのではないだろうか。
- ・時間に対して中身が多く、全てに消化不良を感じた。いくら事前に資料をいただいても、20分での講義では、専門家の方々も時間が短いと思われたのでは？一回の会議で4人のコメンテーターは多いと思いました。
- ・初歩からの説明を与えられなければならない状態であったので、十分な理解を得るには、各説明について時間が足りなかった。もう少し説明、質疑応答の時間が必要と思った。

3. 専門家による説明

第1～3回、及び第5回会議での専門家による説明は、十分なものでしたか。

- | | |
|---------------|-----|
| a. 十分であった | : 2 |
| b. ある程度十分であった | : 6 |
| c. どちらともいえない | : 3 |
| d. 少し不十分であった | : 1 |
| e. 全く不十分であった | : 1 |

<自由記載>

- ・基礎（生物学・社会学などの）がなければ、このボリュームをこなすには、時間的には不足するかもしれないと感じた。
- ・やはり少し時間が短かったと思います。午後3時に終了する必要はなかったのではと思います。
- ・知識、情報の差が、消費者との間に大きくある。大変難しいやりとりになるのでは？
- ・研究や開発、実験などに携わっている人達には、もう少し長時間による講義がほしかったです。
- ・まるでまともに話さない人がいる。きちんとレジメ通りに話せ。結局、書いたものしか後に残らないのだから。
- ・専門家の説明を20～30分で聞き、理解するのは難しい。
- ・1人あたりの説明時間が20分では、彼らは意を尽くせなかったのではないだろうか。
- ・「説明」だけでなしに、市民討論の専門家が同じレベルで参加する形式が望ましい。
- ・今回の方式は、一方通行の感あり。
- ・消費者団体または、遺伝子組換えに対して疑問を持つ方の講師陣は、弱腰の印象強く残りました。
- ・自分なりの考えを持つには十分であったとも言えるが、与えられた情報のバランスが良かったのかどうか、判断するのは難しい。
- ・最初のうちは、たぶん市民会議でいろいろなレベルの人々に対して説明しているというのを意識されてるのだと思いますが、ヒートオーバーすると専門用語がどんどん出る。
- ・専門家は、自分のバックグラウンドを背負っての説明であるので、自分の立場に拘泥する傾向を感じた。公平な立場で講義する者は、学者がベターであると思う。

4. 専門家の選定

専門家の選定は適切であったとお考えでしょうか。

- a. 非常に適切であった : 2
- b. 概して適切であった : 6
- c. どちらともいえない : 4
- d. 概して不適切であった : 0
- e. 非常に不適切であった : 0

<自由記載>

- ・企業が種子会社のみであったので、できればGMO作物を原料として使用するメーカー、製品を販売する小売店（スーパー等）の声も聞きたかった。
- ・市民会議の参加者の要望する講師も、前もって聞き取り、それらの講師を招くと、より講義が身近になるのではないのでしょうか。
- ・批判派も学者、研究者にせよ。
- ・（専門家の選定は概して適切であったが）人数13名は過剰です。5～6人で充分。量より質で。そして十分な討論時間を。
- ・一考されている（反対）専門家の人数が少なく、説明不足。
- ・専門家自身の立場に立たず、客観的な論理を展開する者であることが必要と思うが、現実には選定が難しいので、過去の論文等の著作物により判断する以外にはないのではないだろうか。

5. 専門家の説明

専門家の説明は、わかりやすいものでしたでしょうか。

- a. 大変わかりやすかった : 1
- b. わかりやすかった : 8
- c. どちらともいえない : 4
- d. わかりにくかった : 0
- e. 非常にわかりにくかった : 0

<自由記載>

- ・3. での回答と同様、基礎が必要と思う。専門家の方が、分かりやすく話して下さる姿勢は理解できるが、情報提供のスタンスよりも「知らないことを教えてやろう」とする姿勢が強すぎて、押しつけられる印象を持った講師もいた。
- ・もう少し時間をかけた説明があればよかったですと思います。
- ・時間の関係でだと思いますが、少しはしょって話しされる部分もあり、もうちょっと深めて聞きたいと思いました。
- ・日本の消費者のメリット、デメリットを明示的に述べた人はあまりいない。かれらにその点の問題意識が希薄なのか？
- ・講師の先生方は、参加者のレベルが多様多様なので、教材についてさぞご苦心なされたことと存じます。
- ・それぞれのプレゼンは良く理解できたが、推進派と慎重派の間で、どこまでが合意できていることで、どこが対立しているのか、もっと効率的に説明できる方法があるのではないかと思った。第4回の時に作成を依頼し、STAFFで作っていただいた比較表を両派の専門家で作成するとおもしろいのでは。
- ・わかりやすい方もいたし、わかりにくい方もいたが、専門家の方がハイになると、専門用語連発し、わかりにくくなった。（ほとんどの方）
- ・組換え技術の説明は明解だが、それを実際に導入しようとする企業側の戦略や、それに対応する行政側の説明が通り一遍で、市民の不安を解消しきれないと感じた。
- ・私達に理解させようと熱心に説明する者が多かった。専門家は私達に誤解されないよう専門用語を多様する傾向があるので、聴取する側の知識がレベルをよく判断して説

明する必要がある。

6. 専門家の説明・質疑時間

専門家の説明・質疑時間は、どうだったでしょうか。

- a. 非常に長かった : 0
- b. どちらかといえば長かった : 0
- c. 適切であった : 2
- d. どちらかといえば短かった : 7
- e. 短かった : 4

<自由記載>

- ・説明と質疑の時間を説明のみで終わった場合もあった。講師の説明時間が短かったためと思われる。もう少し講師の人数を減らしてもよいかも（1日2人程度）。
- ・市民の側の質問は、論理的に行うことは難しく、短い言葉のやりとりが出来る雰囲気づくりが欲しいと思いました。
- ・専門家の数が多く、時間的に質疑応答ができなかった。
- ・まあまあというところだと思いますが、専門家の説明や質疑時間は、もっとゆったりした時間設定で、充分双方が意見交換するほうが、納得できるのではないのでしょうか。
- ・質問は、質問した人にしか興味はない。質問はなくてもよい。書面で出させたら？
- ・全く不十分。少なくとも1人1時間必要。直ちに質疑。市民の討論を1～2時間行い（ここに専門家が積極的に参加してアドバイすることが期待される）、3時間1セットでそれを全体で4セットぐらいで充分。（専門家の説明は計2日間）
- ・質問する側が、時間を考えて内容を簡潔に短くしてほしい。
- ・事前にプレゼンターの間で論点を整理しておいてもらえると、限られた時間で、より深く質疑できたのではないか？
- ・専門家の方も説明する時間が短いと思われたのでは？皆さん時間オーバーだったと思う。ボリュームが多くって、時間内にはいきりきらなかったから。また、専門家の間でわかるコメント、今までのいろいろな経緯を知らない人には、わからないような事もありました。
- ・素人がおぼろげな疑問をはっきりとした形にして質問するのは、説明を聞いた直後では難しいと感じた。
- ・説明、質疑時間ともに不足である。もう少し時間を取ってほしい。

7. 参加市民の議論

参加市民による議論について、どのような印象を持たれましたか。①から④について、お答えください。

- ① a. 活発であった : 7
- b. どちらともいえない : 3
- c. 活発でなかった : 2
- 無回答 : 1

- ② a. 建設的な議論になった : 3
- b. どちらともいえない : 6
- c. 建設的な議論ではなかった : 3
- 無回答 : 1

- ③ a. 時間は十分であった : 1
- b. どちらともいえない : 3
- c. 時間は不十分であった : 9

- ④ a. あなた自身十分に発言できた : 4
 b. どちらともいえない : 4
 c. あなた自身十分には発言できなかった : 5

<自由記載>

- ・参加市民に、知識や考え方等にバラつきがあるので（一般市民なら当たり前だが）仕方ない面もある。参加市民の選考にあたり、志望動機などを800字程度に書いて、それを見て選考するのも一法ではないか。
- ・基礎知識のないサクラの質問があれば、より議論は活発になったかと思います。
- ・カリキュラムに専門家の数が多く位置づけられている。テーマをしばり、話の内容を深めることも必要ではないか。
- ・専門家や行政の方々に、私達消費者の不安や思いなども伝えて、今後の研究や法整備に生かしてほしいと思いました。
- ・15人で1人3分なら、45分。話すだけではダメだと思う。書く、読むのを考えよ。
- ・①について、自己主張だけはする人が多いが、内容は自己中心的。②については、出席者の質にもよる。③については致命的。ぜひ改善してほしい。ペーパーの読み方、理解力、問題箇所の把握、質問すべき内容等どれをとっても残念ながら今回は充分ではありません。主婦層が3分の2と多かったせいもあろうが。この訓練の場でもある。開催数を増やすしかない。
- ・意見を言う人が偏っていたと思います。
- ・すみません。周りに配慮したつもりでしたが、結果的にはたくさん発言してしまったように思います。ほとんど議論の中で発言されなかった方もいらっしやっただのが気になります。
- ・同じ方がいつも発言していて、その方々の話を聞いていると言う感じ。また、論点がずれている発言も多かった。
- ・グループで話しをすることで、自分自身の疑問や考え違い、そしてやはりそうだったのかという思いも再確認できた。同じグループではなく、違うメンバーとの議論も行ったかった。
- ・報告書で意見を提言できたので、会議は建設的であったと思う。ただ、十分な議論が出来ない状態での終末となったことは残念である。これは、会議の時間不足によるものと思われる。

8. 市民の提案

「市民の提案」は、十分に議論を尽くしたものとなりましたでしょうか。

- a. 十分議論を尽くした : 1
 b. ある程度議論を尽くした : 4
 c. どちらともいえない : 1
 d. あまり議論を尽くせなかった : 6
 e. ほとんど議論を尽くせなかった : 1
 無回答 : 1

<自由記載>

- ・作業時間が少ない。中間とりまとめの段階で、グループの下案を出せる方がよかった。問題点、提言とまとめる方式を中間とりまとめの段階で決めておけばよかった。事務局や世話人の方が後方で支えようと気を遣って下さったのが、かえって裏目に出た気もする。市民の中で、もう少し方法を提案してもとも思う。実際、建設的提案を下した方も数人いたが、「寄り合い所帯」の中で、「市民」という共通項だけでは、難しいと実感した。
- ・なんとなくの流れになり、責任ある意見・議論がなかったかと思います。
- ・専門家は推進、消費者団体代表のスピーカーは反対、そして、参加者の市民も反対と

いう図式ができていて、条件付合意など、すりあわせのできる深い議論に至らないのが悲しい。

- ・市民の提案取りまとめには、二日間位をあてて、充分話し合いや議論を深めた上で、まとめ上げたいと思いました。
- ・「まとめる」ことを考え、私は何も言わなかった。細かくなりすぎ、聞いた話からの全体の印象がない。
- ・決まった時間の中で行うことなので、内容は充分とはいえないと思うが仕方ない。
- ・「提案」作成に先立つ専門家を交えての討論、市民だけの検討時間が少なかったため、提案の内容についての十分な議論ができなかった。明らかな誤解、理解不足は別として、何が問題で、それにどんな対策を提出するのかをもっと把握している個人が少ないように思われた。今後開催の際の一計として「(1000字程の)小論文を予め要求して、自分の考えを文章にきちんと表現できる人」を選んだらどうですか？(考えの内容で選別するのではなく！)
- ・もう少し議論のプロセスを構成的にすることで、限られた時間をよりクリエイティブに使えるような気がする。提案は「コンセンサス」にはほど遠く、私は「パッチワーク」に近いものだと感じている。ただ主催者がプロセスをデザインしたり、進行をファシリテートすることによって、中立性が保てなくなるという懸念から、あのような進行になっていることは理解できる。外部のコミュニケーション手法の専門家にファシリテーターを任せるということも考えてよいのではないか？
- ・1に時間の問題、もう少し時間がほしかった。2にどうしても活発に発言する方の意見が強く反映しやすい。
- ・グループ分けして議論する方法は良いが、もっと時間がほしい。また、全てのテーマを各グループが一通り議論する方がよい。
- ・提言の範囲は、ある程度に集約されていると思われるが、もう少し時間があれば、もう少し深みのある提言が出来たのではないかと思われる。

9. 市民会議の開催日

今回の市民会議は、平日(火、又は水曜日)に開催いたしましたが、開催日はいつが参加しやすいですか。

- a. 平日が参加しやすい : 7
- b. どちらともいえない : 5
- c. 土日祭日が参加しやすい : 1

<自由記載>

- ・土日祭にすれば、勤労者も参加しやすいと思う。今回は「家庭にいる主婦」という対象だったと思うが、消費者として、いろいろな方の声を聞いた方がよいと思う。
- ・土日祭日などは、御祝事や法事、又行事などの予定がいろいろ入って来るので、完全参加がしづらくなると思います。
- ・もっと開催回数を増やすべし。平日だと、成年男子の出席がほとんど期待できない。＝主婦ばかりで討論内容が(質的に)低下する。
- ・月に2回のペースだが、4回連続というのは体も気持ちもきつかった。
- ・10:00~16:00ということで、参加しやすかった。ただ子供が小さいと(幼~小学校低学年)水曜は、帰りが早いと思うので、火曜日、または木曜日のほうが母親の参加がより容易だと思う。
- ・食生活に係わることで、曜日、祝祭日に関係なく参加して良い解決策を見出すことである。

10. 市民会議の会議開催回数と時間

今回の市民会議は、1回の会議開催時間を10:00～16:00とし、全6回開催いたしました。会議開催回数と時間のバランスから、どれが参加しやすいですか。

- a. 会議回数、時間とも増やした方がよい : 4
- b. 会議回数を増やして、1日の会議時間を短くした方がよい : 2
- c. 会議回数、時間とも今回の会議日程でちょうどよい : 3
- d. 1日の会議時間を延ばして、会議回数を減らした方がよい : 1
- e. 会議回数、時間とも減らした方がよい : 1
- その他. : 2

<自由記載>

- ・提言をまとめる時間がほしかった。(トータルの時間はこれ以上とれないと思う) 5日目を午前中のみ説明、質疑にして、午後からとりまとめ作業にあててもよかった。
- ・長い日(AM9:30～16:30)と短い日(AM9:30～15:00)の組み合わせで、計40～50時間くらい。
- ・時間については適当と思いますが、会議回数は、もう1日くらいのばして、ディスカッションの時間を充分とって、まとめあげた方が、よいのではないかと思います。
- ・すでに第2、3、4、6項にも記したように、内容を充実させる方向でいった方がよい。1回の実施費用を下げて、回数(開催都市)を増やして。
- ・会議回数は増やした方がよい。時間は10:00～16:00そのまま、専門家の説明の入る前に、遺伝子組換えの現状やSTAFFの内容(研究所等の見学も含めて)、イントロを設定してもらったら、もっと理解しやすかったと思う。また、まとめの時間があまりにも短く、もう少し余裕が欲しかった。
- ・市民の議論の時間、回数を増やすべき。少なくとも最終日で議論、まとめまで作成には無理がある。もう一日あったほうがよい。
- ・今回の会議を経験して、時間、回数とも絶対的に不足であった。市民参加者同志間の会話でも知識不足による誤解が随所にあり、徒労を感じるがあった。

11. 市民会議の意義(価値)

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」は、延べ6日間を費やす意義(価値)があったとお感じですか。

- a. 大変意義があった : 7
- b. ある程度意義があった : 3
- c. どちらともいえない : 2
- d. あまり意義はなかった : 1
- e. 全く意義はなかった : 0

<自由記載>

- ・一つのテーマで、これだけのセッティングはとても贅沢。意義はある。
- ・多くの人々に参加してもらい、GMOを冷静に考え、理解する機会を持ち、その上で行動の決断をして頂きたい。
- ・行政と市民のパイプが出来たという意味で、とてもすばらしい事だと思っています。
- ・もらった資料を郵送とし、意見も郵送とし、全部をみんなが読んで感想をまとめたら。
- ・一般の消費者向けとしたら、6日間でも短いくらい。
- ・6日間を費やす程の内容ではなかった。
専門家の説明を4セット(AM/PM、AM/PM)2日間。その後市民討論だけを2日間、提言まとめ1日くらいか。
- ・最後の提案は、去年より一歩進んだものになっていますし、消費者らしいしっかりした言葉で考えられたのも、この6日間の成果だと思っています。
- ・GMOを考える上でも、市民参加の方法について考える上でも大変意義のある経験で

した。

- ・これからは、何かの折り、興味をもって見守ってゆきたい。
- ・市民会議参加者の知識は以前に増して向上し、正確な知識を修得したことは、今後の遺伝子組換え食品に限らず、すべての食品への関心が高まり、食生活への保全のために大いに役立つ基盤となった。

1 2. 市民会議方式

一般市民の意見や考えを科学技術政策に反映させる手段として、市民会議方式は、有効なものだと思いますか。

- a. 大変有効である : 7
- b. ある程度有効である : 5
- c. どちらともいえない : 0
- d. あまり有効ではない : 1
- e. 全く有効ではない : 0

<市民会議>

- ・会議をより多くの人に広報すること、多くの人の関心を集め参加者を募り、その中から市民が何を考えているか提言することは有効。
- ・参加市民が、普通の行動様式になるのに、日本は、あと何年くらいかかるのでしょうか。継続して頂きたいものです。
- ・開催されること自体は大事だ。
- ・資料を希望者に郵送して、意見をもらうのもいいのでは。
- ・市民に考えさせる時間をもっと十分にとった方がよい。専門家はそれぞれの立場から、市民の討論のアドバイスに参加すべき。
- ・この市民会議の提案が、どのように生かされていくのか分からないので、有効なのかどうかいえない。去年の会議もあまり一般には知られていないようだし、私自身実感が無い。
- ・もっと運営方法を洗練し、様々な分野で行われるようになってほしい。
- ・市民の声を反映できるものが少ないので、有効だと思う。
- ・有効な手段と思う。ただ、会議を本格的なものにするため、十分な時間が必要であり、その中で、議論し尽くした提言でありたい。一方、提言を受ける側は、提言を尊重し、忠実に実効する努力をしてほしい。

1 3. 世話人の対応

今回の市民会議での世話人の対応は、いかがでしたか。

- a. 非常に適切であった : 3
- b. ある程度適切であった : 7
- c. どちらともいえない : 2
- d. あまり適切ではなかった : 1
- e. 全く適切ではなかった : 0

<自由記載>

- ・でしゃばらず、ひっこまず、良い人選でした。
- ・司会およびコーディネイトはスタッフがしない方が、会そのものが流れやすい。市民の発言が長いときにスキを入れることができるから。また、変な遠慮もなく会が進められる。コーディネイトは、司会者、あるいは利害のからまない学識経験者などをお願いすればよいと思う。
- ・難しい立場の会議進行だったと思いますが、もう少し楽しみながらでもよろしいのではないのでしょうか。
- ・質的に討論内容が高まる（高める）工夫を！総花式の進行係ではダメ。意味のある討

論をみちびくように、先進国でのこの種の運営の実例をもっと学んでほしい。

- ・私達が主役ということは、世話人が全くタッチしないということではない。世話人自身がどこまでタッチするのか分かっていなかったのでは。世話人の迷いがこちらにも伝わってきて、迷ってしまった時もあった。
- ・努力はされていたが、討論が盛り上がるような進め方（1人の方の意見を長いこと聞くとか、ポイントのずれた意見を出させない進め方）。一生懸命努力されていたのはわかりますが。
- ・冷静に、かつ適切に対応していただきました。
- ・市民参加者のみの提言では論旨にまとまりのないものとなる可能性が高い。印刷された提言集を読んで、世話人、事務局の力の大きさを感じました。

14. 一般傍聴について

今回は、別室での傍聴でしたが、いかがでしたか。

- a. 別室でよかった : 10
- b. 同じ部屋でもよかった : 3
- c. 一般傍聴はないほうがよい : 0

<自由記載>

- ・同じ場に傍聴の方もいた方が、より多くの市民の声という一体感があったと思う。傍聴の方の反応（うなづくとか首をかしげるとか）を講師の方に感じてもらった方がよいと思う。
- ・次回は傍聴に参りますので、開催時をお教え頂きたいと思います。
- ・見られているという緊張感を持たずに発言できてよかったと思います。
- ・傍聴者にも、もっと解放した方がよい。参加人数も増やすこと。傍聴人がいると発言できないような人はいない。
- ・一般傍聴が必要であれば、別室の方が好ましいと思うが、ついたての向こうを意識しないといえは無理だ。
- ・傍聴者を同室にすると、静かな雰囲気での会議が邪魔される可能性があるし、市民参加者が傍聴者の雰囲気に影響を受ける可能性もあるので、別室がよい。

15. 事務局の対応

今回の市民会議の事務局の対応は、いかがでしたか。

- a. 非常に適切であった : 7
- b. ある程度適切であった : 6
- c. どちらともいえない : 0
- d. あまり適切ではなかった : 0
- e. 全く適切ではなかった

<自由記載>

- ・大変だったと思います。有り難うございました。
- ・事務局の皆様への対応は、とてもきめ細やかで、毎回出席するのが楽しみでした。発言しやすい雰囲気を作って下さったこともありがたかったです。
- ・過剰に世話することは不要。参加する人も1~2名で充分。その分のコスト下げる工夫を。開催数を10倍（年20回）に、これを真剣に考えてほしい。（例：専門家は、その開催する都市に近い人を選んでコストを下げる等）
- ・私の住む地域の方に伝えるため、資料をお願いしました。早速にご送付いただきまして、ありがとうございました。
- ・これから行う会議は両面コピー、ペットボトル飲料不使用を実施すべき。グリーン調達も、常識なのでは。
- ・親切に対応していただき、ある程度スムーズに（最終日は長くなってしまいましたが）

行われたと思います。東北と両方で、STAFFの皆さんも大変だったと思いますが、資料の多さ（結構差し替え分もあった）はもう少しコンパクトにしていただけたらと思います。

- ・市民参加者、世話人の間違いを適時に指摘して正しい方向に導入する行為は大変に良いと思った。

Ⅱ. 遺伝子組換え技術・農作物・食品について

1. 遺伝子組換え技術・農作物・食品についての知識（会議前）

この市民会議に参加される前に、遺伝子組換え技術・農作物・食品について、どのくらいの知識をお持ちでしたか。

- a. 詳しい知識を持っていた : 0
- b. ある程度の知識を持っていた : 10
- c. あまり知識を持っていなかった : 3
- d. 全く知識を持っていなかった : 0

2. 遺伝子組換え技術のメリット（会議前）

この市民会議に参加される前に、農業・食品分野における遺伝子組換え技術のメリット（有用性）について、どう思っていましたか。

- a. 非常に有用である : 1
- b. ある程度有用である : 5
- c. どちらともいえない : 4
- d. あまり有用でない : 2
- e. 全く有用でない : 1

3. 遺伝子組換え農作物の環境への影響（会議前）

このコンセンサス会議に参加される前に、遺伝子組換え農作物の環境への影響について、どう思っていましたか。

- a. 全く問題がない : 0
- b. あまり問題がない : 0
- c. どちらともいえない : 2
- d. ある程度問題がある : 7
- e. 非常に問題がある : 4

4. 遺伝子組換え食品の安全性（会議前）

この市民会議に参加される前に、遺伝子組換え食品の安全性について、どう思っていましたか。

- a. 非常に安全である : 0
- b. ある程度安全である : 3
- c. どちらともいえない : 6
- d. あまり安全でない : 3
- e. 全く安全でない : 1

5. 遺伝子組換え技術・農作物・食品についての理解（会議後）

①この市民会議に参加されて、遺伝子組換え技術・農作物・食品に関する知識や理解は、会議前に比べてどう変わりましたか。

- a. 大いに深まった : 8
- b. 多少深まった : 4
- c. どちらともいえない : 0
- d. あまり深まらなかった : 1
- d. 全く深まらなかった : 0

<自由記載>

- ・一つの事象であっても、講師の立場でその捉え方は異なる。参加者として、どう考えるかがポイントとなる。
- ・今後ともバイオテクノロジー全般に興味を持ち、勉強を続けたいと思います。
- ・机上の会議だけにとどまらず、研究所などに足を運ぶことで理解度は深まるはず。カリキュラムの中に、もっと動的な試みがほしい。
- ・遺伝子組換え技術については、大いに理解できました。がしかし、食べるとなると不安や心配が払拭しきれません。科学は万能ではないという事実を多く見せつけられ、不信感を持ってしまっているのです。
- ・現状の把握ができた。立法、行政の不作為が目立つ。科学的な開発のインセンティブは、コスト競争力のある種子ならば止むことはない。市場に放任するのは遺恨を残す。
- ・行政の手にまかせておくだけでなく、市民も知識と興味もって見守り、Yes、Noをはっきり示すことが大切だと思いました。
- ・技術そのものでなく、業者側、そして対応する行政側の姿勢をある程度見せてもらったことで大変参考になった。
- ・皆無から有に導入して下さったのですから、理解は大いに深まりました。今後も引き続き関心を持ち、知識を深めたいと思っています。

②遺伝子組換え技術・農作物・食品に対する考え方が、変わりましたか。

- a. 変わった : 4
- b. 変わらない : 8
- その他. : 1

変わった場合その内容、またはこれに関し、お気づきのことがありましたら、自由にご記入ください。

- ・厚生省（厚生労働省）、各企業とも最近とみにリスクに敏感になっており、安全性に多少とも問題のある技術等には手を出さず、基本的には安心感を持っている。
- ・行政は、もう少し門戸を開いて理解を求められるような手法を考えた方がよいと思う。以前は遠い出来事のような事柄に感じていたが、会議を通して、身近なこととなった。どういう方向に考えられるようになるにせよ、問題として考えるチャンスを与えることは大切。
- ・企業の説明には、逆に不信感をもった。もっと自らオープンにしていく会社の考え方がなければならない。それがいろいろな問題を解決する。企業をも守ることにつながるはずと思うのだが。
- ・このところ私達は、科学は万能でないという事実をあまりに多く見せつけられてきています。原発事故、ダイオキシン、環境ホルモン、構造物のもろさ、食品の安全神話の崩壊など。これでは、信じろといっても無理だと思います。
- ・推進派は「問題ない」一点ばり、批判派は問題をつくだけ。前者にも「問題はないか」と考えてほしいし、後者も研究者、学者あるいは対当な知識の人にすべし。いくら聞いても何か肝心の点で、ホントのことが聞けないような。

- ・遺伝子技術への関心がより深まった。技術開発そのものは、続けるべきですが、その動機が「市場原理」そのものである現状は、とにかく改めなくてははいけません。
- ・今あるGMOが必要だとは思わないが、分野・目的によってはGM技術が社会に貢献できることもあり、そのためには研究開発も必要であることが分かった。しかし、そのための社会的なインフラやルールづくりについてはあまり考えられていないという新しい問題点も発見することができた。(余談：食べものについての考え方(例：地産地消、身上不二など)は変わらない。他国のマーケットとしてしか見ようとしないう米 国への嫌悪も(笑))
- ・遺伝子組換え自体なじめなく、安全性、環境に不安を感じていた。現在でも同じ気持ちがあるが、食品以外のものと食品区別。食品に関しても情報公開がしっかり行われて安全性が今より厳しい規準で行われたら、考え方も異なってくると思う。
- ・遺伝子組換え技術は科学技術の革新であるので、殆ど無条件に良いことであると思いきこんでしまうのですが、この会議に参加して、安全面に不安の部分が案外にあることを知り、今後は自己責任で安全に向かって適切に対処していく必要性を痛感しています。

Ⅲ. その他, 感想, 要望, 改善点等

<自由記載>

- ・反対派の立場の方が、消費者団体の方が多く、推進派の立場の学者、行政の方と立場が違うためか、話がかみ合わなかった。反対派の方がデータを提示された学者の話是直接聞きたかった。

参加して下さった学者や行政の方は、説明のときは分かりやすかったが、質疑となると、自然科学の用語を使い、市民の質問に対して教えようという気持ちが強く、押しつけとも感じるがあった。質疑の中で、市民の声を研究者、メーカー、行政に届ける場でもあったと思う。お互いが話を聞き、違いを認識し、分からないところは、情報を交換するという雰囲気づくりが必要と感じた。

- ・他の省庁でも、委員会等の公開にとどまらず、市民を集めてのテーマごとの会議を開いて頂きたいと思います。こういう予算が十分に組める限り、税金は高くムダだとは思いません。

- ・物事には、良い所と悪い所があるものです。悪いところは、このように二重、三重にフォローし、こんな対応でやっていきます。消費者の皆さん、この他に良いアイデアはありませんか？という位に、情報を公開したらよいと思います。信頼関係の構築は、一朝一夕にはできるものではありません。食の問題には、女性の智慧も大いに生かしていくべきだと思います。男性とはまた違った感性で捉えている部分も大事にしていくべきだと考えています。

今回の会議で遺伝子組換え食品について反対していたお二人の女性が出て下さいましたが、反対派(側)として一人に対応しておりましたので少し気の毒でした。出て下さる方が少ないので仕方ないとは思いますが、推進派と人数を合わせる方が、公平感が保てるように思いました。

今回の市民会議には、企業の出席がありませんでしたが、企業にも入っていただいで、三者、四者でいろいろ意見を出し合った方がより良い姿が見えてくるのではないのでしょうか。

- ・農水省の方がお話(意見)の中で、「落とし所」という言葉が使われていましたが、(事実そうなのかもしれませんが)私達の前では、不適切だったと思います。水をさすことになり残念です。

- ・講義で聞いたことに対するみんなの1ページ程度の印象を聞きたい。話すより書く読むという私の主義の立証のためもある。

- ・市民に向けて、こういう場を設けていくことは必要だと思います。

- ・一回の開催に要するコストを下げ(事務局等の出席人数を減らす。講師(専門家)を減らすなど)開催する回数、都市をもっと大幅に増やして続けて下さい。

- ・参加する市民側の duty（義務）＝提言の作成＝をもっと強調した方が討論内容が自覚的になるでしょう。
- ・参加市民への日当 2,200 円は余りにも安すぎる。質は値段に比例することもお考え下さい。
- ・とにかくあらゆる点で「質」を高める努力を願いたい。
- ・安全性について、農水省、厚生労働省、経済産業省等々の関係諸官庁が、横の連絡を密にしてほしいです。
- ・相手の意見を批判しないというルールを守らない一部の人がいたことが残念だった。
- ・市民会議という方法が、市民参加の一形態として、とても興味深いものであると感じました。

今回の会議のクライアントである農水省、事務局となったSTAFF、世話人、運営委員、そして参加市民が、今回の会議の運営や今後の展開などについて評価、意見交換する場を作って頂けたらと思います。建設的なクリティークをきちんと行うことで、より相互理解が進み、なすべき事が見えてくると思うからです。参加市民からのアンケートが集まった段階で、ぜひ開催して下さい。

- ・貴重な体験をさせていただきました。
日々の生活の中、「選べる権利」の重要性を感じました。情報過多の中、必要とする情報が逆に手に入れにくくなっています。食品や生活上の安全に関しては、上からの一方的な情報を待つのではなく、今回のように広範囲に情報を得、考え、議論していくことが大切と思いました。今回2回目ということですが、来年度以降も繰り返し行って下さい。そして、より消費者と身近な食品メーカーの参加もお願いいたします。
- ・この会議は大いに有意義なものであるもので、将来ともに続行してほしい。その場合、会議の回数、時間等は許容範囲で議論を十分に尽くせるよう多くしてほしい。また、専門家の招聘は、論理一点張りの学者を中心に理論の右から左までの人々も加えた陣容にして幅広い論理を修得したい。

報告書のまとめは、参加者の中で同程度の知識を持っている者を選抜して報告書の原稿書きをすることにすれば、内容の理解も早く、短時間で報告書が完成すると思う。いずれにしても、今回の会議は、理事長さんをはじめ、本事務局の方々、世話人の方に大変ご心労をかけながらであったこととお詫びします。

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」〈仙台〉参加市民アンケート

〈仙台〉参加市民16名中13名回収

I. 市民会議について

1. 市民会議に参加されたご感想

今回の市民会議に参加されて、あなたにとって有意義と感じられましたか。

- a. 非常に有意義であった : 10
- b. 有意義であった : 3
- c. どちらともいえない : 0
- d. つまらなかった : 0
- e. 全くつまらなかった : 0

〈自由記載〉

- ・立場の異なる人々が同一の問題に対して、それぞれの考えを述べ合う中での議論は、他の人の考え方を聞く中で、自分の考えや今後の取り組みについても考えさせられたり、さらに行動の励みになったりもして、とても意義がありました。行政マン、学者、科学先端技術者、消費者サイドの人々がそれぞれの分野で専門的にやられていることの説明も、とても勉強になりました。
- ・市民会議という初めての会議で、多様な人の意見を反映させるもので、良い機会を与えて頂きました。
- ・今まで何気なく食してきた農作物について意識するようになった。
- ・マスコミからの情報だけで判断していたことがまちがいであり、良い悪いを自分自身の考えで判断することが出来た。
- ・私には有意義だったが、事務局は人選を間違えたと思われたかもしれませんね。
- ・参加者のメンバーが良かった。(生産者、消費者の有識者、一般的な市民層、参加者の年齢等)

2. 会議の進め方

今回の会議の進め方について、満足されたでしょうか。

- a. 大変満足した : 5
- b. 概して満足した : 7
- c. どちらともいえない : 1
- d. 概して不満であった : 0
- e. 大変不満であった : 0

〈自由記載〉

- ・最初から最後まで市民の考えの中での議論を重視して、それぞれの考え方を引き出すプレゼンテーションは、テーマの市民が考える会議として意義があったと思います。
- ・最後の文章化の時期に、ホワイトボードに意見の過剰書きを並べ、付け合わせた方が短時間でプリントアウトしてからも見直しして修正が出来たように思う。
- ・今までの会議ですと、主催者、司会者、参加者で進め方がだいたい同じでしたが、今回は最初だったので、慣れるうち疲れがたまった。
- ・市民が主体となって進めて下さり満足している。
- ・自由に参加できた。
- ・参加者を中心にして会議が進められた。世話人、事務方(S T A F F)に感謝します。
- ・進行(時間配分)が速いように思った。

3. 専門家による説明

第1回1日目・2日目、及び第2回会議1日目での専門家による説明は、十分なものでしたか。

- a. 十分であった : 2
- b. ある程度十分であった : 9
- c. どちらともいえない : 2
- d. 少し不十分であった : 0
- e. 全く不十分であった : 0

<自由記載>

- ・現段階で、専門としておられる方々の情報を得ることが出来たと思っています。
- ・市民サイドというか、不安を持つ専門家がないのか、探さないのか、少々不満でした。もう少し反対側から専門的意見を聴きたかった。
- ・科学者は、一般市民に科学的にどこが問題かを尋ねるが、科学的に分からない市民にとっては、問題だと思っている科学者の説明を聴いてから、双方の意見を考えた上で一段の市民の感じる問題点を尋ねてほしかった。
- ・賛成派の専門家の話を聞くと賛成にかたむいてくるし、反対派の人の説明を聞くと反対と思い、ゆれ動いていた。
- ・専門家の説明で理解できたが、もっと説明の時間があつたらよかったと思う。
- ・時間の関係で仕方がないと思う。
- ・推進派、反対派のそれぞれの意見を聞くことが出来たことは、有意義であった。
- ・スライド、図解を利用しての説明が欲しかった。
- ・大分難しく、大変だった。

4. 専門家の選定

専門家の選定は適切であったとお考えでしょうか。

- a. 非常に適切であった : 0
- b. 概して適切であった : 9
- c. どちらともいえない : 3
- d. 概して不適切であった : 1
- e. 非常に不適切であった : 0

<自由記載>

- ・遺伝子組換え技術に賛成派、反対派がある中でのそれぞれのお立場での考え方がとても良く判りました。
- ・賛成者は科学者、反対者は科学者でない消費者、いわゆる科学的反対を理論的に説明できない人々。
- ・どちらかと言えば賛成派の専門家の言うことが強く感じられた。
- ・推進している人、消費者団体の人など両者の講話があり、よかった。
- ・モンサントは適切であったとは思えない。
- ・専門家の選定はむずかしかったと思うが、公平だったように考えられる。
- ・もう少し異を唱える専門家の話も聞きたかった。生物学的な見地から反論する専門家の説明が欲しかった。
- ・推進派の専門家が多かった。反対派とのバランスを考えて選定すべきである。

5. 専門家の説明

専門家の説明は、わかりやすいものでしたでしょうか。

- a. 大変わかりやすかった : 1
- b. わかりやすかった : 6
- c. どちらともいえない : 6
- d. わかりにくかった : 0
- e. 非常にわかりにくかった : 0

<自由記載>

- ・時々専門用語が出る中で、言葉の索引集を後日送付して頂いて良かった。
- ・難しい問題を優しい言葉で分かるように説明できてこそ専門家でしょう。一部の人には不満でした。
- ・分かりやすかったが、一面だけをとらえていて疑問に思うことも多く、2回目の会議では、前提であった人口問題の解決策は、遺伝子組換え技術で救えない（日野さん）と話したりで、この技術の食物への適応目的が分からなくなった点では何のためにとすることが多々あった。
- ・専門家の方々は、分かりやすくまとめたと思うのですが、こちらが知らないことが多いので（c.）にしました。特に一日目の太田さんのお話は、聞いても資料を読んでも分からない部分が多かった。科学が苦手だから特にそうでした。
- ・説明は私にもよく理解できたので、解りやすかったと思う。
- ・基礎知識のなかった私には、内容が広く時間が足りなかった。また、説明が早口で（GM推進とノンGM専門家共通）理解するのに苦労した。
- ・専門用語が多く、事前に用語説明の資料が欲しかった。
- ・難しかった。

6. 専門家の説明・質疑時間

専門家の説明・質疑時間は、どうだったでしょうか。

- a. 非常に長かった : 0
- b. どちらかといえば長かった : 0
- c. 適切であった : 5
- d. どちらかといえば短かった : 7
- e. 短かった : 1

<自由記載>

- ・短時間に今回の遺伝子組換えの話題提供、説明をする中で、説明する専門家の方々も、素人で聞く方もかなり大変な部分（一気に何もかにも覚える中で）があった。
- ・専門家同士の質疑がもう少しほしかった。
- ・説明する時間が多くとられるので、質問する時間が足りない気がしました。
- ・質疑の時間が充分ではなかった。
- ・参加者の知識、経験の未熟さがあり、質疑応答の物足りなさを感じた。
- ・議論が白熱し、十分に質問出来ない人がいた様に思った。質疑時間がもう少しあっても良かったと思う。説明の時間は適切であったと思う。

7. 参加市民の議論

参加市民による議論について、どのような印象を持たれましたか。①から④について、お答えください。

- ① a. 活発であった : 12
- b. どちらともいえない : 1
- c. 活発でなかった : 0

- ② a. 建設的な議論になった : 6
 b. どちらともいえない : 7
 c. 建設的な議論ではなかった : 0
- ③ a. 時間は十分であった : 3
 b. どちらともいえない : 7
 c. 時間は不十分であった : 3
- ④ a. あなた自身、十分に発言できた : 3
 b. どちらともいえない : 7
 c. あなた自身、十分には発言できなかった : 3

<自由記載>

- ・最後のまとめの部分での時間がもう少し欲しいと思った。
- ・時間が許されるなら、もう一日市民の議論の場がほしかった。他の人の発言を聞くために自分の発言をコントロールするのは当然だが、やはりもう少し発言時間がほしかった。
- ・知識が多い人と少ない人では発言に差がでたように思う。
- ・自己主張の強いメンバーの意見が選考された。
- ・議論が横道にそれることもあったが、私には充分であった。
- ・それぞれ活発な良い考えが出ているのに、その流れをまとめきれなかったところがあり、残念だった。
- ・農業従事者の方たちの体験に基づく専門的な議論を目の当たりにして、非常に勉強になった。主婦の立場からの発言は、他の方たちとほぼ同じで、皆さんで言い尽くしたと思うので、満足している。

8. 市民の提案

「市民の提案」は、十分に議論を尽くしたものとなりましたでしょうか。

- a. 十分議論を尽くした : 0
 b. ある程度議論を尽くした : 9
 c. どちらともいえない : 2
 d. あまり議論を尽くせなかった : 1
 e. ほとんど議論を尽くせなかった : 0
 無回答 : 1

<自由記載>

- ・生産者の立場、消費する立場の中で、それぞれの相互理解をする部分が今回の会議の中であった様に思う。そして議論する中で、それぞれの共通認識が高まったのも事実である。
- ・時間不足。まとめの方法、例えば提案全体を文章化したものを各グループで用意し、それをつきあわせるとか、もう少し文章をまとめる時間が必要。かなり不満が残った。
- ・農業問題と食糧と遺伝子組換えの話だったが、生産者も多く話が農業問題になり、組換え技術までいかないとまってしまふことがあり、そこから技術との関係までふみこんで話すと良かったと思う。
- ・結果的には、ほぼ同じ考え方であったので、まとまりやすかった。一字一句も大事かもしれないが、少しは事務局側よりアドバイスがあってもよいのでは。無駄な時間もあったから。(仕方ないかな)
- ・子どもの教育云々は別の問題として話すことだったと思う。
- ・ここでどうしてもこの事だけは言っておきたいということは無かったので、あまり発言しなかった。

- ・どうしても体制の流れが中心となり、表面的な表現でまとめられた。個々の考え、言葉を具体的に出してもらおうためのレポート提出も考えてほしかった。

9. 市民会議の開催日

今回の市民会議は、土日祭日に開催いたしました。開催日はいつが参加しやすいですか。

- a. 土日祭日が参加しやすい : 4
- b. どちらともいえない : 7
- c. 平日が参加しやすい : 2

<自由記載>

- ・第1回目の会議が農業従事者にとって、収穫期の一番忙しい時になった様で、とても気の毒であった。
- ・私は（b.）ですが、土日祭日だと仕事をしている人も参加できやすいのでは。
- ・他の予定と重ならないので、休日開催が良い。
- ・市民の関心を高めることが大切である。
- ・平日に週1回位。10時～16時位の時間帯で、何回かに分けての方が参加しやすい。

10. 市民会議の時間について

市民会議の時間は、どうでしたか。

- a. 今回程度で十分 : 6
- b. どちらともいえない : 1
- c. もっと時間が必要 : 5
- d. 短くてよい : 1

<自由記載>

- ・参加者の立場によって時間は異なる。若い人に参加してほしいが、子どもがいればかなり制約される。同様に、仕事の都合で参加できない場合もあるし難しい。
- ・ローリングしている画面での文章読みとりは誤りも多く、プリント化したものから他人（第三者）へ正確に会の趣旨が伝わるよう、昼からではなく朝からの会議で余計な予算を使わずにできると良いと思う。
- ・まとめのところで、参加市民の人たちが昨日の睡眠不足で考えがまとまらなくなってきた。必要事項をまとめ、文書化するのは少人数でやった方がまとまるような気がした。
- ・もっと時間があつたならと考えるところで良かったのではないのでしょうか。
- ・第1回開催の二日目のように、9時～20時は、長すぎるのではと思った。身体の疲れを感じた。

11. 市民会議の意義（価値）

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」は、全2回の宿泊を伴う会議で、延べ5日を費やす意義（価値）があつたとお感じですか。

- a. 大変意義があつた : 8
- b. ある程度意義があつた : 5
- c. どちらともいえない : 0
- d. あまり意義はなかつた : 0
- e. 全く意義はなかつた : 0

<自由記載>

- ・集中して一つのテーマに対して学び、その賛否両論を論ずる場が持てたことは、とても良かった。

- ・自分自身の学習の場、他者と知り合う場、専門家のものものの考え方がよく分かったし、行政のあり方も学べた。初めて税金を払ってよかったと感じた。
- ・科学的なことを分からない市民の理解から始まり、組換え技術への評価までさせるには、5日は多くないと思う。
- ・県単位で開いても同じ様な意見、質問がでたと思いますので、東北という地域全体で宿泊したのが良かったのでは。
- ・私にとって今回の会議は大変有意義であった。
- ・宿泊会議ゆえ、ホテルの外でもコーヒーを飲みながらの組、またはお酒を交わしながら話が出来たのでは。
- ・延べ5日では、足りないくらい意義（価値）の深い会議だと思う。

1 2. 市民会議方式

一般市民の意見や考えを科学技術政策に反映させる手段として、市民会議方式は、有効なものだと思われますか。

- | | |
|--------------|-----|
| a. 大変有効である | : 4 |
| b. ある程度有効である | : 8 |
| c. どちらともいえない | : 0 |
| d. あまり有効ではない | : 0 |
| e. 全く有効ではない | : 0 |
| 無回答 | : 1 |

<自由記載>

- ・同じ土俵の上で、行政サイドと国民が意見を述べ合う、このような機会を今後益々増やして欲しい。公募がとても良いと思う。なぜならば、その件について思い入れをもって積極的に臨む姿勢があるから。
- ・何らかの拘束力を持たせる“しくみ”がない以上、政策反映はできないだろう。今回の場合はそれが無いのでは？
- ・技術の細分化でもともと職人である科学（理科系）屋の、職人であるが故に見えなくなる巨視的なものの見方を何も知らない市民から気付かされるというのは良い方法だが、最終的には専門の知識をもつ者同士が両極から話し合い、良心の基に決定をし、公益のために尽くすのが一番良いのではないかと思われる。
- ・政府や自治体が市民から意見を聞くやり方は、形式的にやったというだけのことが多かったと思いますが、今回のようなやり方は、委員だけで話し合い、まとめるという点で有効だと思われ、これが生かされるような政策をとと思います。
- ・今回のような市民会議は、今後もいろいろな方面で実施していただきたい。
- ・できるだけ広く各階層から選抜し、現時点での回数は少ない。一年を通して継続して会議をすべきと思う。
- ・関心の薄い人達に感心を持たせるには、どうしたら良いかと言うことも含めて、もっともっとこのような会議の場を作って討論の場を持って欲しいと思う。

1 3. 世話人の対応

今回の市民会議での世話人の対応は、いかがでしたか。

- | | |
|----------------|-----|
| a. 非常に適切であった | : 7 |
| b. ある程度適切であった | : 6 |
| c. どちらともいえない | : 0 |
| d. あまり適切ではなかった | : 0 |
| e. 全く適切ではなかった | : 0 |

<自由記載>

- ・とにかくじっくりと私達の意見を聴いて下さったことに感謝しています。お疲れさまでした。

- ・世話人の立場がよく分からない。“リーダー”ではないから指導力は不要といっても、やはり議論の進め方、まとめ方にはもう少し工夫がいるのでは。世話人にもストレスが多いのではないか？
- ・非常に良く先導して頂き、大変助かったと思います。
- ・朝早くから夜おそくまで場所を移動したりで、世話人の方々も疲れるだろうなと感じておりました。
- ・限られた時間でまとめなければならぬので大変だったと思う。
- ・世話人さんの気遣いを有り難く感じました。
- ・心配りが行き届き、緩急ある進行の中に時折見せるユーモアが雰囲気のを和らげ、とても好印象を持ちました。

14. 一般傍聴について

今回は、別室での傍聴でしたが、いかがでしたか。

- a. 別室でよかった : 8
- b. 同じ部屋でもよかった : 5
- c. 一般傍聴はないほうがよい : 0

<自由記載>

- ・参加する事により、人々の意識が高揚してくると思うので。
- ・どちらでもかまわない。私個人としては“表情”“雰囲気”はとても大切だと思うので、同室の方がよい。
- ・傍聴者には全く気がつかなかった。
- ・自由に発言するには別室でよかったと思う。
- ・別室でよかった。私はトイレで友達の後ろ姿を見つけ逃げた。
- ・傍聴した方の感想も聞ければと思う。

15. 事務局の対応

今回の市民会議の事務局の対応は、いかがでしたか。

- a. 非常に適切であった : 7
- b. ある程度適切であった : 6
- c. どちらともいえない : 0
- d. あまり適切ではなかった : 0
- e. 全く適切ではなかった : 0

<自由記載>

- ・私達のニーズの部分に、すみやかに応じて下さって感謝しています。ありがとうございました。
- ・一部事務局から、個人的意見、感想を出されたのが少し気になった。あくまでも“空気”であってほしい。
- ・(b.) にしたのは、リッチフィールドホテルに泊まった時、一晩中暴走族がバイクを走らせ、眠られず、翌日の会議では少々睡眠不足だったこと、たぶん事務局の方々も分からなかったと思うのですが。
- ・いろいろ配慮していただきありがとうございました。お疲れ様でした。
- ・アドバイスも適切であった。お茶、お水等、自由に飲むことができてよかった。
- ・事務局は参加者に遠慮しすぎた感があり。食事、休憩時間内のコミュニケーションをもっと深めてほしかった。
- ・疲れも出て、ともすれば無味乾燥になりがちな空気も、柔和な事務局の方々の対応で、良い流れのまま、日程を終える事が出来たと思う。

II. 遺伝子組換え技術・農作物・食品について

1. 遺伝子組換え技術・農作物・食品についての知識（会議前）

この市民会議に参加される前に、遺伝子組換え技術・農作物・食品について、どのくらいの知識をお持ちでしたか。

- a. 詳しい知識を持っていた : 0
- b. ある程度の知識を持っていた : 5
- c. あまり知識を持っていなかった : 4
- d. 全く知識を持っていなかった : 4

2. 遺伝子組換え技術のメリット（会議前）

この市民会議に参加される前に、農業・食品分野における遺伝子組換え技術のメリット（有用性）について、どう思っていましたか。

- a. 非常に有用である : 0
- b. ある程度有用である : 2
- c. どちらともいえない : 6
- d. あまり有用でない : 2
- e. 全く有用でない : 3

・有用であるが、様々な点でリスクも大きい。

3. 遺伝子組換え農作物の環境への影響（会議前）

このコンセンサス会議に参加される前に、遺伝子組換え農作物の環境への影響について、どう思っていましたか。

- a. 全く問題がない : 0
- b. あまり問題がない : 0
- c. どちらともいえない : 3
- d. ある程度問題がある : 3
- e. 非常に問題がある : 7

4. 遺伝子組換え食品の安全性（会議前）

この市民会議に参加される前に、遺伝子組換え食品の安全性について、どう思っていましたか。

- a. 非常に安全である : 0
- b. ある程度安全である : 1
- c. どちらともいえない : 5
- d. あまり安全でない : 4
- e. 全く安全でない : 3

・食べて安全、社会的・経済的に安全、環境に安全と、質問を限定して下さい。

5. 遺伝子組換え技術・農作物・食品についての理解（会議後）

①この市民会議に参加されて、遺伝子組換え技術・農作物・食品に関する知識や理解は、会議前に比べてどう変わりましたか。

- a. 大いに深まった : 4
- b. 多少深まった : 7
- c. どちらともいえない : 1
- d. あまり深まらなかった : 0
- d. 全く深まらなかった : 1

<自由記載>

- ・情報が今回の会議の中ではずいぶん増えることにより、何をどうとらえて今後の考え方の中に活かすかが、会議の前より判ってきた。
- ・漠然とした不安がより具体的なものになったように思う。
- ・誤解や勘違いしていることがあり、それが分かりました。
- ・消費者として知識を持つことは大切であるし、理解して選択できたらよいと思う。
- ・人体への影響については、少しであるが不安が軽減された。しかし、環境への影響については以前と変わらない。
- ・遺伝子組換え作物は安全である事は理解できたが、それを長い期間食べ続けると・・・結果は少し心配。
- ・育種、品種改良、バイオの高度な先端技術なる故、生物兵器改良の予知もあり、厳しい法の規制が求められる。
- ・知識としては、大いに深まったと思うが、メリットや環境への影響に対しての懸念、安全性に対しての不安が完全に拭えたとはまだ言えない。

②遺伝子組換え技術・農作物・食品に対する考え方が、変わりましたか。

- a. 変わった : 4
- b. 変わらない : 9

変わった場合その内容、またはこれに関し、お気づきのことがありましたら、自由にご記入ください。

- ・やみくもにこの技術の良し悪しを論ずることはやめて、何の分野でもそうである様に、それぞれのメリット、デメリットを把握し、それらの適材適所での活かされ方、応用の仕方を含め、グローバルな考え方で、この技術研究を見守っていききたい。慎重に、かつ国民の合意形成を得る中での開発の姿勢も必須である。安全で安心出来るものでなければ多くの国民はこれらを受け入れることはしないと思う。「疑わしきは口にせず」をモットーに！
- ・今までは何となくいやだとか抵抗があったのですが、これに参加し、ますます受け入れられないと思いました。
- ・品種改良に対し、組換えは一つの手段であって特別安全性に問題あるものではないということ。
- ・GM作物、食品についての抵抗性は和らいたが、商品化、生産性、農業環境の問題を考えると不安に感じます。

Ⅲ. その他, 感想, 要望, 改善点等

- ・今回の会議に参加出来たことは私にとってとても幸運でした。社会情勢の様々な状況、事象の中で、一国民として思うことは多々あるけれど、かといってその思いや意見を今回の様な場で、初めての顔合わせの人達と専門家の人々と議論することは、なかなかないという現実の中で、それらが実際にやれたことがとても有意義でした。今回の会議のことは、地域に帰って広くみんなに情報として流すことにより、開かれた行政審議会のこれからの方向性、姿勢をも併せて伝えていきたい。
- ・こういう会議に参加する人は、もともと関心のある人だろう。それもどちらかといえば、批判的に。そういう人をターゲットにいわば“洗脳”するための場と受け止めていた部分もありました。
何人かの専門家の発言は、それに近いものもあった様ですが、参加して本当によかったと思います。仲間は「そんな所へ行ってどうするの？時間のムダ」と言われましたが、有意義な時間でした。何よりも遺伝子組換え技術が、“技術”をこえて価値観の問題になっている事に、もう少し専門家（推進する側の総称として）が配慮すべきだと思います。科学技術の進歩が、社会や人間に必ずしも幸福だけをもたらさない現状に、

多くの市民が漠然とした不安を抱いています。そのことは、まさに“非科学的”ですが、その不安を科学的知識で押し切ろうとする従来のやり方では、組換え技術は普及しないと思います。“神の領域”へ人が入るのを恐れる心は大切でしょう。臓器移植しかり、急ぐとロクな事にはなりません。

専門家のみなさん、モンサントのみなさん、女・子どもをバカにすると痛い目みますよ！！“買わない”という手段を女は持っています。冗談はともかく、人と自然が本当に共存（人と人も勿論）できる技術開発を望む心が漠然とした不安なのです。そこをもっと受け止めていただければと思います。

- ・戦後、敗戦の中から高度成長へと米国をのりこえようと努力してきた日本だが、社会主義が崩壊し、資本主義が行き詰まる今日、確かによりお金になることにしのぎをけずってきた日本も、行き過ぎに目を向け、競争に勝つことばかりではなく、自国の未来を長期間にわたって考え、必要なことは何なのか、知識のある人達はすでに知っていることを隠さず、また自分の良識にフタをせず、本当に進むべき道を勇気をもって示すべきだと思う。それが、目先の利益ではなく何十年後かの大きな利益を産み、（目先の利益だけを追い情報と数字で操られた今までの成長の仕方が、今の結果を産んでいるのだから）同じ誤りを知識者なら未然に防ぐのがその一番の仕事だと感じる。それは、市民の合意というより以前の有識者と農水省のエリートと呼ばれる方々の仕事と思う。予算を削ぎ、今回の会に多大な労力を尽くして頂いて感謝致します。
- ・今まで会議、フォーラムといえ、聞くだけの人も多かったと思いますが、今回のような会議は自分の考え、意見をのべるという点で、ディベートが苦手な日本人にとり、すすめるべきと思いました。ただ、会議の中で個人攻撃になるような内容は控えた方がいいと思いました。岩手県から参加した者として、少々気になったことは、生協の人達は、学習会や講演会を開いているのに、このような会議に出ようという人がいなかったのか、また応募してもはずれたのか、その点が気になりました。
- ・今回の市民会議に参加させていただきありがとうございました。専門家の考え方や研究についても大変になり、理解が深まりました。今後も「遺伝子組換え農作物」について興味を持っていきたいと思います。
- ・参加前に進める為の会議との見方の人があり、参加は意味がないとも話す人もいた。将来にとって無視できない技術と考え参加したが、その意味はありました。有用性、問題点、それぞれ正面から見据えて行かねばと思っています。ありがとうございました。
- ・組換え技術よりも除草剤に対するアレルギー的なものが大変まだ多く残っていることがわかった。また、その除草剤に対し、生態系や土壌微生物、酵素といった分野へ影響等も、もう少し専門家より勉強したかった。
- ・参加された市民の皆さんが心おだやかな方ばかりで、良い悪いを決めつけず、冷静な態度、話し合いが出来たことは、大変私にとっても反省しなければならなかったし、勉強になった。
- ・民主主義の世の中であって、これほど時間をかけてみんなの話を聞いて、次の政策の参考にするというの骨がおれるし、金もかかるものだった。
- ・参加する人が宮城県の方が多く、できれば青森からも2人くらい参加できたらと思いました。
- ・農業者側からの食に対しての責任や提案は少し今までないような気がした、もっともっと生産者側から発信していかなければと思いました。
- ・2回目のホテルは暴走族がうるさく、眠れなかった。土、日は特にうるさいのかも、少し静かなところが良いのでは。
- ・最後の夜は、もう少し酒を出しても良いのでは。出来たら会費制にてやるとか。
- ・宿泊不要の場合は、自宅から参加する事を認めてもらいたかった。
- ・急速に生産される米国、カナダ等のGM作物、食品について、日本が研究開発したGM食品の生産体制が出来るまで輸入は禁止すべきである。
- ・GM開発は、科学者のための研究傾向が強く感じられる。消費者、生産者、行政関係

者の一体となって検討できるチェック機関の設置。

- ・ GM商品の表示、用途明確に公開すること。安全、環境、研究に対しての法律を整備し、規制、罰則を制定すること。
- ・ 市民会議に参加して、21世紀の食糧問題は遺伝子組換え技術の導入は避けて通れない。従って、より一層の市民の立場に立った政策として、合意できる様、STAFFの皆さんに頑張っていたきたい。
- ・ STAFF事務局、畑中理事長皆様に大変意義ある会議を開催していただき、誠にありがとうございます。今後とも、情報交換、ご指導の程よろしくお願いいたします。
- ・ 日本農業の確立（各国において、食糧自給は国の柱であり、大きな課題でもある。今日、日本の自給率は、年々下降しており、日本農業は危機的状態である。日本はこれまで工業優先、経済優先の施策を講じ、そのツケが回ってきているといえる。そこでまず日本農業を立て直し、自給率を高める政策が必要である今日の経済的、政治的問題、国際的競争の中で、1、農業、食糧についての国民教育の導入 2、国土保全、経済上の多面的機能を有した循環型農業携帯の推進 3、食糧安保、社会保障としての農業への補助金（国民的合意）、生産者への助成の構築。
- ・ 消費者の方々が、農業問題を真剣に考えて下さったことがうれしかった。行政はこの声を真摯にとらえ、抜本的な農業政策を考えてほしい。
- ・ 今回の市民会議に参加出来たことは大変有意義でした。今後も出来るだけこのような会議を開催していただき、多くの市民の意見を入手し、それを行政に活かしていただきたいと存じます。また、日本国家の財政が行き詰まっていますので、科学技術を使って開発していく場合、相当高額な費用負担がございます。ここらで一休みして、費用をかけない方法を研究していただきたいと願います。科学技術開発費用だけではありませんが、税金の使い道にもっともっと厳しいチェック体制が必要だと思いますので、ぜひ2002年以降は、無駄使いをなくして欲しいと思います。今回はどうもありがとうございました。

6. 資料集

1) 農林水産省プレスリリース	95
2) 参加申込みの手引き		
(1) 案内ちらし	96
(2) あらましと参加市民申込みにあたって	98
(3) 参加市民申込書	101
3) 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議マニュアル」(横浜版)	102
4) 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議マニュアル」(仙台版)	121
5) 「遺伝子組換え農作物を考えるコンセンサス会議」あらまし	140

プレスリリース

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」の開催について

平成13年8月2日
農 林 水 産 省
農林水産技術会議事務局
技 術 安 全 課

遺伝子組換え技術の持つ可能性を実現し、社会がその恩恵を受けていくためには、安全性の確保とともに、国民の理解を得ていくことが重要となっている。このため、平成12年度には、公的機関としては我が国で初めて「コンセンサス会議」という手法を用い、消費者・農業者等の一般市民自らに遺伝子組換え農作物に関する「市民の考えと提案」を取りまとめていただくとともに、その提案を踏まえ、市民の関心に対応した調査研究を行っている。

本年度も、昨年度に実施したコンセンサス会議の経験及びそこで取りまとめられた「市民の考えと提案」を踏まえた上で、引き続き、遺伝子組換え農作物について、新たに公募によって選んだ市民にパネリストとして考えていただき、市民の提案を取りまとめていただくため、「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」を別紙のとおり開催する。

[参考：本年度の会議の特徴]

- 首都圏及び農業生産地域の全国2か所で開催。
- 専門家と市民パネリストとの間の相互のコミュニケーションを重視。
(昨年の会議のパネリストからは専門家との話をする機会がもっと欲しかった等の要望。また、遺伝子組換え技術をめぐる問題に関しては、世界的にも、様々な立場にある関係者間の対話やコミュニケーションの重要性が多く指摘。)

(問い合わせ先)

農林水産省 農林水産技術会議事務局 技術安全課 大島、朝倉
電話 03-3502-8111 (内5098、5096)

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」 参加市民募集

あなたが主役!! 遺伝子組換え農作物について考えませんか?

遺伝子組換え技術が発達・進歩して、その技術の農作物への応用が始まっています。
しかし、その安全性や効用などをめぐって様々な議論がなされています。

そこで、遺伝子組換え農作物についての市民会議（裏面参照）を開催します。

これは、専門家ではない一般の方々に参加していただき、遺伝子組換え農作物について知り、専門家とのコミュニケーションをして、参加市民により議論し、「市民の提案」をとりまとめていただく会議です。

この会議は、一般の市民の人々が科学技術に参加する機会であり、市民からの要請に応えていくためのものです。

ご関心のある方、ぜひ、ご参加下さい。なお遺伝子組換え農作物についての予備知識は必要ありません。

詳しくは、別冊『「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」あらましと参加市民申込みにあたって』
をご覧のうえ、お申し込み下さい。

◆開催場所（横浜と仙台の2カ所でそれぞれ別々に行います。）

＜横浜＞ 神奈川中小企業センター（横浜市中区尾上町5-80）

＜仙台＞ 【第1回】 かんぼヘルスプラザ仙台（仙台市青葉区上杉3-2-7）

【第2回】 ホテルリッチフィールド仙台（仙台市青葉区国分町2-2-2）

◆開催日時

＜横浜＞（全6回：平成13年）

【第1回】 9.18（火）

【第2回】 9.26（水）

【第3回】 10.3（水）

【第4回】 10.9（火）

【第5回】 11.13（火）

【第6回】 11.21（水）

＜仙台＞（全2回：平成13年）

【第1回】 10.6～8

（土～月〔祝日〕：全員宿泊）

【第2回】 11.23～24

（金〔祝日〕～土：全員宿泊）

※全て日帰りです。（10:00～16:00）

6回全てに参加していただきます。

【第1回】 1日目13:00～3日目15:00

【第2回】 1日目13:00～2日目15:00

※2回全てに参加していただきます。

◆費用

＜横浜＞ 交通費をお支払いいたします。

＜仙台＞ 交通費・宿泊費をお支払いいたします。

◆募集人数など

各地区とも15名程度（20才以上）

＜横浜＞ 会場に日帰りできる地域にお住まいの方

＜仙台＞ 東北6県にお住まいの方

◆申込み

別紙『「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」参加市民申込書』により、
8月27日（月）まで「必着」

◆主催・運営

（社）農林水産先端技術産業振興センター

◆事務局 [問合せ先・申込み先]

（社）農林水産先端技術産業振興センター「市民会議事務局」

〒107-0052

東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル7階

TEL 03-3586-8644 FAX 03-3586-8277

E-mail siminkai@staff.or.jp ホームページ <http://web.staff.or.jp/>

(参考)

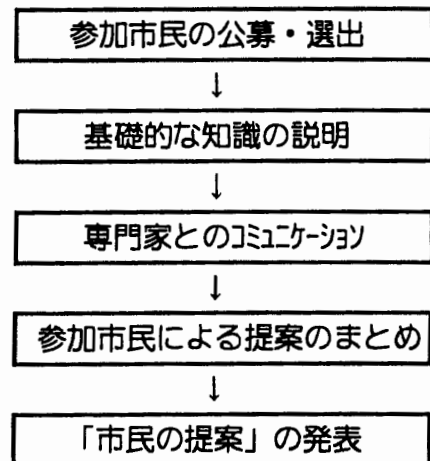
「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」の進め方

1. 現在、遺伝子組換え技術などの科学技術の進歩には、めざましいものがあり、一般の人々の生活にも大きな影響を与えています。

これまで、科学技術の評価などに一般の市民が参加することは殆どありませんでしたが、この「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」（以下、「市民会議」）は、新しい科学技術を応用した遺伝子組換え農作物について、一般の人々が自ら考え、検討するための場です。

2. この市民会議のおおよその進め方

- ・ 遺伝子組換え農作物について、
- ・ 参加申込をされた一般の人々から選出された参加市民（専門家ではない）が、
- ・ 公開の場で、様々な専門家の説明を聞き、専門家との質疑応答・意見交換等によるコミュニケーションを行い、
- ・ 参加市民同士により議論し、
- ・ 参加市民により「市民の提案」をまとめ、
- ・ 「市民の提案」を発表していただく。



この市民会議の最大の特徴は、「市民の提案」をまとめるのが、専門家ではなく、遺伝子組換え農作物に関して専門家ではない一般の市民であるということです。

3. この市民会議の意義

遺伝子組換え農作物について、

- ・ その評価に一般市民が参加すること、
 - ・ 一般市民と専門家とのコミュニケーションを促進すること、
 - ・ 市民会議の公開や「市民の提案」の公表により、広く一般市民の議論を活発化すること
- などがあります。

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」 あらましと参加市民申込みにあたって

企画 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」企画委員会
主催・運営 (社) 農林水産先端技術産業振興センター

I 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」について

1. 会議の目的

遺伝子組換え農作物の実用化にあたっては、研究開発の推進と併せて、科学的知見に基づいた安全性の評価・確認などが不可欠です。また、遺伝子組換え農作物に対する市民の関心に的確に答えていくことが重要となっています。このため、昨年度は、遺伝子組換え農作物に関する市民からの要請・提案に応じていくための初めての試みとして「遺伝子組換え農作物を考えるコンセンサス会議」を実施しました。

今年度は、市民と専門家との双方向のコミュニケーションに重点を置いた「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」（以下「市民会議」）を開催することとしました。

ここでは、専門家でない一般の市民の方々にご参加いただき、遺伝子組換え農作物について知り、議論をしたうえで、遺伝子組換え農作物についての提案をとりまとめ、発表していただきます。

2. 市民会議の進め方

(1) 市民会議は、横浜と、仙台の2カ所で別々に開催します。

それぞれ、遺伝子組換え農作物に関心のある方々から参加市民を選出します。

(2) 市民会議では、遺伝子組換え農作物について専門家から基礎知識の説明を受けたあと、市民と専門家との双方向のコミュニケーション（質疑応答、意見交換等）を行います。その後「市民の提案」をとりまとめるための参加市民による議論を行い、「市民の提案」をとりまとめ、発表していただきます。

3. 参加市民等の役割

(1) 参加市民

横浜、または仙台の全ての会議に必ず出席していただきます。

遺伝子組換え農作物に関する基礎知識の説明を受けたあと、専門家とのコミュニケーションを行い、その後、参加市民による議論を行い「市民の提案」をとりまとめ、発表していただきます。

(2) 企画委員会

市民会議が公正かつ円滑に運営されるように、企画委員会を設置します。

(3) 世話人

市民会議の司会・進行、市民の方々の議論のお手伝い、「市民の提案」のとりまとめへのお手伝いを行います。

(4) 事務局

企画委員会の意見等を参考に、市民会議の実施に関する業務を行います。

II 参加申込みにあたって

1. 市民会議の開催日時・場所・内容

横浜		仙台	
回	日時	回	日時
会場：神奈川中小企業センター (横浜市中区；区内駅から徒歩5分)		会場：第1回 かんぼヘルスプラザが仙台 第2回 ホテルリッチファイナルド仙台 (ともに、仙台市青葉区；仙台駅より1～1.5km)	
1	9月18日(火) 10:00～16:00	1-1	10月6日(土) 13:00～20:00
2	9月26日(水) 10:00～16:00	1-2	10月7日(日) 9:00～20:00 < 宿泊 >
3	10月3日(水) 10:00～16:00	1-3	10月8日(月・祝) 9:00～15:00 < 宿泊 >
4	10月9日(火) 10:00～16:00	2-1	11月23日(金・期) 13:00～20:00 < 宿泊 >
5	11月13日(火) 10:00～16:00	2-2	11月24日(土) 9:00～15:00 < 宿泊 >
6	11月21日(水) 10:00～16:00		

註：☆印は原則として、一般の方に公開します。

- 募集人員など 横浜・仙台とも、それぞれ15名程度。対象として、この市民会議への参加を機会に、専門家の説明や質疑応答、専門家とのコミュニケーション、参加市民による議論などにより、遺伝子組換え農作物について、真剣に考えてみたいとお考えの方々の申込みをお待ちしています。必要はありません。専門家ではない一般の方々にご参加いただき、議論していただくことがこの会議においてはとても重要です。この会議の趣旨から、特定の立場を主張・宣伝する目的での申込みは、ご遠慮ください。
- 費用など 横浜 > 交通費・宿泊費をお支払いします。仙台 > 交通費・宿泊費をお支払いします。
- 申込み資格 遺伝子組換え農作物にご関心をお持ちの20才以上の方で、この市民会議への参加を機会に、専門家の説明や質疑応答、専門家とのコミュニケーション、参加市民による議論などにより、遺伝子組換え農作物について、真剣に考えてみたいとお考えの方々の申込みをお待ちしています。必要はありません。専門家ではない一般の方々にご参加いただき、議論していただくことがこの会議においてはとても重要です。この会議の趣旨から、特定の立場を主張・宣伝する目的での申込みは、ご遠慮ください。
- 申込み方法 別紙の「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議・参加市民申込書」に必要事項をご記入のうえ、8月27日(月)必着で、(社)農林水産先端技術産業振興センター「市民会議事務局」まで、FAXまたは郵便でお送り下さい。
- 参加市民選出方法は、抽選により選出します。
- 参加市民選出結果のお知らせ 選出結果は、9月3日(月)までにお知らせします。参加市民に選出された方には、交通・宿泊(仙台)などの詳細もお知らせします。

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」企画委員会名簿

○ 企画委員長	原田 宏	筑波大学 名誉教授
○ 企画委員	大塚 善樹	広島経済大学 経済学部 助教授
	中村 靖彦	農政ジャーナリストの会長
	日和佐 信子	全国消費若者団体連絡会 事務局長
	松尾 英章	全国農業協同組合連合会 常務理事

横浜、または、仙台のいずれかのすべての会議に必ずご参加していただける方に限りません。

Ⅲ 参加市民の申込みをされる方へ

1. 最終目的は「市民の提案」のとりまとめ！

この市民会議では、参加市民による議論により、遺伝子組換え農作物についての「市民の提案」を会議期間内にとりまとめることを目的としています。したがって、参加市民の皆様には、「市民の提案」のとりまとめに向けて、議論への積極的かつ真摯な参加を期待します。

また、この会議に参加される市民は、おそらくはじめて顔を合わせ、「市民の提案」のとりまとめに向けた共通の課題に取り組むことになります。率直かつ冷静な話し合いを目指していただきたいと思います。

2. 専門家にはどしどしご質問下さい！

この市民会議では、参加市民と専門家とのコミュニケーションに時間をかけるプログラムとなっています。参加市民の皆様は、どのような些細な疑問でも恥ずかしがらず、専門家の方々にどしどし質問をして理解を深め、さらにその理解によって議論を深め「市民の提案」への足がかりにして下さい。

3. 主役はあくまで参加市民！

この市民会議は、専門家との質疑応答やコミュニケーションを重視する会議となっています。また、会議の司会・進行、議論、「市民の提案」のとりまとめについては、世話人や事務局メンバーがお手伝いし、参加市民の皆様を精一杯サポートさせていただきます。参加市民の皆様は、気楽に発言し議論を行って下さい。

この市民会議の主人公はあくまでも、参加市民の皆様です。
市民会議の目的をよくご理解のうえ、参加申込みをされることをお願いします。

〔申込み・問合せ先〕

(社) 農林水産先端技術産業振興センター「市民会議事務局」

〒107-0052

東京都港区赤坂1-9-3 三会堂ビル7階

TEL 03-3586-8644

FAX 03-3586-8277

E-mail siminkai@staff.or.jp

ホームページ <http://web.staff.or.jp/>

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」
 参加市民申込書

1	フリガナ ----- 申込者氏名	性別 男・女	年 月 日生 (才)
2	自宅住所	〒 TEL () FAX () E-mail	
3	勤務先		
4	勤務先住所	〒 TEL () FAX () E-mail	
5	職業等 ※該当するものに○をつけてください。	1. 主婦 2. 会社員 3. 自営業 4. 公務員 5. 学生 6. 専業農家 (主な農作物;) 7. 兼業農家 (主な農作物;) 8. 6.7以外の農林漁業関係 () 9. その他 ()	
6	連絡先	自宅・勤務先・その他 ()	
7	開催地	横浜 仙台 ※参加を希望する地域に○をつけてください。	
8	あなたが、遺伝子組換え農作物等について聞きたい話はどのようなものですか？		
9	申込み動機・遺伝子組換え農作物についてのお考え等があれば、ご自由に記入してください。(別紙に記入しても結構です。)		

〔申込み先・問合せ先〕

(社) 農林水産先端技術産業振興センター「市民会議事務局」 あて
 〒107-0052
 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル7階
 TEL 03-3586-8644 FAX 03-3586-8277
 E-mail siminkai@staff.or.jp ホームページ <http://web.staff.or.jp>
 平成13年8月27日(月) 必着で、ファックスまたは郵便にてお申込みください。

10月26日バージョン改訂版

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」
＜横浜＞
マニュアル

開催日 : 第1回 9月18日(火)
第2回 9月26日(水)
第3回 10月 3日(水)
第4回 10月 9日(火)
第5回 11月13日(火)
第6回 11月21日(水)

開催時間 : 各回とも、10:00-16:00

場 所 : 神奈川中小企業センター (横浜市中区尾上町5-80)

企画 :

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」企画委員会

主催・運営 :

(社) 農林水産先端技術産業振興センター

お願い

1. 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」の第1回会議が始まる前に、このマニュアルに必ず目を通してくださるようお願いいたします。
2. お送りした参考資料のうち、「遺伝子組換え農作物を知るために」は、可能な範囲で、事前にお読みくださるようお願いいたします。
3. このマニュアルは、全期間にわたって使いますので、毎回ご持参くださるようお願いいたします。

目次

1. 市民会議にあたって参加市民の皆さんにお願いしたいこと	1
2. 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」の仕組み（図）	5
3. 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」の進め方（図）	6
4. 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」全6回のスケジュール （予定）	7
5. 参加者名簿（第1回会議の当日配布）	9
(1)参加市民	
(2)世話人	
(3)専門家	
(4)企画委員	
(5)事務局	
6. 会場案内	10
7. 旅費と食事について	11
8. 市民会議事務局連絡先	12
（参考）	13
I. ちらし「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」参加市民募集	
II. 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」あらましと参加市民申込みにあたって	

1. 会議にあたって参加市民の皆さんにお願いしたいこと 〈横浜〉

今回ご参加いただく参加市民の皆さんにとって、このような会議は初めての経験だと思います。そこで、この会議を円滑に進めるために、この会議をどのような考えで、どのように進めていただきたいかをご説明します。

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」は、以下「市民会議」と略称します。

参加市民が主人公

この「市民会議」における主人公は、参加市民の皆さんです。参加市民の皆さんには、まず、専門家から基礎知識の説明を受けていただき、専門家との双方向のコミュニケーション（質疑応答、意見交換等）を行っていただきます。そして、このコミュニケーションの後、参加市民の皆さんで議論をしていただき、参加市民の皆さんで「市民の提案」をまとめていただきます。

専門家は情報提供者であり、会議の司会・進行を行う世話人や事務局は皆さんの役割をサポートする係りです。

参加市民が主人公であるという原則をくれぐれも忘れないでください。

会議の大まかな手続きと構成

スケジュール

まず、参加市民の皆さんに、9月18日、9月26日、10月3日の3日間を使って専門家から基礎知識の説明を受けていただいた後、専門家との双方向のコミュニケーション（質疑応答、意見交換等）を行っていただきます。この説明及びコミュニケーションには9名の専門家があたります。

次に、10月9日の1日を使って、参加市民の皆さんで議論を行い、「市民の提案」のとりまとめ（中間）を行っていただきます。また、さらに追加して聞きたい内容をまとめていただきます。

そして、11月13日に参加市民と専門家の方々と、再度、質疑応答・意見交換等によるコミュニケーションを行っていただきます。

最終日11月21日には、再度、参加市民の皆さんだけで、「市民の提案」のとりまとめ（最終）を行い、発表していただきます。

「市民会議」参加者と一般公開

今回、「市民会議」に参加するのは、参加市民の皆さんと世話人、専門家、そして事務局等です。ただ、この「市民会議」の様子は、参加市民による議論と「市民の提案」のとりまとめ時（第4回及び第6回）を除き、全て、一般傍聴者が別室で傍聴しますが、ご了承ください。

会議の記録のために

今回の「市民会議」に関しては、今後の参考のために、全会合を録音する予定でありますが、外部に公表することはありません。

会議は、率直かつ冷静に

参加市民にはさまざまな人がいる

今回の参加市民の方々は、この会議で初めて顔を合わせる方が大部分だと思っています。男性、女性、そして年齢も様々です。このような形で集まって、共通の課題について議論するご経験は、恐らくほとんどないと思います。

皆さんは、「遺伝子組換え農作物」という課題に関する素人として「市民会議」に参加していただくわけですが、それぞれのお仕事や経験を通じて別の問題については専門家ということもあるでしょう。しかし、この「市民会議」では、この課題に関する素人という共通点で結ばれています。これを踏まえて、年齢や男女、職種、経験の差を越えた形で、率直で冷静な話し合いを目指していただきたいと思っています。

冷静に、率直に、友好的に

短期間とはいえ、互いにかなり率直な意見のやりとりをしていただくこととなります。申すまでもないことですが、特定の個人に対する非難や中傷などは慎んでいただくようお願いいたします。気楽に疑問や意見を発言でき、誤解や間違いなどを気安く指摘できるよう、皆さんのご協力をお願いいたします。

専門家との質疑応答について

専門家には、どしどし質問してください

この「市民会議」では、参加市民と専門家とのコミュニケーション（質疑応答、意見交換等）に時間をかけるプログラムとなっています。参加市民の皆さんは、どのような些細な疑問でも恥ずかしがらず、専門家の方々にどしどし質問をして理解を深め、さらにその理解によって議論を深め、「市民の提案」への足がかりにしてください。

講演会ではない

このことに関して、強調しておきたいことの一つは、専門家の説明などは講演会や学校での講義ではないということです。これは、参加市民が考えるべきことを決め、「市民の提案」をとりまとめるための情報提供なのだということを忘れないでください。専門家の方々には、可能な限りわかりやすい言葉づかいで、説明し、質問に答えていただくようお願いいたします。それでもわかりにくい説明になることは十分考えられます。

質問が大切

わからないこと、理解しにくいことがあれば、質問することを恐れなくてください。「こんな質問をすると笑われるのでは」とか「無知だと馬鹿にされるのでは」という心配はいりません。参加市民は素人であることがポイントです。素人である市民が日常生活を通して培ってきた大人の感覚によって、今回の課題をどう理解し、評価するかが重要なのです。

質問は専門家にも役立つ

専門家は専門家同士で話をする機会が多いので、どうしても説明が難しくなりがちなもの。専門家の方々もどのように説明をすれば素人に理解してもらえるかが、実はよくわかっていないのです。参加市民の皆さんが質問することによって、専門家は説明の仕方を改善することができ、参加市民全体の理解がより深く進むとお考えください。

「市民の提案」のとりまとめについて

10月9日は、原則として参加市民の皆さんだけで行う会合です。ここで、これまでの専門家による説明と質疑応答・意見交換等を踏まえて、参加市民による議論を行い、「市民の提案」のとりまとめ（中間）を行っていただきます。

11月13日には、参加市民と専門家の方々で、質疑応答・意見交換等による追加のコミュニケーションを行った後、最終日11月21日には、参加市民だけで「市民の提案」のとりまとめ（最終）を行っていただきます。

世話人と事務局がサポート

「市民会議」全体の司会・進行は、世話人が行いますが、この会議の主人公は参加市民の皆さんであって、世話人が意見を述べたり、会議を誘導したりすることはありません。会議の進め方つきましても、参加市民の皆さんのお考えをうかがって、決めさせていただきます。事務局は、参加市民の皆さんの要望に応じてお手伝いをいたします。

集約した意見を文章に

「市民の提案」の作成にあたっては、皆さんの意見の集約を目指してください。特に文章の長さを決めませんが、結論だけではなく、何をどのように理解し、どのようにその結論に至ったかも含めてまとめてください。

対立があってもいい

意見の対立が生じ、決着がつかない場合には、参加市民の意見としてその「対立」を表現してください。両論併記でも結構ですし、少数意見もありのままに表現してください。

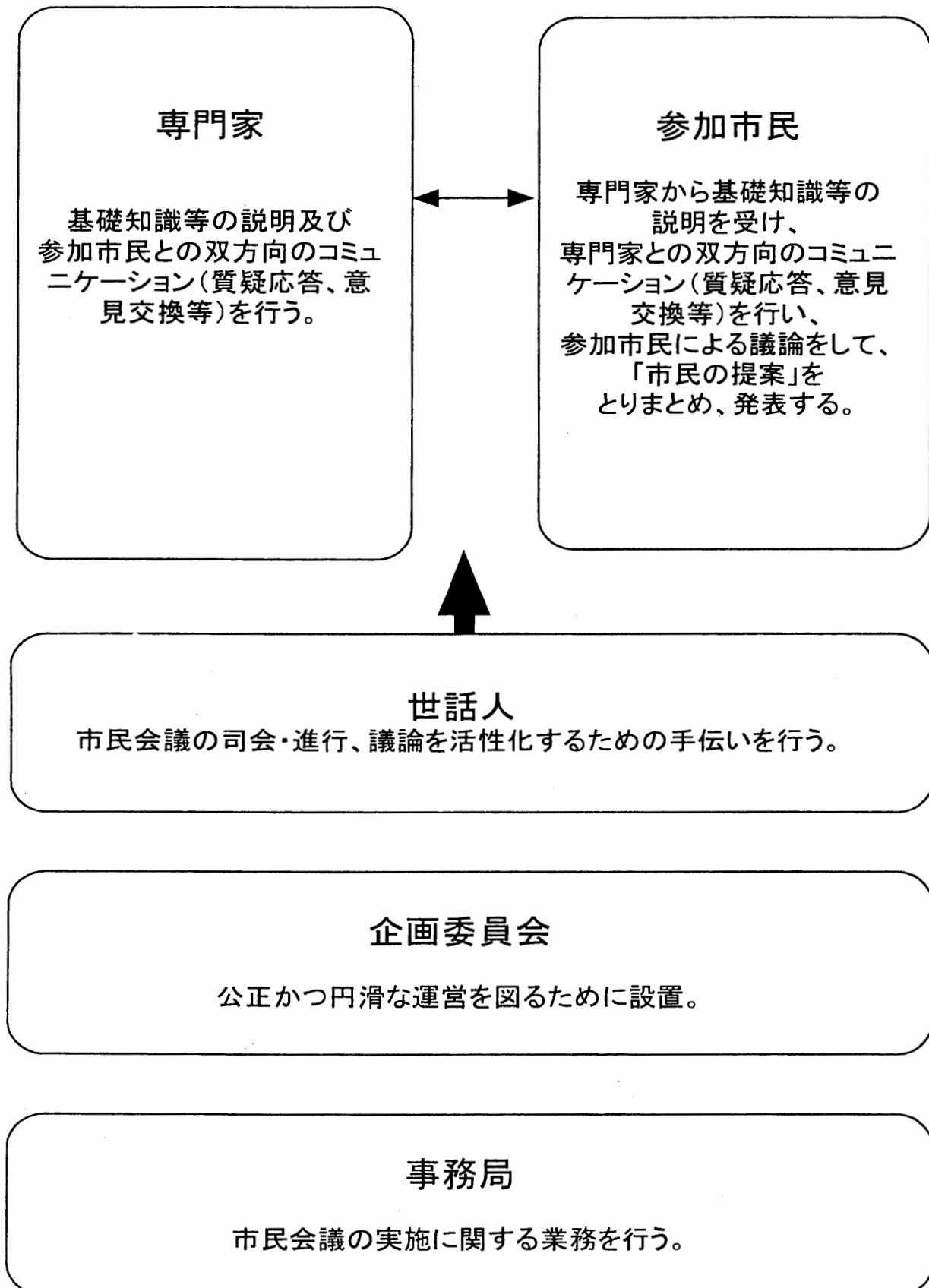
最終日に「市民の提案」を発表

皆さんのまとめた提案は、11月21日の第6回会合の最後に、発表させていただきます。

「市民会議」終了後、「市民の提案」については、マスメディアも含め、広く一般に公表いたします。

なお、「市民の提案」を踏まえて、別途、必要な調査研究を進めるとともに、その調査研究の内容、調査研究結果については、広く公表することとしています。

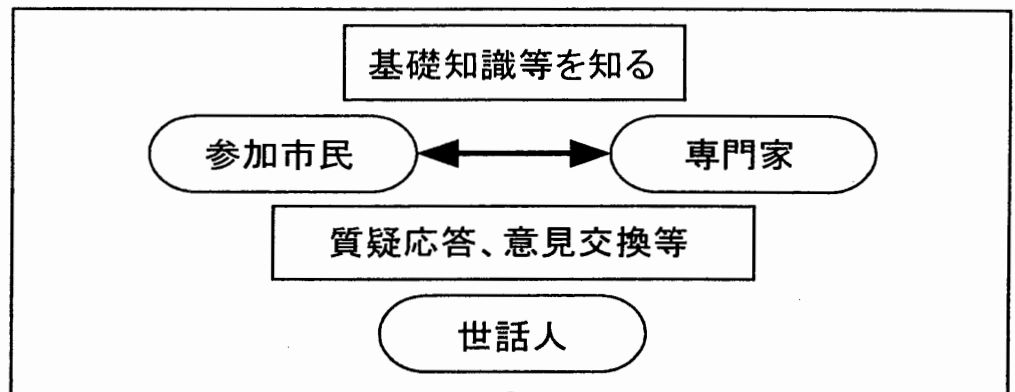
2. 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」の仕組み



3. 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」の進め方 〈横浜〉

第1回～3回

9月18日(火)
9月26日(水)
10月 3日(水)
各回とも10:00
～16:00



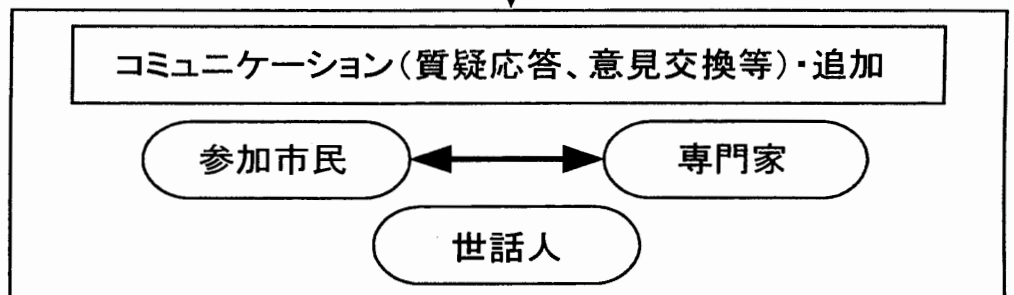
第4回

10月 9日(火)
10:00～16:00



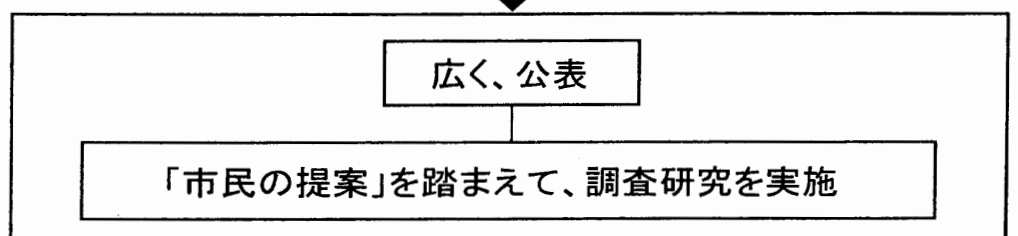
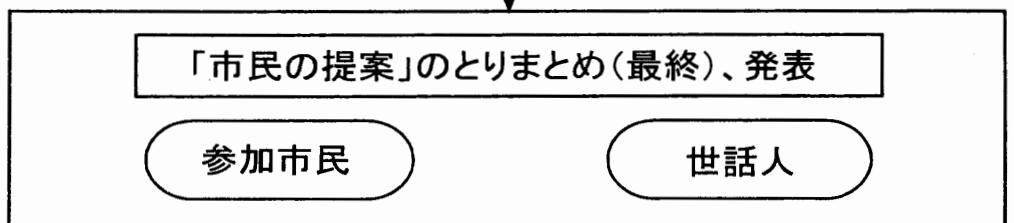
第5回

11月13日(火)
10:00～16:00



第6回

11月21日(水)
10:00～16:00



4. 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」〈横浜〉 第1回～第4回プログラム

1. 平成13年9月18日(火) 10:00-16:00
第1回会議(神奈川中小企業センター14階 多目的ホール)

No	時刻	内容
1	10:00~10:40	主催者挨拶、趣旨・運営説明、事務的事項連絡 メンバー紹介、世話人コメント
2	10:40~12:00	「共通基礎知識」 [太田 隆久さん]
3	13:00~14:00	「農作物の品種改良と遺伝子組換え技術」 [藤巻 宏さん]
4	14:10~15:00	総合コミュニケーション [太田さん、藤巻さん]
5	15:00~16:00	フリー懇談

2. 平成13年9月26日(水) 10:00-16:00
第2回会議(神奈川中小企業センター14階 多目的ホール)

No	時刻	内容
1	10:00~10:10	運営説明
〈遺伝子組換え農作物の環境安全性〉		
2	10:10~11:30	基礎知識と専門家の考え(その1) [田部井 豊さん]
	11:30~12:00	専門家の考え(その2) [小若 順一さん]
〈遺伝子組換え食品の安全性〉		
4	13:00~13:50	基礎知識と専門家の考え(その1) [三瀬 勝利さん]
	14:20~14:50	専門家の考え(その2) [小若 さん]
〈安全性全般〉		
6	15:10~16:00	総合コミュニケーション [田部井さん、小若さん、三瀬さん]

3. 平成13年10月3日(水) 10:00-16:00
第3回会議(神奈川中小企業センター14階 多目的ホール)

No	時刻	内容	
1	10:00~10:10	運営説明	
<遺伝子組換え農作物の社会科学的側面>			
2	10:10~10:50	専門家の考え(その1)	[大塚 善樹さん]
	10:50~11:30	専門家の考え(その2)	[坂本 智美さん]
3	11:30~12:30	総合コミュニケーション	[大塚さん、坂本さん]
<総論：遺伝子組換え農作物>			
4	13:30~14:10	「消費者からみて」	[日和佐 信子さん]
	14:10~14:50	「ジャーナリストからみて」	[中村 靖彦さん]
5	15:00~16:00	総合コミュニケーション	[日和佐さん、中村さん]

4. 平成13年10月9日(火)
第4回会議(神奈川中小企業センター14階 多目的ホール)

No	時刻	内容	
1	10:00~10:10	運営説明	
2	10:10~ ~16:00	参加市民による議論と「市民の提案」のとりまとめ(中間) [付：参加市民と専門家とのコミュニケーション(追加)内容まとめ]	

◎市民会議<横浜>の専門家名簿

会議日	専門家	所属等
第1回(9/18)	・太田 隆久さん ・藤巻 宏 さん	東京大学 名誉教授 東京農業大学 教授
第2回(9/26)	・田部井 豊さん ・小若 順一さん ・三瀬 勝利さん	独立行政法人農業生物資源研究所 研究チーム長 日本子孫基金 事務局長 前国立医薬品食品衛生研究所 副所長
第3回(10/3)	・大塚 善樹さん ・坂本 智美さん ・日和佐信子さん ・中村 靖彦さん	広島経済大学 助教授 日本モンサント株式会社 バイオ作物情報室長 全国消費者団体連絡会 事務局長 農政ジャーナリストの会 会長

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」 <横浜> 第5回～6回^{予定}の申込み (予定)

会場：神奈川中小企業センター 14階多目的ホール

第5回 (11月13日[火])

No	時刻	内容
1	10:00～10:10	運営説明
2	10:10～10:50	専門家の考え(1) [鎌田 博さん]
3	10:50～11:30	専門家の考え(2) [水原 博子さん]
4	11:30～12:00	総合コミュニケーション [鎌田さん、水原さん]
5	12:00～13:00	<昼食・休憩>
6	13:00～13:30	表示・流通などについて [川村 和彦さん]
7	13:30～14:00	国際状況などについて [大島 潔さん]
8	14:00～15:00	総合コミュニケーション [川村さん、大島さん、鎌田さん、水原さん]
9	15:00～15:10	<休憩>
10	15:10～16:00	「市民の提案」とりまとめに向けて

- ・鎌田 博さん 筑波大学 生物科学系教授・遺伝子実験センター長
- ・水原 博子さん 日本消費者連盟 事務局長
- ・川村 和彦さん (独)農林水産消費技術センター 技術指導部長
- ・大島 潔さん 農林水産省農林水産技術会議事務局技術安全課 課長補佐

第6回 (11月21日[水])

No	時刻	内容
1	10:00～10:10	運営説明
2	10:10～ ～16:00	参加市民による議論と「市民の提案」のとりまとめ(最終) 参加市民による「市民の提案」の発表
3	16:00	閉会

5. 参加者名簿 (第2回会議の当日配布)

6. 会場案内

◆神奈川中小企業センター 14階多目的ホール（第1回～6回 会場）

[所在地] 〒231-0015 神奈川県横浜市中区尾上町5-80

[電話] 045-633-5000

[FAX] 045-633-5018

[交通] 地下鉄・関内駅 7番出口より徒歩2分

JR・関内駅 北口より徒歩3分

JR/東急東横線・桜木町駅より徒歩5分

[会議日程] 第1回 9月18日(火) 10:00～16:00

第2回 9月26日(水) 10:00～16:00

第3回 10月 3日(水) 10:00～16:00

第4回 10月 9日(火) 10:00～16:00

第5回 11月13日(火) 10:00～16:00

第6回 11月21日(水) 10:00～16:00

☆会議開始時間の10分前には、会場に集合頂きますようお願いいたします。

[神奈川中小企業センター案内地図] (詳しくは同封の地図をご参照下さい。)

アール屋根の近代的な建物が目印です



7. 旅費と食事について〈横浜〉

(1) 旅費について

会議に出席するにあたり、これに要する費用（交通費等）については、（社）農林水産先端技術産業振興センターの規定により、お支払い致します。

なお、具体的なお支払い金額については、別途お知らせ致しますので、不都合等のある場合は、後日、個別にご相談の上、決定致します。

1) 旅費支払い規定

①交通費：自宅最寄り駅から会議会場最寄り駅までの往復交通費をお支払い致します。

②日 当：会議出席日1日につき、2,200円をお支払い致します。

2) 旅費支払い方法

各会議開催毎に、当日会場にて現金でお支払い致します。領収書に受領印を頂くため、必ずご印鑑をご持参下さい。

(2) 食事について

会議開催日程中の食事（第1回～6回の昼食）については、事務局にて用意致します。

8. 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」事務局連絡先

(社) 農林水産先端技術産業振興センター「市民会議事務局」

〒 107-0052

東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル7階

電話 03-3586-8644

ファクシミリ 03-3586-8277

E-mail siminkai@staff.or.jp

ホームページ <http://web.staff.or.jp/>

※「市民会議」開催日当日は、上記の事務所は不在となりますので、
下記の携帯電話にご連絡ください。

(STAFF 携帯電話) 090-4070-9474

(参考 |)

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」 参加市民募集

あなたが主役!! 遺伝子組換え農作物について考えませんか?

遺伝子組換え技術が発達・進歩して、その技術の農作物への応用が始まっています。しかし、その安全性や効用などをめぐって様々な議論がなされています。そこで、遺伝子組換え農作物についての市民会議(裏面参照)を開催します。これは、専門家ではない一般の方々に参加していただき、遺伝子組換え農作物について知り、専門家とのコミュニケーションをして、参加市民により議論し、「市民の提案」をとりまとめていただく会議です。この会議は、一般の市民の人々が科学技術に参加する機会であり、市民からの要請に応えていくためのものです。ご関心のある方、ぜひ、ご参加下さい。なお遺伝子組換え農作物についての予備知識は必要ありません。

詳しくは、別冊『「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」あらましと参加市民申込みにあたって』をご覧のうえ、お申し込み下さい。

- ◆開催場所 (横浜と仙台の2カ所でそれぞれ別々に行います。)
- <横浜> 神奈川中小企業センター(横浜市中区尾上町5-80)
 - <仙台> [第1回] かんぼヘルスプラザ仙台(仙台市青葉区上杉3-2-7)
[第2回] ホテルリッチフィールド仙台(仙台市青葉区国分町2-2-2)

- ◆開催日時
- | | |
|------------------|----------------------------------|
| <横浜> (全6回:平成13年) | <仙台> (全2回:平成13年) |
| [第1回] 9.18(火) | [第1回] 10.6~8
(土~月〔祝日〕:全員宿泊) |
| [第2回] 9.26(水) | [第2回] 11.23~24
(金〔祝日〕~土:全員宿泊) |
| [第3回] 10.3(水) | |
| [第4回] 10.9(火) | |
| [第5回] 11.13(火) | |
| [第6回] 11.21(水) | |

※全て日帰りです。(10:00~16:00)
6回全てに参加していただきます。

[第1回] 1日目13:00~3日目15:00
[第2回] 1日目13:00~2日目15:00
※2回全てに参加していただきます。

- ◆費用 <横浜> 交通費をお支払いいたします。
<仙台> 交通費・宿泊費をお支払いいたします。
- ◆募集人数など 各地区とも15名程度(20才以上)
<横浜> 会場に日帰りできる地域にお住まいの方
<仙台> 東北6県にお住まいの方
- ◆申込み 別紙『「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」参加市民申込書』により、
8月27日(月)まで「必着」
- ◆主催・運営 (社)農林水産先端技術産業振興センター
- ◆事務局【問合せ先・申込み先】
(社)農林水産先端技術産業振興センター「市民会議事務局」
〒107-0052
東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル7階
TEL 03-3586-8644 FAX 03-3586-8277
E-mail siminkai@staff.or.jp ホームページ <http://web.staff.or.jp/>

(参考)

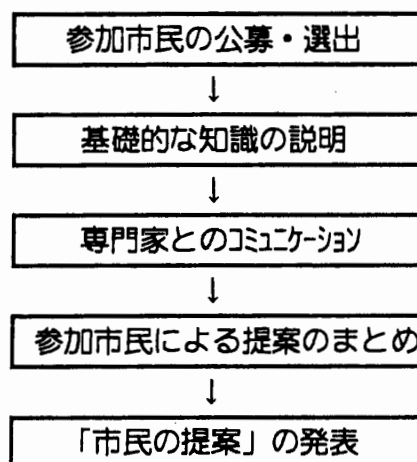
「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」の進め方

1. 現在、遺伝子組換え技術などの科学技術の進歩には、めざましいものがあり、一般の人々の生活にも大きな影響を与えています。

これまで、科学技術の評価などに一般の市民が参加することは殆どありませんでしたが、この「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」（以下、「市民会議」）は、新しい科学技術を応用した遺伝子組換え農作物について、一般の人々が自ら考え、検討するための場です。

2. この市民会議のおおよその進め方

- ・ 遺伝子組換え農作物について、
- ・ 参加申込をされた一般の人々から選出された参加市民（専門家ではない）が、
- ・ 公開の場で、様々な専門家の説明を聞き、専門家との質疑応答・意見交換等によるコミュニケーションを行い、
- ・ 参加市民同士により議論し、
- ・ 参加市民により「市民の提案」をまとめ、
- ・ 「市民の提案」を発表していただく。



この市民会議の最大の特徴は、「市民の提案」をまとめるのが、専門家ではなく、遺伝子組換え農作物に関して専門家ではない一般の市民であるということです。

3. この市民会議の意義

- 遺伝子組換え農作物について、
- ・ その評価に一般市民が参加すること、
 - ・ 一般市民と専門家とのコミュニケーションを促進すること、
 - ・ 市民会議の公開や「市民の提案」の公表により、広く一般市民の議論を活発化すること
- などがあります。

(参考Ⅱ)

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」 あらましと参加市民申込みにあたって

企画 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」企画委員会
主催・運営 (社) 農林水産先端技術産業振興センター

I 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」について

1. 会議の目的

遺伝子組換え農作物の実用化にあたっては、研究開発の推進と併せて、科学的知見に基づいた安全性の評価・確認などが不可欠です。また、遺伝子組換え農作物に対する市民の関心に的確に応えていくことが重要となっています。このため、昨年度は、遺伝子組換え農作物に関する市民からの要請・提案に応えていくための初めての試みとして「遺伝子組換え農作物を考えるコンセンサス会議」を実施しました。

今年度は、市民と専門家との双方向のコミュニケーションに重点を置いた「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」（以下「市民会議」）を開催することとしました。

ここでは、専門家でない一般の市民の方々にご参加いただき、遺伝子組換え農作物について知り、議論をしたうえで、遺伝子組換え農作物についての提案をとりまとめ、発表していただきます。

2. 市民会議の進め方

(1) 市民会議は、横浜と、仙台の2カ所で別々に開催します。

それぞれ、遺伝子組換え農作物に関心のある方々から参加市民を選出します。

(2) 市民会議では、遺伝子組換え農作物について専門家から基礎知識の説明を受けたあと、市民と専門家との双方向のコミュニケーション（質疑応答、意見交換等）を行います。その後「市民の提案」をとりまとめるための参加市民による議論を行い、「市民の提案」をとりまとめ、発表していただきます。

3. 参加市民等の役割

(1) 参加市民

横浜、または仙台の全ての会議に必ず出席していただきます。

遺伝子組換え農作物に関する基礎知識の説明を受けたあと、専門家とのコミュニケーションを行い、その後、参加市民による議論を行い「市民の提案」をとりまとめ、発表していただきます。

(2) 企画委員会

市民会議が公正かつ円滑に運営されるように、企画委員会を設置します。

(3) 世話人

市民会議の司会・進行、市民の方々の議論のお手伝い、「市民の提案」のとりまとめへのお手伝いを行います。

(4) 事務局

企画委員会の意見等を参考に、市民会議の実施に関する業務を行います。

II 参加申込みにあたって

1. 市民会議の開催日時・場所・内容

横 浜		仙 台	
回	日時	回	日時
会場：神奈川中小企業センター (横浜市中区；関内駅から徒歩5分)		会場：第1回 かんぼヘルスプラザ仙台 第2回 ホテルリッチファイナル仙台 (ともに、仙台市青葉区；仙台駅より1～1.5km)	
1	9月18日(火) 10:00～16:00	1-1	10月6日(土) 13:00～20:00
2	9月26日(水) 10:00～16:00	1-2	10月7日(日) 9:00～20:00 ＜ 宿泊 ＞
3	10月3日(水) 10:00～16:00	1-3	10月8日(月・祝) 9:00～15:00 ＜ 宿泊 ＞
4	10月9日(火) 10:00～16:00	2-1	11月23日(金・期) 13:00～20:00 ＜ 宿泊 ＞
5	11月13日(火) 10:00～16:00	2-2	11月24日(土) 9:00～15:00
6	11月21日(水) 10:00～16:00		

☆は、その内容について、基礎知識の説明・質疑応答、参加市民と専門家とのコミュニケーションを行います。

- ・ 趣旨・運営説明
- ・ メンバー紹介など
- ・ 基礎知識の説明
- ☆ 農産物の品種改良と遺伝子組換え技術の応用
- ☆ 遺伝子組換え農作物の環境影響
- ☆ 遺伝子組換え食品の安全性
- ☆ 遺伝子組換え農作物の社会的側面

- ・ 参加市民による議論と「市民の提案」のとりまとめ(中間)

- ☆ 参加市民と専門家とのコミュニケーション(追加)

- ・ 参加市民による議論と「市民の提案」のとりまとめ(最終)
- ・ 「市民の提案」の発表

註：☆印は原則として、一般の方に公開します。

2. 募集人員など

横浜・仙台など
 会場に日帰りできる方をお招きします。
 家庭の女性の方々の参加を歓迎します。
 東北6県にお住まいの方を対象とします。
 農業者の方々の参加を歓迎します。

3. 費用など

＜横浜＞ 交通費をお支払いします。
 ＜仙台＞ 交通費・宿泊費をお支払いたします。

4. 申込み資格

遺伝子組換え農作物にご関心をお持ちの20才以上の方で、この市民会議への参加を機会に、専門家や質疑応答、専門家とのコミュニケーション、参加市民による議論などにより、遺伝子組換え農作物について、真剣に考えてみたいとお考えの方々の申込みをお待ちしています。
 遺伝子組換え農作物に関する知識を持っていただくことがこの会議においては重要なことです。
 この会議の趣旨から、特定の立場を主張・宣伝する目的で申込みすることはないものとさせていただきます。
 なお、この会議にご参加いただく方には、ご遠慮ください。

5. 申込み方法

別紙の「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議・参加市民申込書」に必要事項をご記入の上、8月27日(月)必着で、(社)農林水産先端技術産業振興センター「市民会議事務局」まで、FAXまたは郵便でお送り下さい。

6. 参加市民選出方法

申込者多数の場合は、抽選により選出します。

7. 参加市民選出結果のお知らせ

選出結果は、9月3日(月)までにお知らせいたします。
 参加市民に選出された方には、交通・宿泊(仙台)などの詳細もお知らせいたします。

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」企画委員会名簿

- 企画委員長 原田 宏
- 企画委員 大塚 善樹
- 中村 晴彦
- 日和佐 信子
- 松尾 英章
- 筑波大学 名誉教授 宏
- 広島経済大学 経済学部 助教授 善樹
- 農政ジャーナリストの会 会長 晴彦
- 全国消費者団体連絡会 事務局長 信子
- 全国農業協同組合連合会 常務理事 英章

横浜、または、仙台のいずれかのすべての会議に必ずご参加していただける方に限りです。

Ⅲ 参加市民の申込みをされる方へ

1. 最終目的は「市民の提案」のとりまとめ！

この市民会議では、参加市民による議論により、遺伝子組換え農作物についての「市民の提案」を会議期間内にとりまとめることを目的としています。したがって、参加市民の皆様には、「市民の提案」のとりまとめに向けて、議論への積極的かつ真摯な参加を期待します。

また、この会議に参加される市民は、おそらくはじめて顔を合わせ、「市民の提案」のとりまとめに向けた共通の課題に取り組むこととなります。率直かつ冷静な話し合いを目指していただきたいと思います。

2. 専門家にはどしどしご質問下さい！

この市民会議では、参加市民と専門家とのコミュニケーションに時間をかけるプログラムとなっています。参加市民の皆様は、どのような些細な疑問でも恥ずかしくらず、専門家の方々にどしどし質問をして理解を深め、さらにその理解によって議論を深め「市民の提案」への足がかりにしてください。

3. 主役はあくまで参加市民！

この市民会議は、専門家との質疑応答やコミュニケーションを重視する会議となっています。また、会議の司会・進行、議論、「市民の提案」のとりまとめについては、世話人や事務局メンバーがお手伝いし、参加市民の皆様を精一杯サポートさせていただきます。参加市民の皆様は、気楽に発言し議論を行って下さい。

この市民会議の主人公はあくまでも、参加市民の皆様です。

市民会議の目的をよくご理解のうえ、参加申込みをされることをお願いします。

〔申込み・問合せ先〕

(社) 農林水産先端技術産業振興センター「市民会議事務局」

〒107-0052

東京都港区赤坂1-9-3 三会堂ビル7階

TEL 03-3586-8644

FAX 03-3586-8277

E-mail siminkai@staff.or.jp

ホームページ <http://web.staff.or.jp/>

10月26日版の改訂版

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」
＜仙台＞
マニュアル

開催日：第1回10月 6日（土）・7日（日）・8日（月祝日）
第2回11月23日（金祝日）・24日（土）

場 所：第1回かんぼヘルスプラザ仙台（仙台市青葉区上杉3-2-7）
第2回ホテルリッチフィールド仙台（仙台市青葉区国分町2-2-2）

企画：

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」企画委員会

主催・運営：

（社）農林水産先端技術産業振興センター

お願い

1. 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」の第1回会議が始まる前に、このマニュアルに必ず目を通してくださるようお願いいたします。
2. お送りした参考資料のうち、「遺伝子組換え農作物を知るために」は、可能な範囲で、事前にお読みくださるようお願いいたします。
3. このマニュアルは、全期間にわたって使いますので、毎回ご持参くださるようお願いいたします。

目 次

1. 市民会議にあたって参加市民の皆さんにお願いしたいこと	1
2. 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」の仕組み（図）	5
3. 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」の進め方（図）	6
4. 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」全2回のスケジュール （予定）	7
5. 参加者名簿（第1回会議の当日配布）	9
(1)参加市民	
(2)世話人	
(3)専門家	
(4)企画委員	
(5)事務局	
6. 会場案内	10
7. 宿泊・旅費・食事について	12
8. 市民会議事務局連絡先	13
（参考）	14
I. ちらし「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」参加市民募集	
II. 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」あらましと参加市民申込みにあたって	

1. 会議にあたって参加市民の皆さんにお願いしたいこと ＜仙台＞

今回ご参加いただく参加市民の皆さんにとって、このような会議は初めてのご経験だと思います。そこで、この会議を円滑に進めるために、この会議をどのような考えで、どのように進めていただきたいかをご説明します。

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」は、以下「市民会議」と略称します。

参加市民が主人公

この「市民会議」における主人公は、参加市民の皆さんです。参加市民の皆さんには、まず、専門家から基礎知識の説明を受けていただき、専門家との双方向のコミュニケーション（質疑応答、意見交換等）を行っていただきます。そして、このコミュニケーションの後、参加市民の皆さんで議論をしていただき、参加市民の皆さんで「市民の提案」をまとめていただきます。

専門家は情報提供者であり、会議の司会・進行を行う世話人や事務局は皆さんの役割をサポートする係りです。

参加市民が主人公であるという原則をくれぐれも忘れないでください。

会議の大まかな手続きと構成

スケジュール

まず、参加市民の皆さんに、第1回会議の10月6日、10月7日の2日間を使って専門家から基礎知識の説明を受けていただいた後、専門家との双方向のコミュニケーション（質疑応答、意見交換等）を行っていただきます。この説明及びコミュニケーションには9名の専門家があたります。

次に、10月8日の1日を使って、参加市民の皆さんで議論を行い、「市民の提案」のとりまとめ（中間）を行っていただきます。また、さらに追加して聞きたい内容をまとめていただきます。

そして、第2回会議の11月23日に参加市民と専門家の方々に、再度、質疑応答・意見交換等によるコミュニケーションを行っていただきます。

最終日11月24日には、再度、参加市民の皆さんだけで、「市民の提案」のとりまとめ（最終）を行い、発表していただきます。

「市民会議」参加者と一般公開

今回、「市民会議」に参加するのは、参加市民の皆さんと世話人、専門家、そして事務局等です。ただ、この「市民会議」の様子は、参加市民による議論と「市民の提案」のとりまとめ時（第1回3日目及び第2回2日目）を除き、全て、一般傍聴者が別室で傍聴しますが、ご了承ください。

会議の記録のために

今回の「市民会議」に関しては、今後の参考のために、全会合を録音する予定ですが、外部に公表することはありません。

会議は、率直かつ冷静に

参加市民にはさまざまな人がいる

今回の参加市民の方々は、この会議で初めて顔を合わせる方が大部分だと思います。男性、女性、そして年齢も様々です。このような形で集まって、共通の課題について議論するご経験は、恐らくほとんどないと思います。

皆さんは、「遺伝子組換え農作物」という課題に関しての素人として「市民会議」に参加していただくわけですが、それぞれのお仕事や経験を通じて別の問題については専門家ということもあるでしょう。しかし、この「市民会議」では、この課題に関する素人という共通点で結ばれています。これを踏まえて、年齢や男女、職種、経験の差を越えた形で、率直で冷静な話し合いを目指していただきたいと思います。

冷静に、率直に、友好的に

短期間とはいえ、互いにかなり率直な意見のやりとりをしていただくこととなります。申すまでもないことですが、特定の個人に対する非難や中傷などは慎んでいただくようお願いいたします。気楽に疑問や意見を発言でき、誤解や間違いなどを気安く指摘できるよう、皆さんのご協力をお願いいたします。

専門家との質疑応答について

専門家には、どしどし質問してください

この「市民会議」では、参加市民と専門家とのコミュニケーション（質疑応答、意見交換等）に時間をかけるプログラムとなっています。参加市民の皆さんは、どのような些細な疑問でも恥ずかしがらず、専門家の方々にどしどし質問をして理解を深め、さらにその理解によって議論を深め、「市民の提案」への足がかりにしてください。

講演会ではない

このことに関して、強調しておきたいことの一つは、専門家の説明などは講演会や学校での講義ではないということです。これは、参加市民が考えるべきことを決め、「市民の提案」をとりまとめるための情報提供なのだということを忘れないでください。専門家の方々には、可能な限りわかりやすい言葉づかいで、説明し、質問に答えていただくようお願いいたします。それでもわかりにくい説明になることは十分考えられます。

質問が大切

わからないこと、理解しにくいことがあれば、質問することを恐れなくてください。「こんな質問をすると笑われるのでは」とか「無知だと馬鹿にされるのでは」という心配はいりません。参加市民は素人であることがポイントです。素人である市民が日常生活を通して培ってきた大人の感覚によって、今回の課題をどう理解し、評価するかが重要なのです。

質問は専門家にも役立つ

専門家は専門家同士で話をする機会が多いので、どうしても説明が難しくなりがちなもの。専門家の方々もどのように説明をすれば素人に理解してもらえるかが、実はよくわかっていないのです。参加市民の皆さんが質問することによって、専門家は説明の仕方を改善することができ、参加市民全体の理解がより深く進むとお考えください。

「市民の提案」のとりまとめについて

10月8日は、原則として参加市民の皆さんだけで行う会合です。ここで、これまでの専門家による説明と質疑応答・意見交換等を踏まえて、参加市民による議論を行い、「市民の提案」のとりまとめ（中間）を行っていただきます。

11月23日には、参加市民と専門家の方々で、質疑応答・意見交換等による追加のコミュニケーションを行った後、最終日11月24日には、参加市民だけで「市民の提案」のとりまとめ（最終）を行っていただきます。

世話人と事務局がサポート

「市民会議」全体の司会・進行は、世話人が行いますが、この会議の主人公は参加市民の皆さんであって、世話人が意見を述べたり、会議を誘導したりすることはありません。会議の進め方つきましても、参加市民の皆さんのお考えをうかがって、決めさせていただきます。事務局は、参加市民の皆さんの要望に応じてお手伝いをいたします。

集約した意見を文章に

「市民の提案」の作成にあたっては、皆さんの意見の集約を目指してください。特に文章の長さを決めませんが、結論だけではなく、何をどのように理解し、どのようにその結論に至ったかも含めてまとめてください。

対立があってもいい

意見の対立が生じ、決着がつかない場合には、参加市民の意見としてその「対立」を表現してください。両論併記でも結構ですし、少数意見もありのままに表現してください。

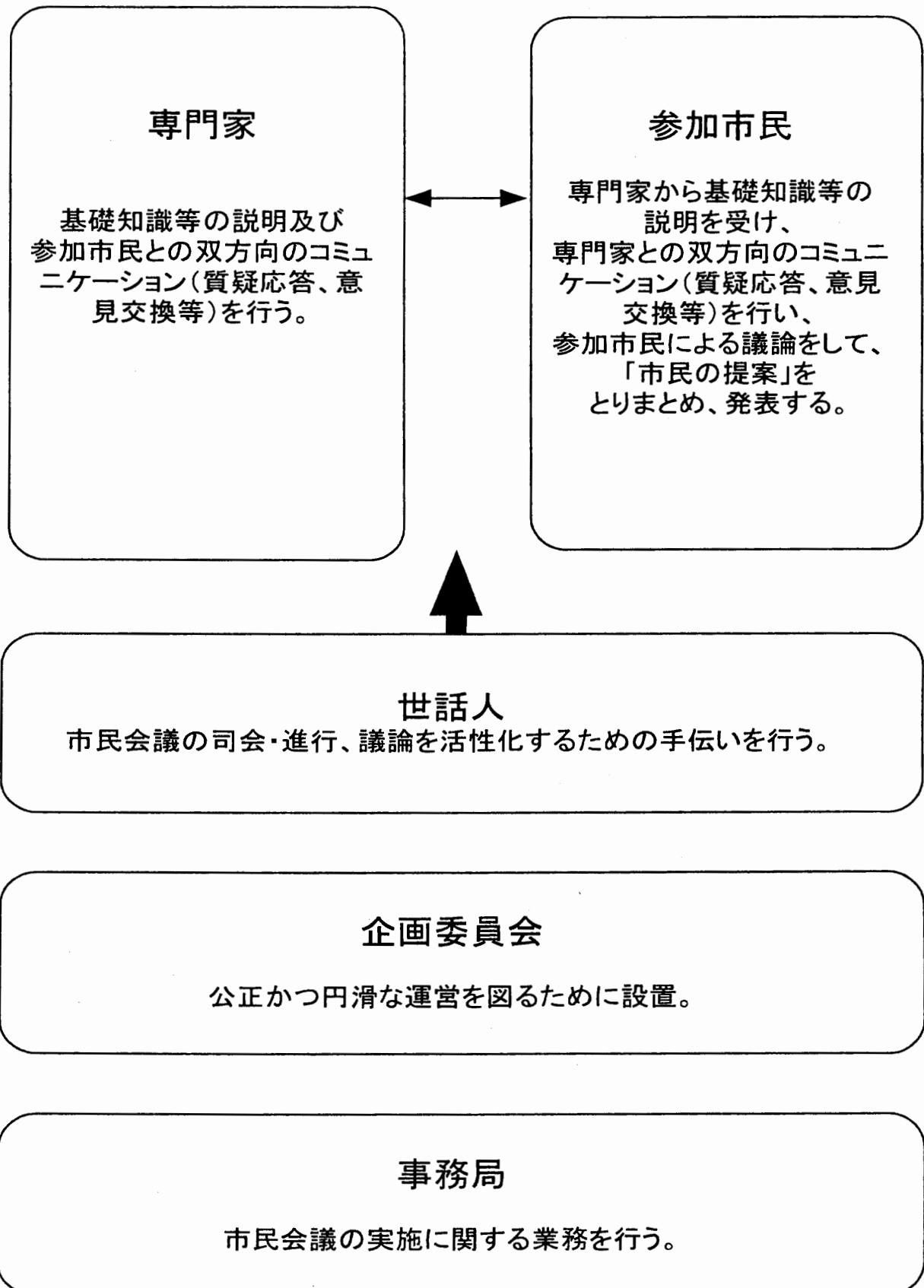
最終日に「市民の提案」を発表

皆さんのまとめた提案は、11月24日の第2回会議2日目の最後に、発表させていただきます。

「市民会議」終了後、「市民の提案」については、マスメディアも含め、広く一般に公表いたします。

なお、「市民の提案」を踏まえて、別途、必要な調査研究を進めるとともに、その調査研究の内容、調査研究結果については、広く公表することとしています。

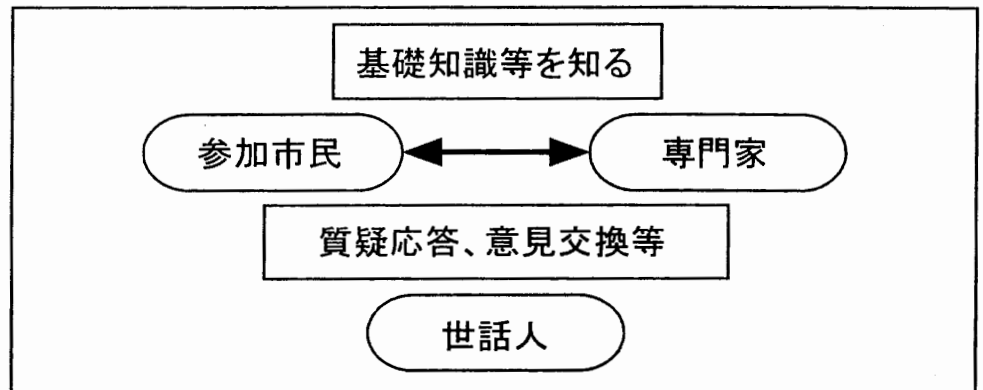
2. 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」の仕組み



3. 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」の進め方 〈仙台〉

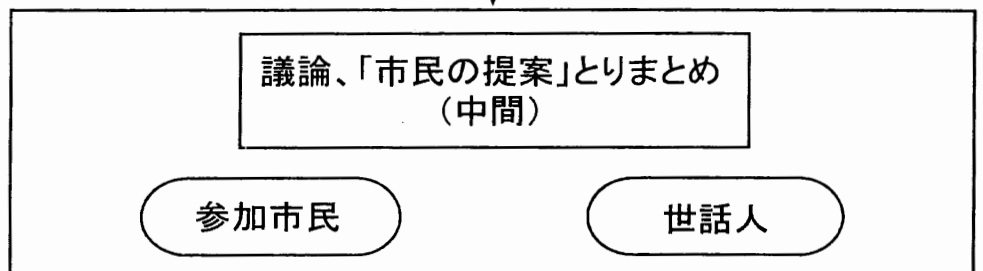
第1回(1～2日目)

10月 6日(土)
13:00～20:00
10月 7日(日)
9:00～19:00



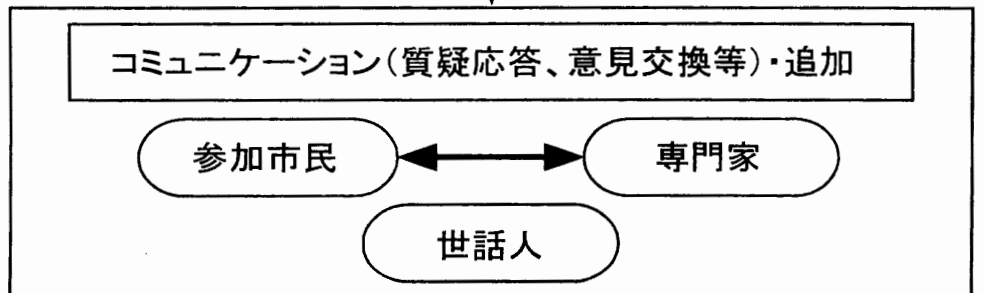
第1回(3日目)

10月 8日(月:祝日)
9:00～15:00



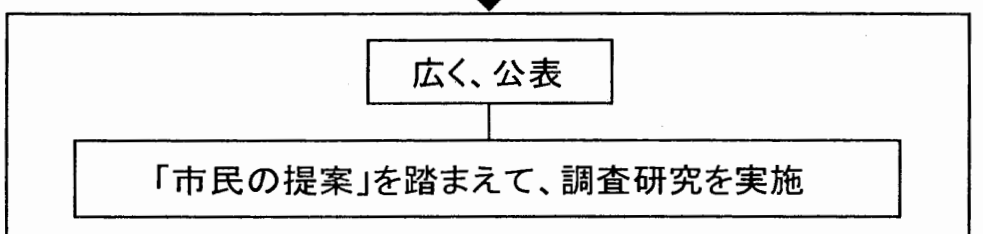
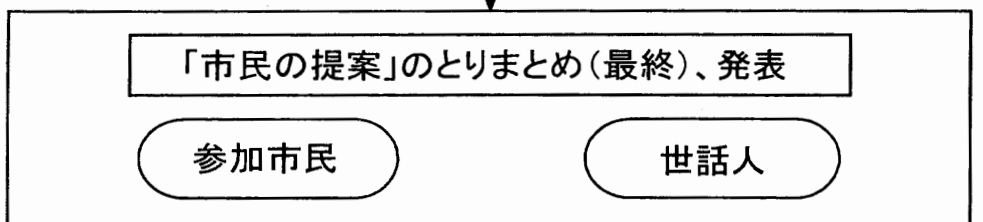
第2回(1日目)

11月23日(金:祝日)
13:00～19:00



第2回(2日目)

11月24日(土)
9:00～15:00



4. 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」 <仙台> 第1回プログラム

1. 平成13年10月6日(土) 13:00~10月8日(月:祝日) 15:00
第1回会議(かんぼヘルスプラザ仙台2階会議室「蔵王」)

1日目(10月6日(土))

No	時刻	内容	
1	13:00~13:40	主催者挨拶、趣旨・運営説明、事務的事項連絡 メンバー紹介、世話人コメント	
2	13:40~15:00	「共通基礎知識」	[太田 隆久さん]
3	15:20~16:20	「農作物の品種改良と遺伝子組換え技術」[藤巻 宏さん]	
4	16:20~17:00	総合コミュニケーション	[太田さん、藤巻さん]
<遺伝子組換え農作物の環境安全性>			
5	17:10~18:00	基礎知識と専門家の考え(その1)	[田部井 豊さん]
	18:00~18:30	専門家の考え(その2)	[小若 順一さん]
6	18:30~19:00	質疑応答	[田部井さん、小若さん]
7	19:00~19:30	フリー懇談	

2日目(10月7日(日))

No	時刻	内容	
1	9:00~ 9:10	運営説明	
<遺伝子組換え食品の安全性>			
2	9:10~10:30	基礎知識と専門家の考え(その1)	[三瀬 勝利さん]
3	10:30~11:00	専門家の考え(その2)	[山口 英昌さん]
	11:00~12:00	質疑応答	[三瀬さん、山口さん]
<遺伝子組換え農作物の社会科学的側面>			
5	13:00~13:40	専門家の考え(その1)	[大塚 善樹さん]
	13:40~14:20	専門家の考え(その2)	[山根精一郎さん]
6	14:20~15:20	総合コミュニケーション	[大塚さん、山根さん]
<総論：遺伝子組換え農作物>			
7	15:40~16:20	「科学アナリストからみて」	[川口 啓明さん]
	16:20~17:00	「ジャーナリストからみて」	[中村 靖彦さん]
8	17:00~18:00	総合コミュニケーション	[川口さん、中村さん]
9	18:00~18:30	参加市民による議論と「市民の提案」まとめにむけて	

3日目(10月8日(月:祝日))

No	時刻	内容
1	9:00~ 9:10	運営説明
2	9:10~15:00	参加市民による議論と「市民の提案」のとりまとめ(中間) [付:参加市民と専門家とのコミュニケーション(追加)内容まとめ]

◎市民会議<仙台>の専門家名簿

専門家	所属等
・太田 隆久さん	東京大学 名誉教授
・藤巻 宏 さん	東京農業大学 教授
・田部井 豊さん	独立行政法人農業生物資源研究所 研究チーム長
・小若 順一さん	日本子孫基金事務局長
・三瀬 勝利さん	前国立医薬品食品衛生研究所 副所長
・山口 英昌さん	大阪市立大学 教授
・大塚 善樹さん	広島経済大学 助教授
・山根 精一郎さん	日本モンサント(株) 副社長
・川口 啓明さん	科学アナリスト
・中村 靖彦さん	農政ジャーナリストの会 会長

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」〈仙台〉第2回 プログラム (予定)

会場：ホテルリッチフィールド仙台 10階フェニックス

1. 1日目 (11月23日[金:祝日])

No	時刻	内容
1	13:00~13:10	運営説明
2	13:10~13:50	専門家の考え(1) [日野 明寛さん]
3	13:50~14:30	専門家の考え(2) [水原 博子さん]
4	14:30~15:10	表示・流通などについて [川村 和彦さん]
5	15:10~15:30	<休憩>
6	15:30~16:30	総合コミュニケーション [日野さん、水原さん、川村さん]
7	16:30~16:40	<休憩>
8	16:40~17:40	参加市民による議論と「市民の提案」のとりまとめ
9	17:40~18:00	<休憩>
10	18:00~19:00	参加市民による議論と「市民の提案」のとりまとめ(続)

- ・日野 明寛さん (独)食品総合研究所 研究室長
- ・水原 博子さん 日本消費者連盟 事務局長
- ・川村 和彦さん (独)農林水産消費技術センター 技術指導部長

2. 2日目 (11月24日[土])

No	時刻	内容
1	9:00~ 9:10	運営説明
2	9:10~ ~15:00	参加市民による議論と「市民の提案」のとりまとめ(最終) 参加市民による「市民の提案」の発表
3	15:00	閉会

5. 参加者名簿 (会議当日配布)

6. 会場案内

詳しくは同封のパフレットをご参照下さい。

◆かんぼヘルスプラザ仙台 2階蔵王（第1回会場）

[所在地] 〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉3-2-7

[電話] 022-711-7211

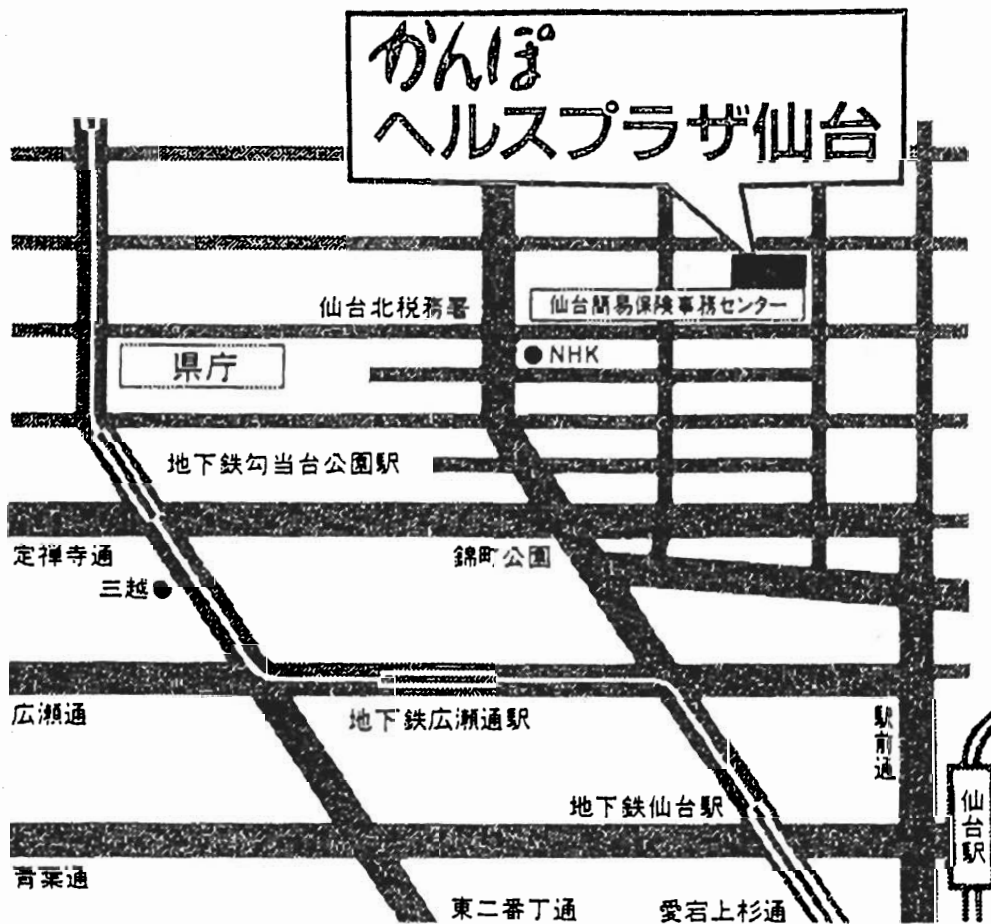
[交通] JR・仙台駅より徒歩20分

地下鉄・勾当台公園駅より徒歩10分

[会議日程] 第1回	10月 6日(土)	13:00~20:00
	10月 7日(日)	9:00~20:00
	10月 8日(月・祝日)	9:00~15:00

☆会議開始の10分前には、会場に集合いただきますようお願いいたします。

[かんぼヘルスプラザ仙台案内地図]



◆ホテルリッチフィールド仙台 10階フェニックス (第2回会場)

[所在地] 〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町2-2-2

[電話] 022-262-7755

[交通] JR・仙台駅より徒歩15分

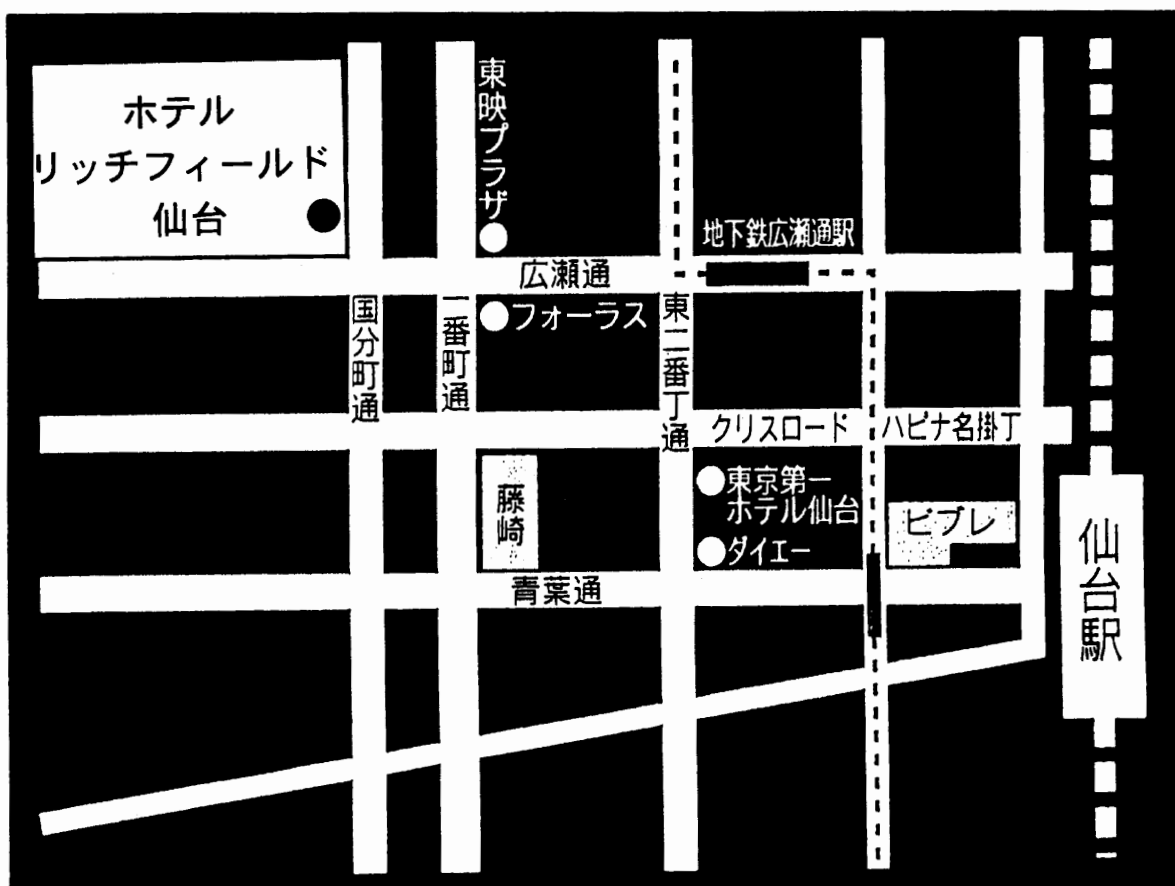
地下鉄・広瀬通駅 西5番出口より徒歩3分

[会議日程] 第1回 11月23日(金:祝日) 13:00~20:00

11月24日(土) 9:00~15:00

☆会議開始の10分前には、会場に集合いただきますようお願いいたします。

[ホテルリッチフィールド仙台案内地図]



7. 宿泊・旅費・食事について<仙台>

(1) 宿泊について

第1回会議（10月6日～8日）、第2回会議（11月23～24日）とも宿泊を伴う会議となっております。第1回会議の2泊（10月6日、7日泊）と第2回会議の1泊（11月23日泊）については、事務局指定の施設（会議開催施設）に全員宿泊して頂きます。宿泊費は事務局が負担致します。

(2) 旅費について

会議に出席するにあたり、これに要する費用（交通費等）については、（社）農林水産先端技術産業振興センターの規定により、お支払い致します。

なお、具体的なお支払い金額については、別途お知らせ致しますので、不都合等のある場合は、後日、個別にご相談の上、決定致します。

1) 旅費支払い規定

①交通費：自宅最寄り駅から会議会場最寄り駅までの往復交通費をお支払い致します。

②日 当：会議出席日1日につき、2,200円をお支払い致します。

2) 旅費支払い方法

各会議開催毎に、当日会場にて現金でお支払い致します。領収書に受領印を頂くため、必ずご印鑑をご持参下さい。

(3) 食事について

会議開催日程中の以下の食事については、事務局にて用意致します。

第1回会議：10月 6日（夕食）、10月 7日（朝・昼・夕食）、
10月 8日（朝・昼食）

第2回会議：11月23日（夕食）、11月24日（朝・昼食）

8. 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」事務局連絡先

(社) 農林水産先端技術産業振興センター「市民会議事務局」

〒107-0052

東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル7階

電話 03-3586-8644

ファクシミリ 03-3586-8277

E-mail siminkai@staff.or.jp

ホームページ <http://web.staff.or.jp/>

※「市民会議」開催日当日は、上記の事務所は不在となりますので、
下記の携帯電話にご連絡ください。

(STAFF 携帯電話) 090-4070-9474

(参考 |)

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」 参加市民募集

あなたが主役!! 遺伝子組換え農作物について考えませんか?

遺伝子組換え技術が発達・進歩して、その技術の農作物への応用が始まっています。しかし、その安全性や効用などをめぐって様々な議論がなされています。そこで、遺伝子組換え農作物についての市民会議(裏面参照)を開催します。これは、専門家ではない一般の方々に参加していただき、遺伝子組換え農作物について知り、専門家とのコミュニケーションをして、参加市民により議論し、「市民の提案」をとりまとめていただく会議です。この会議は、一般の市民の人々が科学技術に参加する機会であり、市民からの要請に応えていくためのものです。ご関心のある方、ぜひ、ご参加下さい。なお遺伝子組換え農作物についての予備知識は必要ありません。

詳しくは、別冊『「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」あらましと参加市民申込みにあたって』をご覧ください。

- ◆開催場所 (横浜と仙台の2カ所でそれぞれ別々に行います。)
 - <横浜> 神奈川中小企業センター(横浜市中区尾上町5-80)
 - <仙台> [第1回] かんぼヘルスプラザ仙台(仙台市青葉区上杉3-2-7)
 - [第2回] ホテルリッチフィールド仙台(仙台市青葉区国分町2-2-2)

- ◆開催日時
 - <横浜> (全6回:平成13年)
 - [第1回] 9.18(火)
 - [第2回] 9.26(水)
 - [第3回] 10.3(水)
 - [第4回] 10.9(火)
 - [第5回] 11.13(火)
 - [第6回] 11.21(水)
 - <仙台> (全2回:平成13年)
 - [第1回] 10.6~8
(土~月〔祝日〕:全員宿泊)
 - [第2回] 11.23~24
(金〔祝日〕~土:全員宿泊)

※全て日帰りです。(10:00~16:00)
6回全てに参加していただきます。

[第1回] 1日目13:00~3日目15:00
[第2回] 1日目13:00~2日目15:00
※2回全てに参加していただきます。

- ◆費用
 - <横浜> 交通費をお支払いいたします。
 - <仙台> 交通費・宿泊費をお支払いいたします。

- ◆募集人数など 各地区とも15名程度(20才以上)
 - <横浜> 会場に日帰りできる地域にお住まいの方
 - <仙台> 東北6県にお住まいの方

- ◆申込み 別紙『「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」参加市民申込書』により、8月27日(月)まで「必着」

- ◆主催・運営 (社)農林水産先端技術産業振興センター

- ◆事務局 [問合せ先・申込み先]
(社)農林水産先端技術産業振興センター「市民会議事務局」
〒107-0052
東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル7階
TEL 03-3586-8644 FAX 03-3586-8277
E-mail siminkai@staff.or.jp ホームページ <http://web.staff.or.jp/>

(参考)

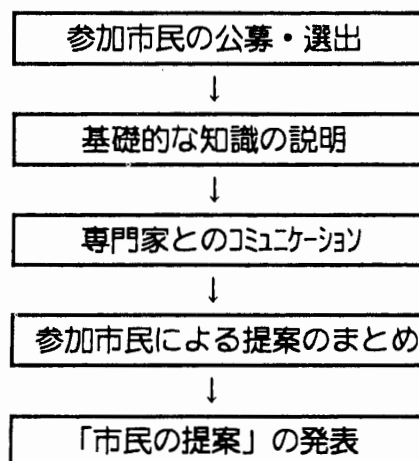
「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」の進め方

1. 現在、遺伝子組換え技術などの科学技術の進歩には、めざましいものがあり、一般の人々の生活にも大きな影響を与えています。

これまで、科学技術の評価などに一般の市民が参加することは殆どありませんでしたが、この「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」(以下、「市民会議」)は、新しい科学技術を応用した遺伝子組換え農作物について、一般の人々が自ら考え、検討するための場です。

2. この市民会議のおおよその進め方

- ・ 遺伝子組換え農作物について、
- ・ 参加申込をされた一般の人々から選出された参加市民(専門家ではない)が、
- ・ 公開の場で、様々な専門家の説明を聞き、専門家との質疑応答・意見交換等によるコミュニケーションを行い、
- ・ 参加市民同士により議論し、
- ・ 参加市民により「市民の提案」をまとめ、
- ・ 「市民の提案」を発表していただく。



この市民会議の最大の特徴は、「市民の提案」をまとめるのが、専門家ではなく、遺伝子組換え農作物に関して専門家ではない一般の市民であるということです。

3. この市民会議の意義

遺伝子組換え農作物について、

- ・ その評価に一般市民が参加すること、
 - ・ 一般市民と専門家とのコミュニケーションを促進すること、
 - ・ 市民会議の公開や「市民の提案」の公表により、広く一般市民の議論を活発化すること
- などがあります。

(参考Ⅱ)

「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」 あらましと参加市民申込みにあたって

企画 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」企画委員会
主催・運営 (社) 農林水産先端技術産業振興センター

I 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」について

1. 会議の目的

遺伝子組換え農作物の実用化にあたっては、研究開発の推進と併せて、科学的知見に基づいた安全性の評価・確認などが不可欠です。また、遺伝子組換え農作物に対する市民の関心に的確に応えていくことが重要となっています。このため、昨年度は、遺伝子組換え農作物に関する市民からの要請・提案に応えていくための初めての試みとして「遺伝子組換え農作物を考えるコンセンサス会議」を実施しました。

今年度は、市民と専門家との双方向のコミュニケーションに重点を置いた「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」（以下「市民会議」）を開催することとしました。

ここでは、専門家でない一般の市民の方々にご参加いただき、遺伝子組換え農作物について知り、議論をしたうえで、遺伝子組換え農作物についての提案をとりまとめ、発表していただきます。

2. 市民会議の進め方

(1) 市民会議は、横浜と、仙台の2カ所で別々に開催します。

それぞれ、遺伝子組換え農作物に関心のある方々から参加市民を選出します。

(2) 市民会議では、遺伝子組換え農作物について専門家から基礎知識の説明を受けたあと、市民と専門家との双方向のコミュニケーション（質疑応答、意見交換等）を行います。その後「市民の提案」をとりまとめるための参加市民による議論を行い、「市民の提案」をとりまとめ、発表していただきます。

3. 参加市民等の役割

(1) 参加市民

横浜、または仙台の全ての会議に必ず出席していただきます。

遺伝子組換え農作物に関する基礎知識の説明を受けたあと、専門家とのコミュニケーションを行い、その後、参加市民による議論を行い「市民の提案」をとりまとめ、発表していただきます。

(2) 企画委員会

市民会議が公正かつ円滑に運営されるように、企画委員会を設置します。

(3) 世話人

市民会議の司会・進行、市民の方々の議論のお手伝い、「市民の提案」のとりまとめへのお手伝いを行います。

(4) 事務局

企画委員会の意見等を参考に、市民会議の実施に関する業務を行います。

「遺伝子組換え農作物を考えるコンセンサス会議」のあらまし

(社)農林水産先端技術産業振興センター[STAFF]は、農林水産省の委託を受け、「遺伝子組換え農作物を考えるコンセンサス会議」を実施した。

“遺伝子組換え農作物を(市民が)考える”という重要な課題をテーマとし、かつ、日本では初めて公的機関が関与して実施された“コンセンサス会議方式”であり、ここでは、そのあらましを紹介する。具体的内容は、p.11からの本文をご覧ください。

1. “コンセンサス会議”とは

コンセンサス会議：専門家ではない一般の市民が特定のテーマについて専門家の説明を受けたい
えで議論し一定の合意を得る方式の会議。

市民参加型のテクノロジー・アセスメントの一つの手法。

世界での実施状況：始まりは、1980年代半ば、デンマーク。

1990年代になり、欧米諸国等で実施されるようになった。

日本での実施状況：「遺伝子治療」(1998)、「インターネット」(1999)をテーマに、科学技術への
市民参加を考える研究者達が研究会を作り、試験的に2回実施。

本年度、科学技術庁が関与し「ヒトゲノムを考えるコンセンサス会議」開始。

2. 「遺伝子組換え農作物を考えるコンセンサス会議」の概要

(1) ねらい：遺伝子組換え農作物の実用化を図るためには、研究開発の推進と併せて、科学的知見に基づく安全性の評価・確認等が不可欠。これに加えて、消費者等の関心への的確な対応が重要。このため、新たな試みとして、一般市民が遺伝子組換え農作物に関する「市民の考え(共通理解)と提案」のとりまとめを行う“コンセンサス会議”を実施。これを踏まえて、別途、必要な調査研究を推進。

(2) 運営

運営委員会 (委員 6名)
公正・円滑な運営を図る

メンバー：社会科学・生物学・市民団体・ジャーナリスト・行政等
役割：テーマ決定、市民パネラー募集/選出、専門家選定、
会議への立ち会い、調査研究に関する意見提出等

ファシリテーター (1名)
市民パネラーへの支援

メンバー：人文学系のファシリテーター経験者
役割：会議の司会・進行、市民パネラーの議論の活発化、
「鍵となる質問」「市民の考えと提案」まとめ支援等

事務局

メンバー：STAFF職員(会議に事務局員として関与した者 12名)

(3) 市民パネラーの募集/選出

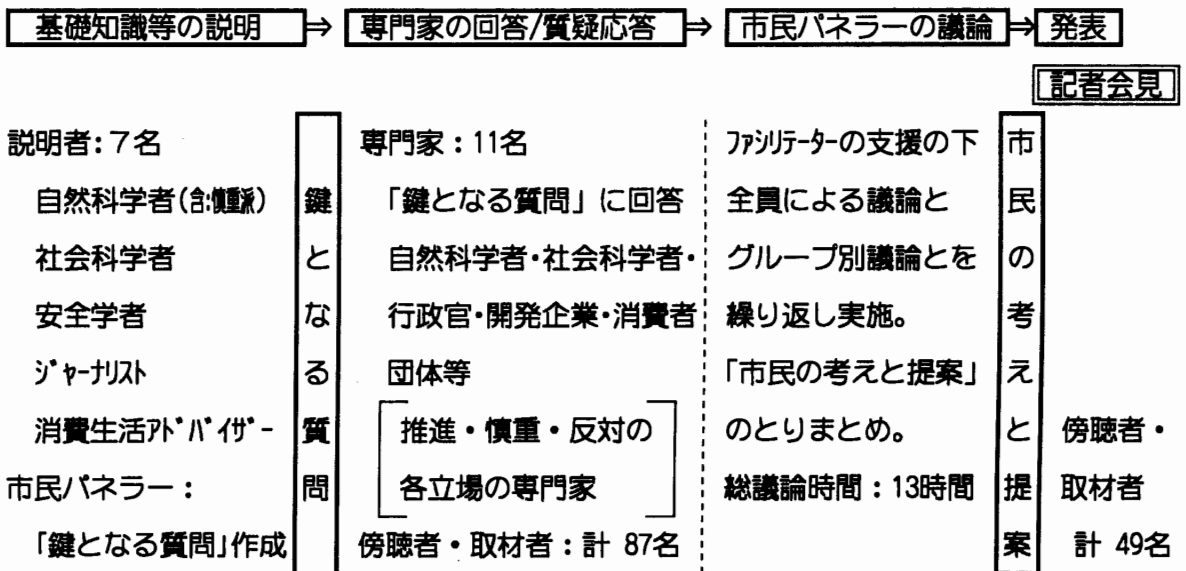
- ① 募集対象：全国の成人（全4回の会議参加必須）。
- ② 募集期間：7/28～8/23の26日間
- ③ 案 内：新聞（プレス公表、案内広告）、ホームページ、募集要綱郵送(約1600通、1万総)等
- ④ 応募総数：479名 --- 性別・年齢層別・地域別の属性分布は、国民の属性構成に概ね近似。
- ⑤ 選 出：市民パネラーの属性が幅広くなるよう、性別、年齢層別、地域別に定員を決めたうえ、無作為抽出(抽選)により、18名を選出。(倍率 26.6倍)

(4) 会議の経過

9/15(東京)、9/23・24(つくば)

10/28(東京)

11/3・4(東京)



← プレスリリース 8回・ホームページ等により、全資料公開 →

新聞見出し：「素人さんのお知恵拝借」、「市民参加の技術提言」、「市民の意見を聞かせて！」、
「素人の目に期待する(論説)」、「国民参画の科学技術へ(論説)」、
「長期追跡調査消費者求める」、「情報公開徹底を提案」等々多数。

(5) 「市民の考えと提案」

- ① 遺伝子組換え技術そのものから、その社会にもたらすメリット、環境や健康への影響、制度、表示問題、日本農業との関わり、国際的問題、消費者への情報提供等、広範な項目について、市民パネラーが理解した専門家の主張の概要、これに対する市民パネラーの意見と提案を記載。意見の中には、市民パネラーの共通意見といえるものの他、反対の立場からの少数意見を付記。

② 内容

- 市民パネラーの意見の例（遺伝子組換え技術に関する部分）：

『現に遺伝子組換え技術が存在し、それに基づく商品が流通しているという現状を認識している。そこから我々の議論はスタートしている。我々は、節度のある技術開発を求めている。従って、この技術に対しては、一定の規制が必要であると考えている。このことは、すなわち、メリットを追求すると同時にリスクに対して、常に警戒を怠らず、検討し続けるということが必要である。』（別に、少数意見あり。）

- 市民パネラーの提案（要約）：

市民の事前の十分なコンセンサスの必要性、遺伝子組換え農作物の環境や健康への影響についての長期調査の実施、適切な表示、適切な情報提供（メリット・デメリットを含めた一方的でない情報を、出来るだけ早く、かつ、情報弱者にも配慮して）等。

- 結び（要約）：

国・企業・研究者と市民の双方向性のある議論の重要性、社会科学的なアプローチの必要性、市民一人一人がきちんと考えることが長い意味で社会の利益につながること、等。

3. その他

- (1) 行政機関への要望書の提出等：

会議終了後、運営委員会は、調査研究等についての意見をSTAFF理事長に提出。STAFF理事長名で、「市民の考えと提案」と運営委員会の意見を付し、今後の政策の推進に当たっての参考として頂くよう、農林水産省および厚生省あて要望書を提出。

- (2) 調査研究：

STAFFは、「市民の考えと提案」を踏まえ、長期的環境影響、交雑性、食品安全性、アレルギー性に係わる調査研究に着手。

また、農林水産省は、平成13年度から遺伝子組換え農作物の長期栽培によるモニタリングを開始予定。

- (3) 今後の課題等：

コンセンサス会議方式は、上記のとおり新たな試みであり、今後、テクノロジー・アセスメント等への市民の参加の一つの方式として、日本にどのように定着させていくのかが課題。

なお、本年2月、今回の“コンセンサス会議”を振り返ってシンポジウムを開催。

今回の市民会議の開催にあたり、ご指導、ご協力いただいた下記の方々に、あらためて御礼を申し上げます。

参加市民

<横浜> 阿部ゆかり、安藤栄子、神山光江、後藤淳子、斉藤哲哉、佐々木忠孝、田村庄一郎、永浜政子、樋口武、舟木清恵、細谷祥子、村上千里、村田晴雄、吉田美智子、渡辺美砂

<仙台> 石木田麻梨子、伊藤基夫、入間田範子、木村慎一、金野千恵子、後藤和子、小林重希、今野武、佐々木陽悦、佐藤千恵、鳥崎和子、中洞正、松村ウメ子、的場文子、本木清博、吉武洋子

世話人

<横浜> 正木英子、森田満樹（補助）

<仙台> 有田芳子

企画委員

原田宏、大塚善樹、中村靖彦、日和佐信子、松尾英章

専門家

太田隆久、藤巻宏、田部井豊、小若順一、三瀬勝利、坂本智美、山口英昌、山根精一郎、川口啓明、鎌田博、水原博子、川村和彦、日野明寛

農林水産省 農林水産技術会議事務局技術安全課

長谷川裕、大島潔、朝倉博文

なお、今回市民会議に係わった STAFF 役職員は下記のとおりである。

STAFF

畑中孝晴、狩谷昭男、野口宣靖、下野章司、千葉紀子、丸山利夫、平野哲也、坂本清、中村英男

遺伝子組換え農作物を市民が考える会議
報告書

平成14年3月

発行 社団法人農林水産先端技術産業振興センター
〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目9番13号 三会堂ビル7階
TEL : 03-3586-8644
FAX : 03-3586-8277
URL : <http://web.staff.or.jp/>

